

投資信託に関するアンケート調査 報告書

2023年1月

＜目 次＞

1. 調査計画の概要	3
2. 調査結果の要約	6
3. 回答者のプロフィール	14
(1)性別・年代〔F1〕〔F2〕	15
(2)職業〔F3〕	17
(3)金融資産の保有経験〔Q1〕	19
(4)投資信託の保有状況〔Q2〕	20
(5)世帯年収〔F4①〕	22
(6)個人年収〔F4②〕	24
(7)保有金融資産額〔F5〕	25
(8)老後の資産形成〔Q30〕	27
4. 投資信託保有状況（現在保有層）	29
(1)投資信託の保有口座〔Q3〕	30
(2)投資信託の保有種類〔Q6〕	32
(3)投資信託の保有金額〔Q7〕	33
(4)現在保有している投資信託の本数〔Q4〕	34
(5)投資信託商品の直近購入時期〔Q5〕	35
(6)投資信託の積立投資の利用状況〔Q18〕	36
(7)毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20〕	38

<目 次>

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）	43
(1)投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8〕	44
(2)投資信託の購入目的〔Q9〕	46
(3)投資信託購入時参考情報〔Q11〕	48
(4)投資信託購入の際の重視点〔Q10〕	50
(5)分配金の特徴認知状況〔Q13〕	52
(6)償還・売却資金の流出先〔Q14〕	54
(7)投資信託の優れていると感じる点〔Q15〕	56
(8)投資信託で不満を感じる点〔Q16〕	58
(9)トータルリターンの把握状況〔Q24〕	60
6. 投資信託保有未経験者の状況	62
(1)投資信託の非購入理由〔Q26〕	63
(2)投資信託購入検討のきっかけ〔Q27〕	65
7. 投資信託全般に関する状況（全体）	67
(1)投資信託の商品特徴認知状況〔Q12〕	68
(2)毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21〕	71
(3)毎月分配型投資信託商品の魅力点〔Q22〕	73
(4)毎月分配型投資信託商品の非魅力点〔Q23〕	75
(5)積立投資プランの内容認知〔Q19〕	77
(6)投資信託運用会社の重視点〔Q17〕	78
(7)投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25〕	80
8. 投資意識に関する状況	82
(1)ESG・SDGs関連への投資意向〔Q28〕	83
(2)金融教育の経験／評価〔Q29①②〕	85

* 末尾添付資料：調査票

1. 調査計画の概要



1. 調査計画の概要

調査目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																						
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：NRCネットワークパネル） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。																																																																																						
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																						
調査対象	20～79歳の男女																																																																																						
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <p>* 性・年代・エリアで割付実施 （割付は令和3（2021）年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）</p> <p>* 職業条件による除外は実施していない。</p> <p><性・年代・エリアごとの回収数詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>首都圏</td> <td>428</td> <td>490</td> <td>629</td> <td>573</td> <td>429</td> <td>434</td> <td>2,983</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>194</td> <td>209</td> <td>283</td> <td>262</td> <td>216</td> <td>237</td> <td>1,401</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>714</td> <td>832</td> <td>1,090</td> <td>983</td> <td>1,000</td> <td>954</td> <td>5,573</td> </tr> <tr> <td colspan="2">男性計</td> <td>1,336</td> <td>1,531</td> <td>2,002</td> <td>1,818</td> <td>1,645</td> <td>1,625</td> <td>9,957</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>首都圏</td> <td>415</td> <td>462</td> <td>590</td> <td>529</td> <td>426</td> <td>502</td> <td>2,924</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>195</td> <td>212</td> <td>288</td> <td>269</td> <td>232</td> <td>285</td> <td>1,481</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>662</td> <td>792</td> <td>1,046</td> <td>985</td> <td>1,045</td> <td>1,108</td> <td>5,638</td> </tr> <tr> <td colspan="2">女性計</td> <td>1,272</td> <td>1,466</td> <td>1,924</td> <td>1,783</td> <td>1,703</td> <td>1,895</td> <td>10,043</td> </tr> <tr> <td colspan="2">TOTAL</td> <td>2,608</td> <td>2,997</td> <td>3,926</td> <td>3,601</td> <td>3,348</td> <td>3,520</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。 首都圏：東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,907サンプル 阪神圏：大阪、京都、兵庫、奈良／計2,882サンプル その他地域：上記以外の都道府県／計11,211サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	428	490	629	573	429	434	2,983	阪神圏	194	209	283	262	216	237	1,401	その他地域	714	832	1,090	983	1,000	954	5,573	男性計		1,336	1,531	2,002	1,818	1,645	1,625	9,957	女性	首都圏	415	462	590	529	426	502	2,924	阪神圏	195	212	288	269	232	285	1,481	その他地域	662	792	1,046	985	1,045	1,108	5,638	女性計		1,272	1,466	1,924	1,783	1,703	1,895	10,043	TOTAL		2,608	2,997	3,926	3,601	3,348	3,520	20,000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																															
男性	首都圏	428	490	629	573	429	434	2,983																																																																															
	阪神圏	194	209	283	262	216	237	1,401																																																																															
	その他地域	714	832	1,090	983	1,000	954	5,573																																																																															
男性計		1,336	1,531	2,002	1,818	1,645	1,625	9,957																																																																															
女性	首都圏	415	462	590	529	426	502	2,924																																																																															
	阪神圏	195	212	288	269	232	285	1,481																																																																															
	その他地域	662	792	1,046	985	1,045	1,108	5,638																																																																															
女性計		1,272	1,466	1,924	1,783	1,703	1,895	10,043																																																																															
TOTAL		2,608	2,997	3,926	3,601	3,348	3,520	20,000																																																																															
調査時期	2022年9月14日（水）～9月21日（水）																																																																																						
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																						
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター																																																																																						

<グラフ・表・コメントについて>

- ・ 本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、数値を足し上げた際に内訳の合計が100%ちょうどにならない場合がある。また、小計においても、内訳を足し上げた数値と誤差が生じる場合がある。
- ・ グラフ、数表上の数値は特に断りが無い限りは%値となる。また“n”は各属性の実数(サンプル数)を表しており、n数が少ない属性(30未満)のデータをみる際は、あくまで参考値として捉えるように注意する必要がある。

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考	
基本軸 1	性別	1 男性	F1の調査結果から作成	
		2 女性		
	年代別	1 20代	F2の調査結果から作成	
		2 30代		
		3 40代		
		4 50代		
		5 60代		
		6 70代		
	世帯年収別	1 100万円未満	F4①の調査結果から作成	
		2 ~300万円		
		3 ~500万円		
		4 ~1,000万円		
		5 1,000万円以上		
	基本軸 2	投資信託 保有状況別	1 現在保有層	Q2で投資信託を「1.現在保有している」回答者
			2 保有経験層（現在非保有）	Q2で投資信託を「2.以前保有していたが、現在は保有していない」回答者
3 保有未経験層（金融資産保有経験有）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「1.保有したことがある」回答者	
4 保有未経験層（金融資産保有経験無）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「2.保有したことはない」回答者	

2. 調査結果の要約

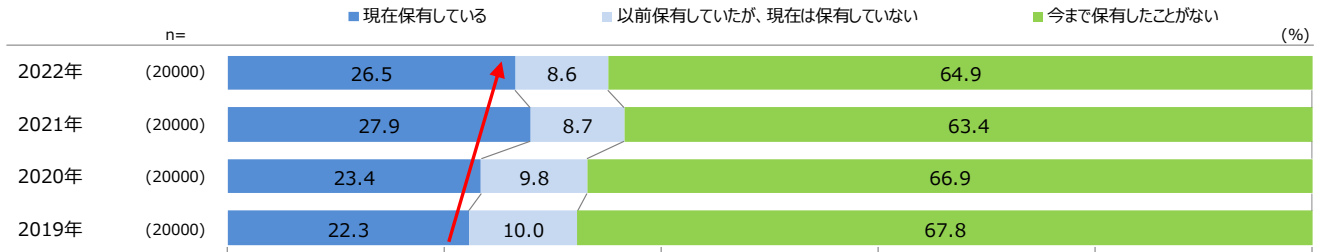


2. 調査結果の要約

投資信託の保有状況・保有金額

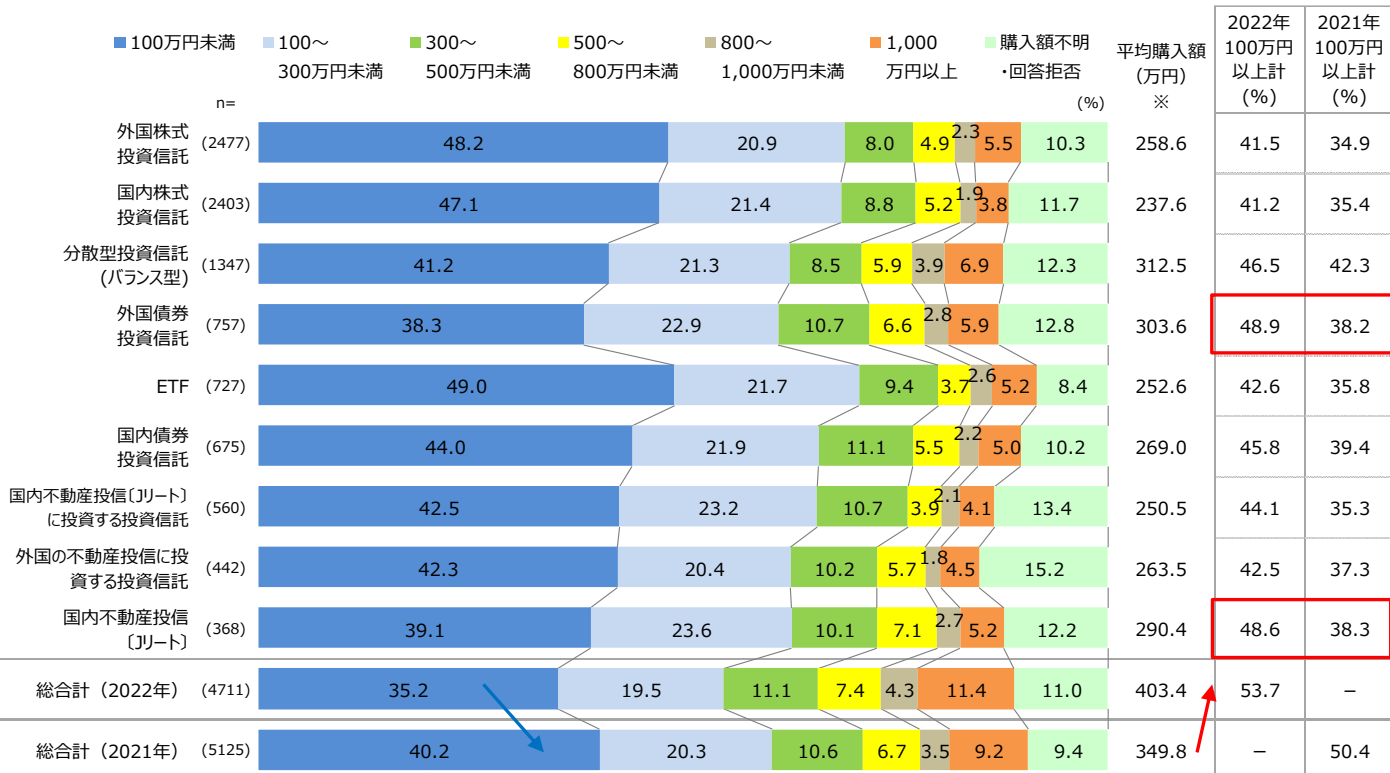
- 投資信託の保有状況では「投資信託現在保有層」が26.5%。前回より1.4ポイント減少しているものの、2019年の22.3%、2020年の23.4%と比較し、引き続き、増加傾向となっている。

＜投資信託の保有状況＞投資信託の保有状況（Q2）＞【ベース:全数】(P.20)



- 現在保有している投資信託の平均保有額は、総合計では403.4万円。前回より53.6万円と大幅に増加し、保有金額ごとの内訳を見ると「100万円未満」が35.2%で前年比5.0ポイント減少し、「100～300万円未満」から「1,000万円以上」の計が4.1～10.7ポイント増加。特に「外国債券投資信託」「国内不動産投信(Jリート)」が10ポイント以上増加している。

＜投資信託の保有金額（Q7）＞【各種類現在保有層ベース】(P.33)



※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円 / 800～1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

2. 調査結果の要約

投資信託の保有口座

■ 投資信託の保有口座は「特定口座もしくは一般口座などの通常の課税口座」が最も高く（63.5%）、「NISA」「つみたてNISA」が30%台で続く。前回より「NISA」が3.0ポイント増加し、「つみたてNISA」「ポイント投資/運用口座」が3.1～3.2ポイント減少。

- ・「NISA」は前回に比べて全年代で増加。一方で、20代は「つみたてNISA」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」「企業型DC（企業型確定拠出年金）」も前回より増加。（P.30、P.31）

※選択肢「企業型DC（企業型確定拠出年金）」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」は、年金受取期間に投資信託の運用を継続している者が含まれる
 ※選択肢「ポイント投資/運用の口座」は2021年より聴取

<投資信託の保有口座（Q3）>【現在保有層ベース】（P.30、31）

		特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo （個人型 確定拠出 年金）	ポイント投資/ 運用の口座	企業型DC （企業型 確定拠出 年金）	その他	わからない・ 忘れた	(%)
	n=									
2022年	(5302)	63.5	38.1	32.0	15.5	14.4	9.4	0.8	2.3	
2021年	(5584)	62.4	35.1	35.2	16.6	17.5	9.8	0.8	1.7	
2020年	(4675)	65.1	40.4	24.4	13.5	-	9.6	1.0	3.4	

		特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo （個人型 確定拠出 年金）	ポイント投資/ 運用の口座	企業型DC （企業型 確定拠出 年金）	その他	わからない・ 忘れた	(%)
	n=									
20代	2022年	(587)	50.1	25.9	65.6	19.4	18.7	16.4	0.7	1.2
	2021年	(638)	47.0	22.4	61.3	16.0	22.3	14.4	0.5	1.6
30代	2022年	(802)	52.9	28.6	55.5	22.9	23.6	15.2	0.5	1.1
	2021年	(1012)	56.1	27.4	54.5	24.7	28.3	15.7	0.7	1.2
40代	2022年	(990)	57.7	31.7	39.5	24.1	20.7	11.9	1.1	2.0
	2021年	(1174)	60.4	28.6	44.8	25.6	23.3	13.1	0.4	1.2
50代	2022年	(959)	64.4	37.0	27.1	22.6	14.8	11.5	0.4	1.7
	2021年	(916)	62.2	35.5	27.2	22.1	16.5	9.5	1.3	1.4
60代	2022年	(986)	73.8	48.3	13.7	6.4	7.4	4.1	0.8	3.2
	2021年	(938)	69.7	45.9	16.3	5.9	9.1	4.4	0.9	2.3
70代	2022年	(978)	75.1	50.4	8.4	0.6	4.6	1.1	1.1	3.7
	2021年	(906)	75.4	49.6	10.6	2.0	4.1	1.3	1.0	2.6

2. 調査結果の要約

投資信託の保有種類

- 保有している投資信託の種類は「外国株式投資信託」（46.7%）、「国内株式投資信託」（45.3%）の順に高い。
- 「外国株式投資信託」は前回より減少するものの、2018年以降、堅調な水準を維持。一方で、「国内株式投資信託」は2019年以降、低下傾向が続いている。
- 投資信託の平均保有数は2.07種類となっている。前回より僅かに減少。

<投資信託の保有種類（Q6）>【現在保有層ベース】（P.32）

	外国株式 投資信託	国内株式 投資信託	分散型 投資信託 (バランス型)	外国債券 投資信託	ETF	国内債券 投資信託	国内不動産投 信(リート)に 投資する投資 信託	外国の 不動産投信 に投資する 投資信託	国内不動産投 信 (リート)	その他	不明・ 回答拒否	(%)
2022年 (n=5302)	46.7	45.3	25.4	14.3	13.7	12.7	10.6	8.3	6.9	0.6	10.8	
2021年 (n=5584)	53.9	50.2	22.8	14.9	11.6	15.1	9.8	7.8	5.4	0.6	8.0	
2020年 (n=4675)	43.6	54.4	25.6	17.7	9.5	18.4	12.4	9.2	5.8	0.4	9.2	
2019年 (n=4452)	37.2	58.1	27.8	20.1	8.5	19.6	15.5	10.9	6.8	0.5	8.7	
2018年 (n=2936)	29.8	46.8	26.7	18.7	4.8	16.5	11.3	8.9	5.6	0.4	15.7	

※選択肢「分散型投資信託(バランス型)」は2022年(バランス型)を追記して聴取

【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	外国株式 投資信託	国内株式 投資信託	分散型 投資信託 (バランス型)	外国債券 投資信託	ETF	国内債券 投資信託	国内 不動産投信 (リート)に 投資する 投資信託	外国の 不動産投信 に投資する 投資信託	国内不動産 投信 (リート)	その他	平均保有数 (種類) ※2
2022年 TOTAL(n=4730) ※1	2477	2403	1347	757	727	675	560	442	368	33	2.07
2021年 TOTAL(n=5140) ※1	3012	2803	1273	832	650	841	547	434	303	31	2.09
2020年 TOTAL(n=4247) ※1	2039	2541	1195	827	443	861	581	430	273	20	2.17

(2022年/2021年/2020年)

※1 投信保有者(n=5302/5584/4675)から「種類不明・回答拒否」(n=572/444/428)を控除。

※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、(n=4730/5140/4247)で割って算出。

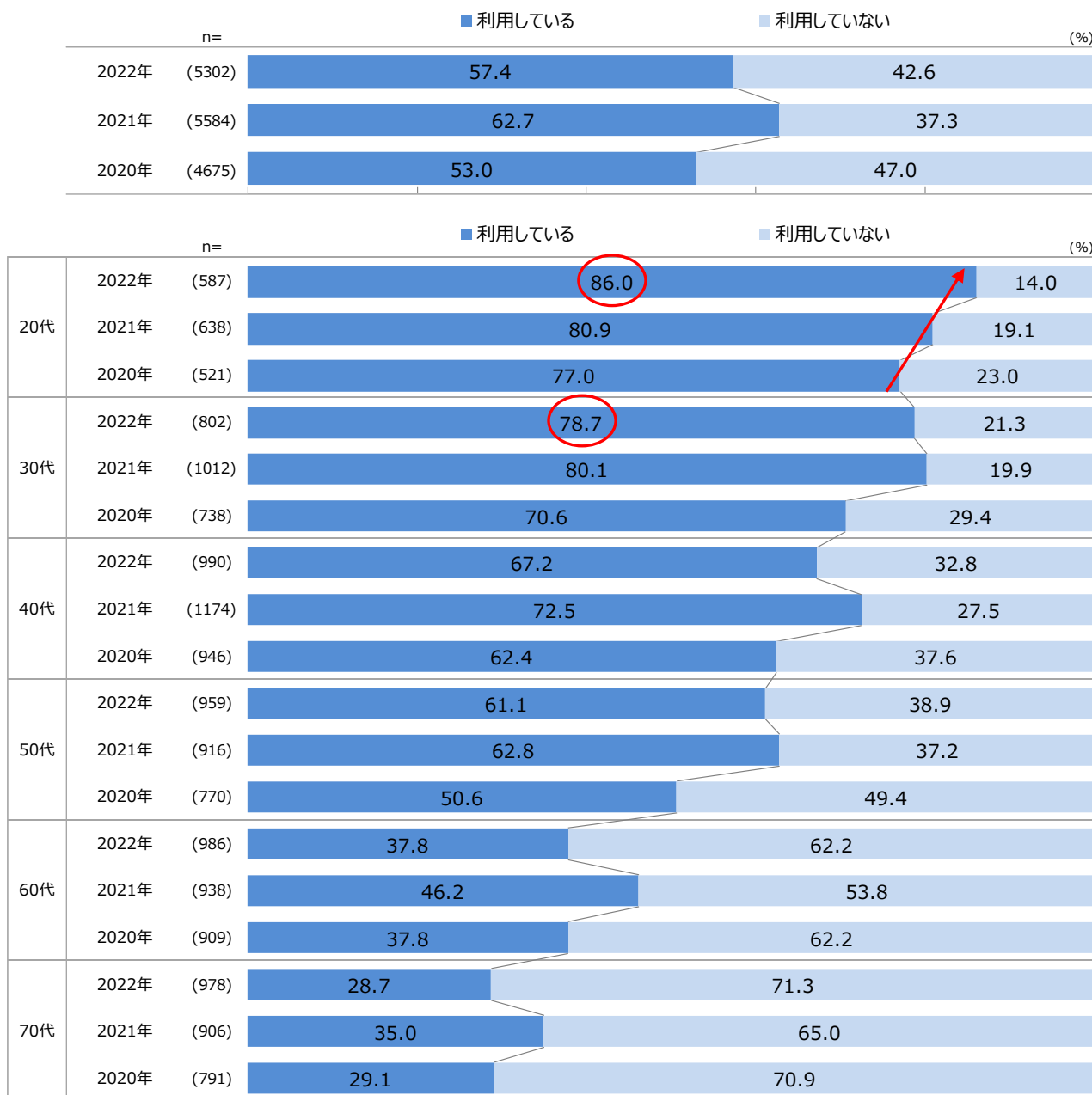
2. 調査結果の要約

投資信託の積立投資の利用状況

■ 積立投資利用率は57.4%。前回と比べて5.3ポイント減少している。

- ・若年層ほど積立投資利用率は高く、特に20・30代は78.7～86.0%と高い。
- ・20代、30代を中心に積立投資の利用率は増加傾向。20代は前回より5.1ポイント増加している。（P.36、37）

<投資信託の積立投資の利用状況（Q18）>【ベース:現在保有層】(P.36、37)



2. 調査結果の要約

投資信託の購入目的、老後の資産形成

■ 投資信託の購入目的は「老後の生活資金」(54.6%)が最も高く、2019年の調査開始以降、上昇傾向が続く。

・年代別で見ると、20代、50代、60代において増加傾向となっている。(P.46)

<投資信託の購入目的 (Q9) >【現在保有層・保有経験層ベース】(P.46)

n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払いに備えるため	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	FIREのため	高額商品の購入資金	投資で社会を良くすることができるため	その他	目的はないが資金を増やしたい
2022年 (7018)	54.6	29.8	15.2	11.7	9.4	8.3	6.8	6.3	5.8	3.9	2.6	1.0	17.1
2021年 (7317)	54.5	24.1	16.0	9.2	8.5	8.2	7.7	5.7	5.7	3.2	2.1	1.0	14.6
2020年 (6626)	51.3	24.6	15.1	9.3	7.9	7.6	7.1	5.1	-	3.7	-	1.2	16.4
2019年 (6449)	50.1	24.8	14.0	9.8	6.9	6.4	7.8	5.0	-	3.5	-	1.0	18.0

※選択肢「結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払いに備えるため」は2021年までの「結婚資金」「住宅資金」を統合して聴取（2021年までは合算のため参考値）
 ※「投資で社会を良くすることができるため（ESG投資）」「FIRE（経済的自立・早期リタイア）のため」は2021年より聴取

	(2022年)	(2021年)	(2020年)	(2019年)
TOTAL	n= (7018) 54.6	n= (7317) 54.5	n= (6626) 51.3	n= (6449) 50.1
20代	(659) 41.3	(744) 38.8	(635) 37.5	(476) 33.2
30代	(887) 50.6	(1112) 56.4	(853) 49.7	(791) 46.4
40代	(1188) 52.5	(1400) 57.6	(1204) 52.6	(1123) 47.4
50代	(1222) 59.3	(1198) 56.3	(1112) 54.5	(1075) 51.2
60代	(1431) 60.2	(1387) 56.6	(1432) 55.7	(1534) 55.0
70代	(1631) 55.3	(1476) 54.7	(1390) 50.6	(1450) 53.7

■ 老後の資産形成として重視している制度は「個人年金保険」(13.1%)、「企業型確定拠出年金(DC)」(5.3%)、「個人型確定拠出年金(iDeCo)」(5.2%)、「厚生年金基金」(4.7%)の順に高い。

<老後の資産形成 (Q30) >【全数ベース】(P.27)

n=	個人年金保険	企業型確定拠出年金(DC)	個人型確定拠出年金(iDeCo)	厚生年金基金	国民年金基金	退職一時金制度	企業型確定給付年金(DB)	退職等年金給付	国民年金付加保険料	小規模企業共済	その他	あてはまるものはない
2022年 (20000)	13.1	5.3	5.2	4.7	3.3	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	58.8	
2021年 (20000)	13.2	4.7	4.9	9.0	4.0	1.9	2.6	1.7	2.3	2.3	54.5	

2. 調査結果の要約

投資信託の非購入理由、投資信託の購入検討のきっかけ

■ 投資信託の非購入理由は「投資の知識がないので」「興味がない」「損をしそうで怖い」が上位。また、「投資の知識がないので」は前回より11.5ポイント増加。(※)

- ・「元本保証がない」という回答は年代が下がるほど低くなる傾向にあり、若い世代ほどリスク許容度が高いと考えられる。(P.63)

<投資信託の非購入理由 (Q26) >【金融資産保有未経験層を含む】(P.63)

投資の知識がない そもそも興味がない 損をしそうで怖い まとまった資金がない 元本保証がない 投資信託の仕組みがよくわからない 手数料が高い なんとなく機会がなかった 商品の種類が多すぎて自分で選択できない 購入するのにかかる時間が長い 投資信託の存在を知らなかった 投資信託の運用方法がいい 友人・知人から投資について良い話を聞かないから 家族から投資について良い話を聞かないから その他

年代別(2022年)	n	理由 (%)															
		投資の知識がない	そもそも興味がない	損をしそうで怖い	まとまった資金がない	元本保証がない	投資信託の仕組みがよくわからない	手数料が高い	なんとなく機会がなかった	商品の種類が多すぎて自分で選択できない	購入するのにかかる時間が長い	投資信託の存在を知らなかった	投資信託の運用方法がいい	友人・知人から投資について良い話を聞かないから	家族から投資について良い話を聞かないから	その他	
2022年	(12982)	51.4	35.2	27.1	22.1	20.9	16.3	12.6	6.9	6.2	4.1	3.2	2.7	2.5	2.4	0.7	
2021年	(12683)	39.9	36.8	30.5	23.3	21.6	23.0	12.6	9.9	7.5	4.7	2.9	5.6	3.2	2.7	0.8	
2020年	(13374)	39.5	36.8	31.4	24.4	22.6	22.8	12.6	9.2	7.7	5.1	3.6	5.6	-	-	0.8	
20代	(1949)	48.4	34.0	24.7	22.4	9.9	18.9	8.8	10.3	5.1	4.6	1.8	4.4	2.4	2.0	0.6	
30代	(2110)	52.8	31.5	27.5	23.3	13.4	18.7	10.2	7.3	5.5	4.4	3.2	3.7	2.1	2.8	0.3	
40代	(2738)	53.4	30.4	28.2	22.8	19.2	17.3	13.2	7.2	6.6	4.9	3.0	2.8	2.0	2.4	0.7	
50代	(2379)	52.4	33.1	29.3	22.7	25.3	14.6	14.5	6.3	6.2	4.5	3.0	2.2	2.1	2.0	0.5	
60代	(1917)	52.8	39.5	27.8	21.5	29.7	13.6	15.1	4.3	6.0	3.4	3.4	1.9	2.2	2.5	0.8	
70代	(1889)	47.5	45.8	24.3	19.6	28.8	14.3	13.2	5.7	7.4	2.3	4.7	1.3	4.3	3.0	1.2	

※選択肢「家族から投資について良い話を聞かないから」「友人・知人から投資について良い話を聞かないから」は2021年より聴取
 ※2022年は「投資の知識がないので」を選択肢の先頭に移動したため、順序効果の影響も考えられる。

■ 投資信託購入検討のきっかけは「保有しているポイントで投資／運用ができるなら」(27.0%)が前回同様に最も高く、若年層ほど高くなる傾向。

- ・年代別では、若年層ほど「保有しているポイントで投資／運用ができるなら」「手取り収入が増えたら」「貯蓄額が一定額に達したら」が高くなる傾向があり、金銭的な余裕があれば投資信託を買ってみたいという回答が多い。(P.65)

<投資信託購入検討のきっかけ (Q27) >【金融資産保有未経験層を含む】(P.65)

保有しているポイントで投資／運用ができるなら 金融や投資を勉強して理解できたら 手取り収入が増えたら 貯蓄が一定額に達したら 低リスクの投資信託商品が充実してきたら 家族に勧められたら 少額で積立ができる商品が充実してきたら 初心者向けセミナーなど、説明が充実している機会があれば 金融機関などで、専門知識を教えてもらえたら 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら 経済が向上し、値上がり期待が強いなら 税制上の優遇措置が、より広がり、充実してきたら 友人・知人に勧められたら 退職金・相続などで、臨時収入があったら 職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら その他

年代別(2022年)	n	きっかけ (%)															
		保有しているポイントで投資／運用ができるなら	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	家族に勧められたら	少額で積立ができる商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明が充実している機会があれば	金融機関などで、専門知識を教えてもらえたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が向上し、値上がり期待が強いなら	税制上の優遇措置が、より広がり、充実してきたら	友人・知人に勧められたら	退職金・相続などで、臨時収入があったら	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	その他
2022年	(12982)	27.0	17.1	16.8	14.5	11.6	10.9	10.6	9.6	9.4	8.9	8.8	6.8	6.0	3.5	2.6	9.0
2021年	(12683)	27.1	20.9	17.5	16.2	14.3	11.2	-	11.7	11.2	9.7	9.2	6.0	7.1	4.0	2.7	8.8
2020年	(13374)	-	22.1	20.5	17.6	16.7	20.1	-	13.4	12.4	11.5	11.7	8.9	20.1	5.1	10.0	9.3
20代	(1949)	32.4	19.2	22.3	19.1	8.4	16.3	8.4	12.3	12.6	5.6	6.7	4.1	9.2	2.7	3.8	4.5
30代	(2110)	31.8	18.8	21.0	18.7	10.5	15.5	10.1	10.9	9.6	7.9	8.3	5.9	9.6	2.8	3.0	4.4
40代	(2738)	29.9	19.0	19.6	16.8	12.7	11.2	11.4	9.8	9.3	10.9	8.5	6.6	6.5	3.8	3.4	5.1
50代	(2379)	27.2	15.4	17.2	12.7	12.3	8.7	10.6	8.4	8.8	9.4	8.4	7.9	5.2	4.0	2.4	8.2
60代	(1917)	21.1	13.8	10.4	9.9	13.5	7.1	11.2	8.1	8.1	9.8	10.4	7.3	2.2	4.7	1.4	14.5
70代	(1889)	17.4	15.9	8.3	8.4	11.9	6.6	11.8	7.9	7.7	9.1	10.6	9.1	3.2	2.8	1.2	19.9

※選択肢「少額で積立ができる商品が充実してきたら」は2022年より聴取 ※「保有しているポイントで投資／運用ができるなら」は2021年より聴取
 ※「家族に勧められたら」「友人・知人に勧められたら」は、2020年までの「身近な人に勧められたら」を分割して聴取のため同じ数値

2. 調査結果の要約

金融教育

■金融教育の経験については「あてはまるものがない／お金の話に触れたことがない」が71.9%で最も高い。次いで、「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」(13.4%)「金融機関が主催のセミナー」(8.4%)が続く。

- 年代別では、若年層ほど「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」「高校や大学での講義」が高い。「金融機関が主催のセミナー」が60～70代が高い。(P.85)

<金融教育の経験 (Q29①) >【全数ベース】(P.85)

	n=	勤め先の企業での 確定拠出年金の 導入/継続/教育	金融機関が 主催のセミナー	ファイナンシャル プランナー（FP） への相談	高校や大学での 講義	金融機関以外が 主催のセミナー	その他	あてはまるものは ない／お金の話に ふれたことがない	(%)
2022年	(20000)	13.4	8.4	8.4	5.9	5.3	1.1	71.9	
2021年	(20000)	14.2	6.9	8.1	6.3	5.2	1.2	71.0	
年代別									
20代	(2608)	19.4	5.6	8.7	15.4	4.5	1.8	62.7	
30代	(2997)	16.9	5.1	10.0	8.6	4.6	1.1	68.9	
40代	(3926)	12.4	6.5	9.0	5.1	4.7	1.1	74.5	
50代	(3601)	12.6	7.2	8.0	3.6	4.9	0.8	74.7	
60代	(3348)	11.2	10.7	7.8	2.7	5.4	1.0	74.8	
70代	(3520)	9.6	14.7	6.8	2.7	7.5	1.1	72.9	

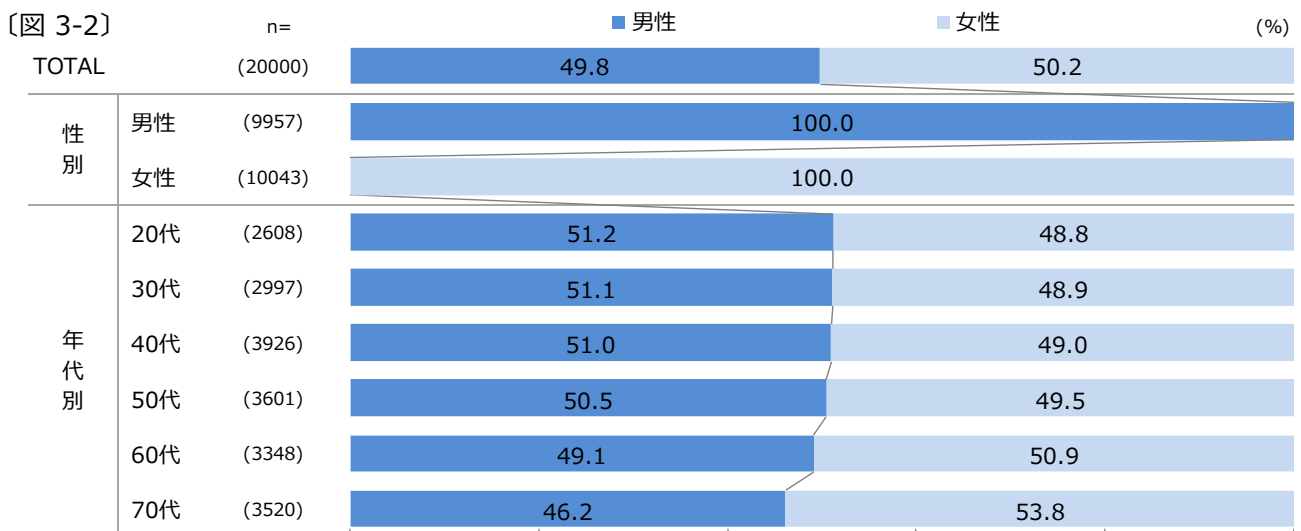
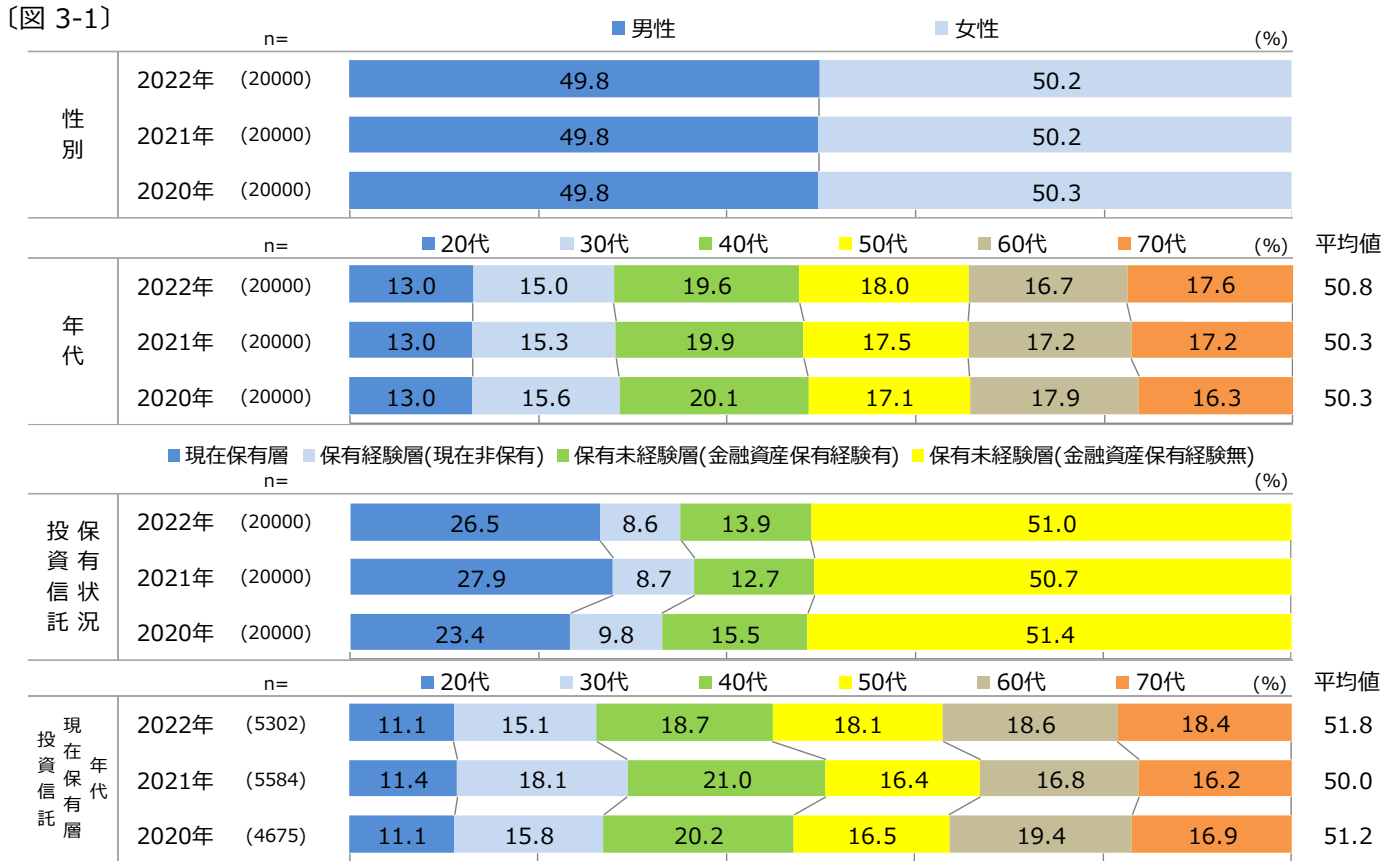
3. 回答者のプロフィール



3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔F1:単数回答・F2:自由記述回答〕

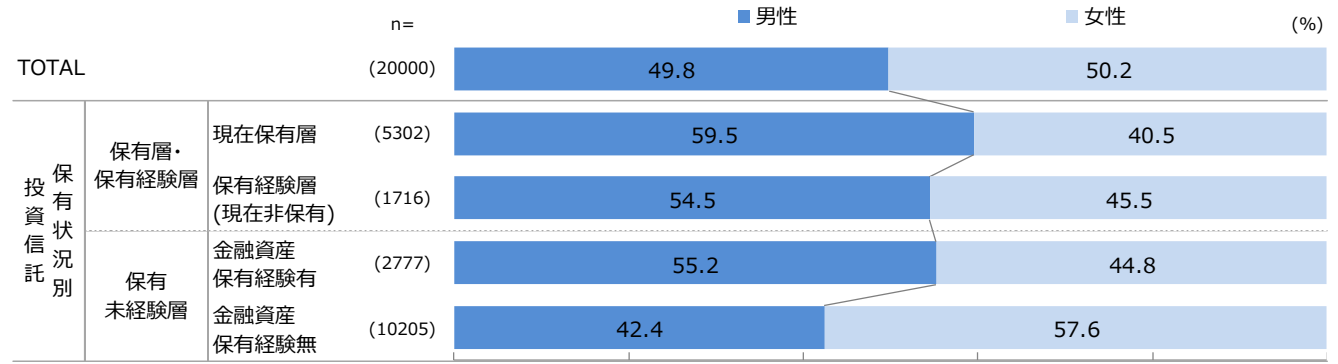
- 回答者の性別は「男性」が49.8%、「女性」が50.2%。年代では「40代」が19.6%で最も高く、平均年齢は50.8歳となる。
- また、投信現在保有層の年代構成をみると、「40代」が18.7%で最も高く、次いで「60代」が18.6%となる。前回に比べると30代が減少し、50～70代の保有率が増え、投信現在保有層の平均年齢は51.8歳と上昇した。〔図3-1〕



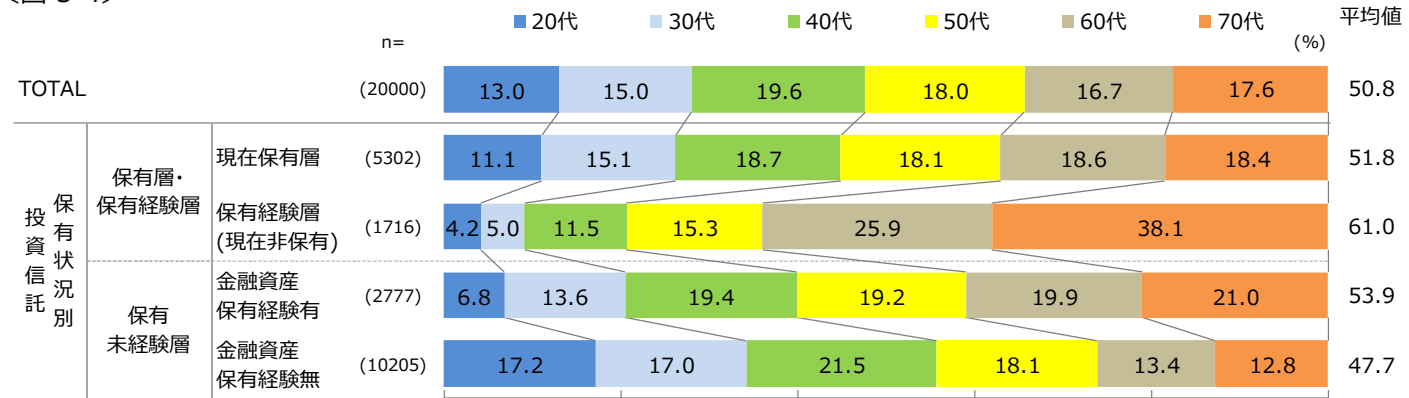
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔F1:単数回答・F2:自由記述回答〕

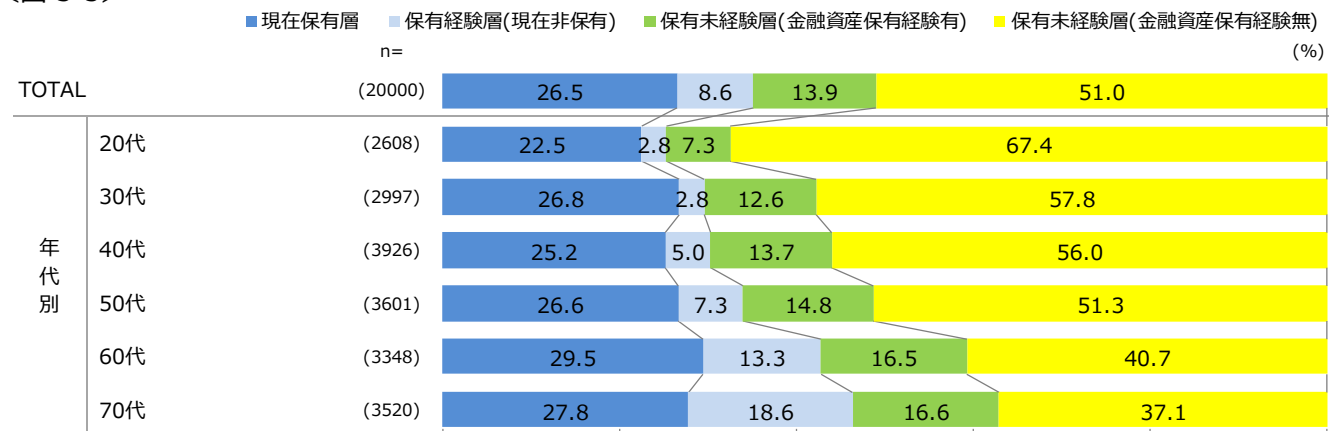
〔図 3-3〕



〔図 3-4〕



〔図 3-5〕

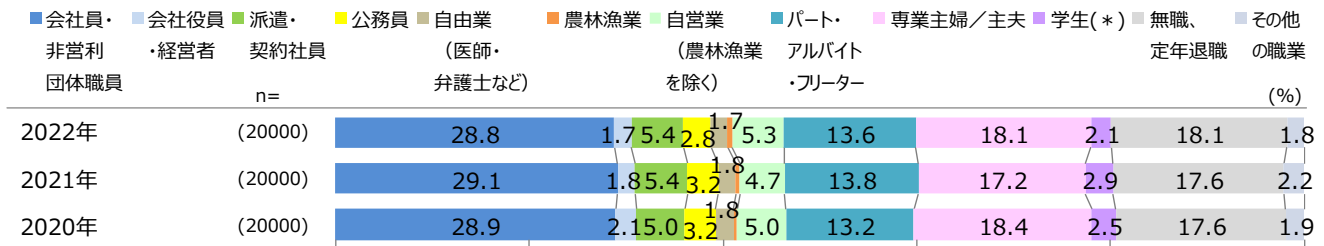


3. 回答者のプロフィール

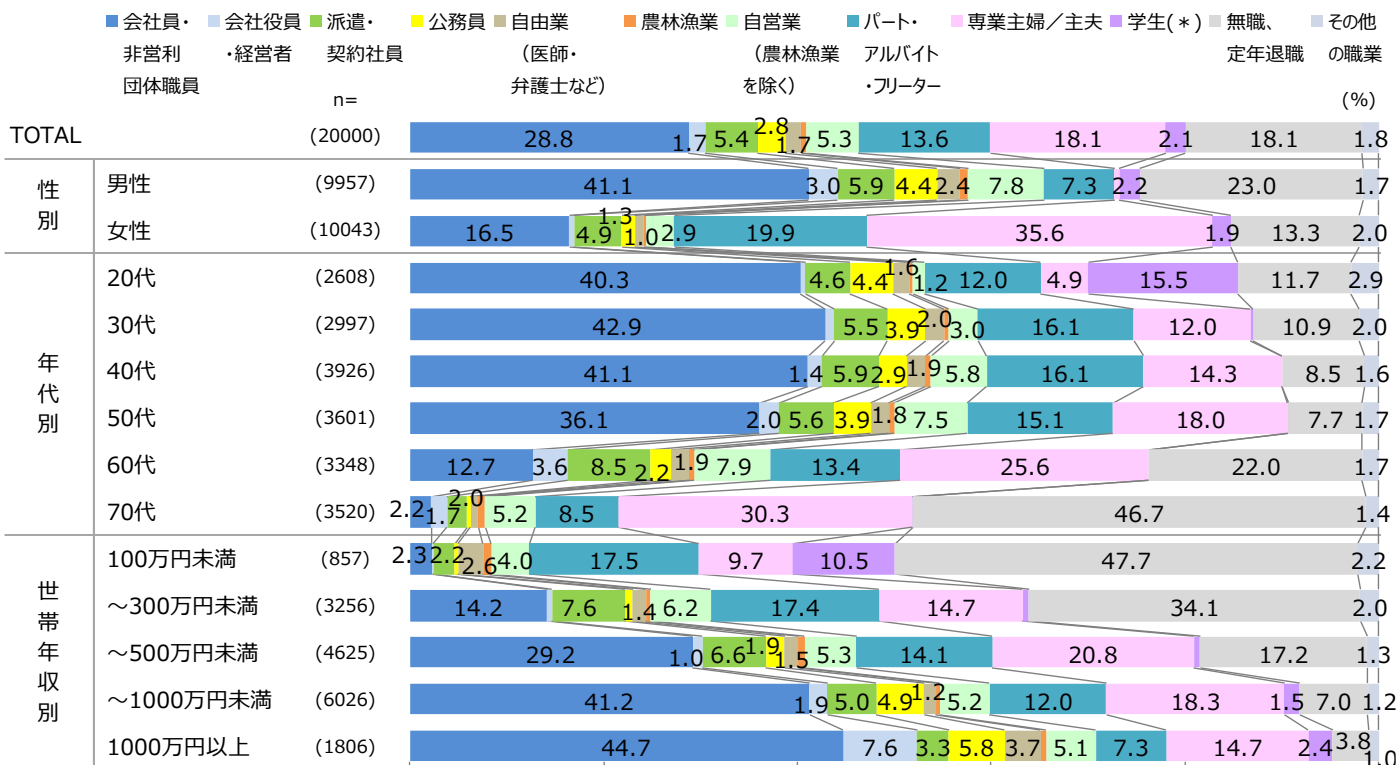
(2) 職業〔F3:単数回答〕

- 回答者の職業は、前回と同様に「会社員・非営利団体職員」(28.8%)が最も高く、〔図3-6〕世帯年収が高くなるにつれて増加する。〔図3-7〕
また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(7.6%)がやや高い。〔図3-7〕
- 投信保有状況別でみると、投信保有経験層では、「無職・定年退職」「専業主婦／主夫」が、投信現在保有層や投信保有未経験層に比べてやや多い。また、投信保有未経験層は、投信保有層・保有経験層に比べて「パート・アルバイト・フリーター」がやや多い。〔図3-8〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕



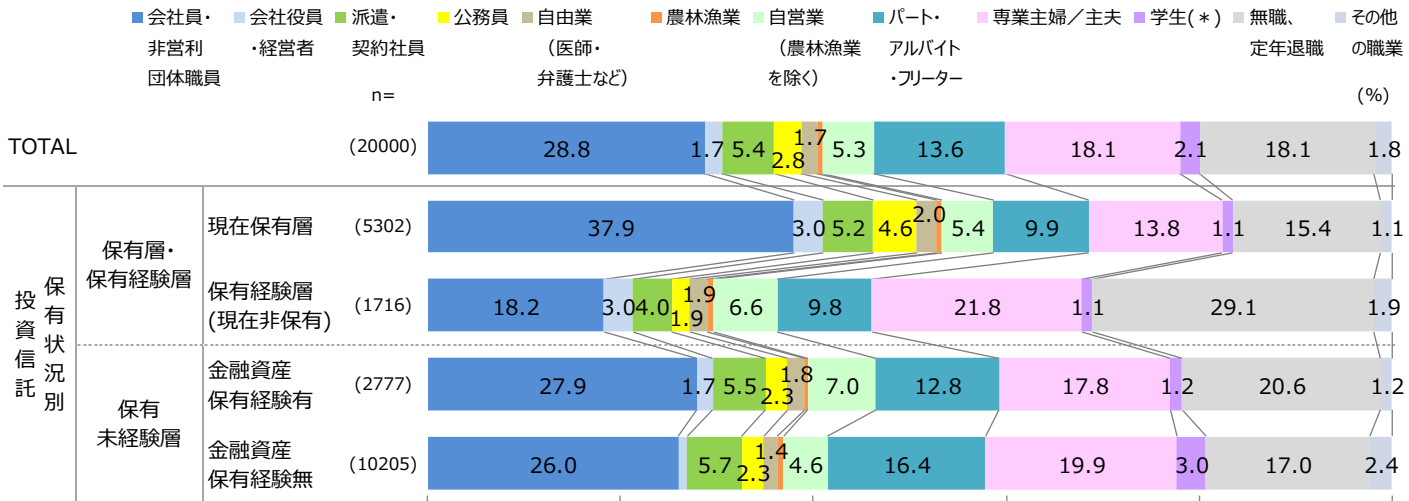
※1%未満は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

(2) 職業〔F3:単数回答〕

〔図 3-8〕



※1%未満は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

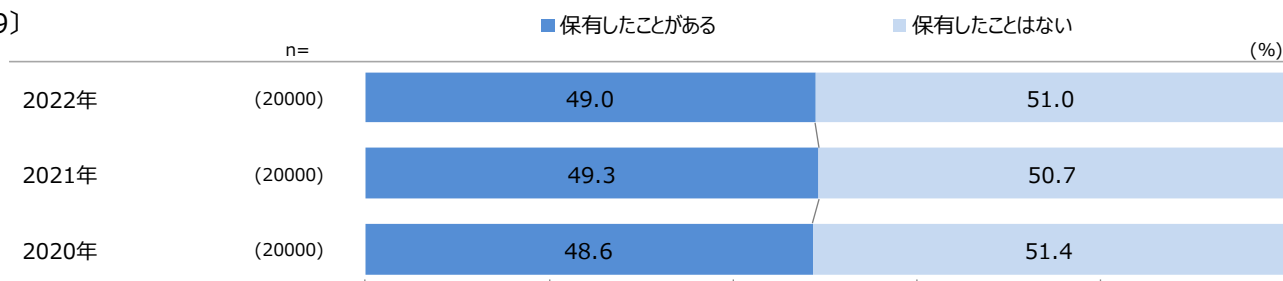
3. 回答者のプロフィール

(3) 金融資産の保有経験〔Q1:単数回答〕

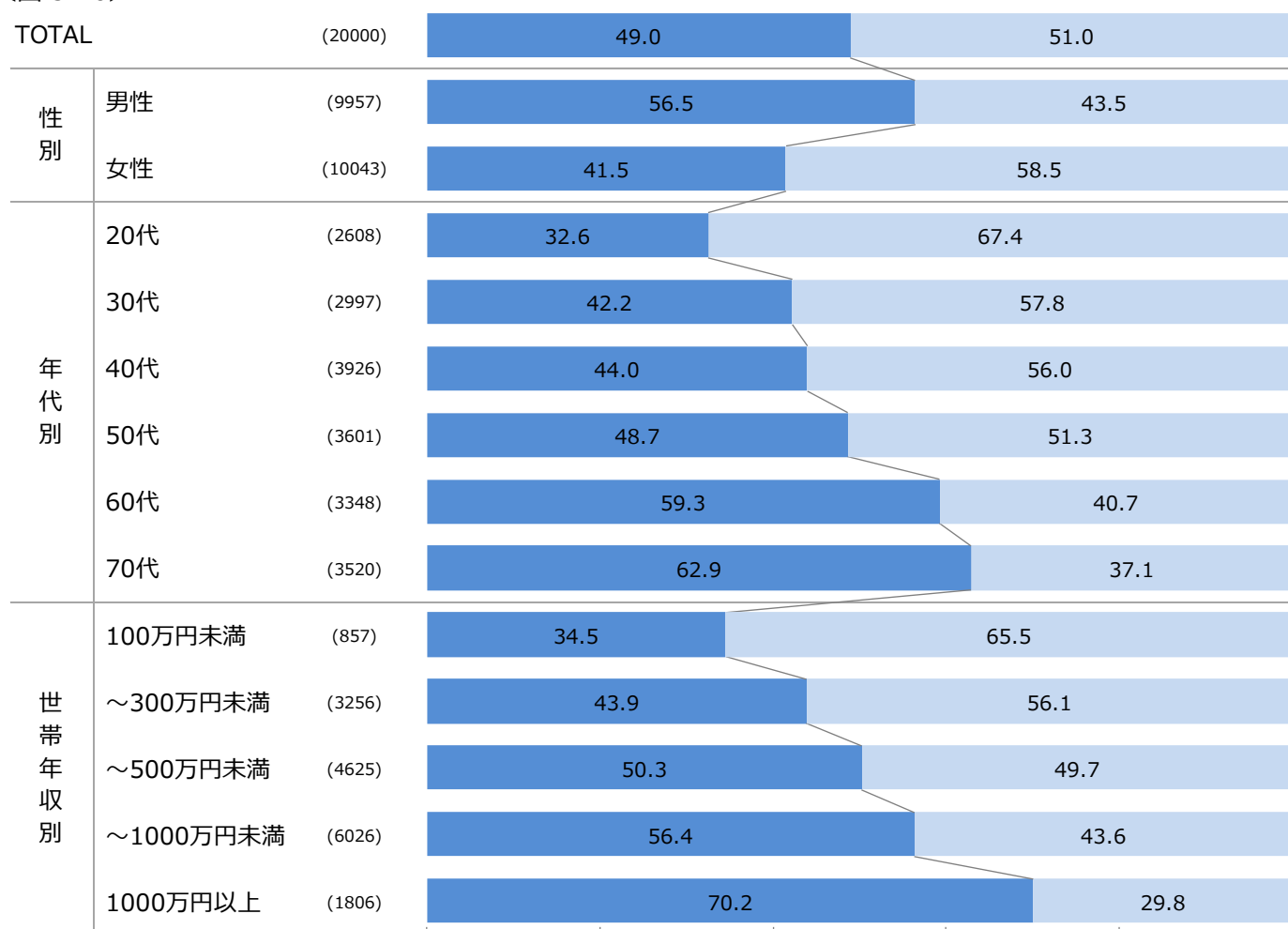
- 金融資産（※）の保有経験率は49.0%と約半数で、前回と同程度。〔図3-9〕
- 性別では男性(56.5%)の方が高く、また年代や世帯年収が高くなるにつれて保有経験率も高くなる。〔図3-10〕

※ 金融資産・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、REITなど。現金や円での預貯金、土地や不動産、保険は除く。

〔図 3-9〕



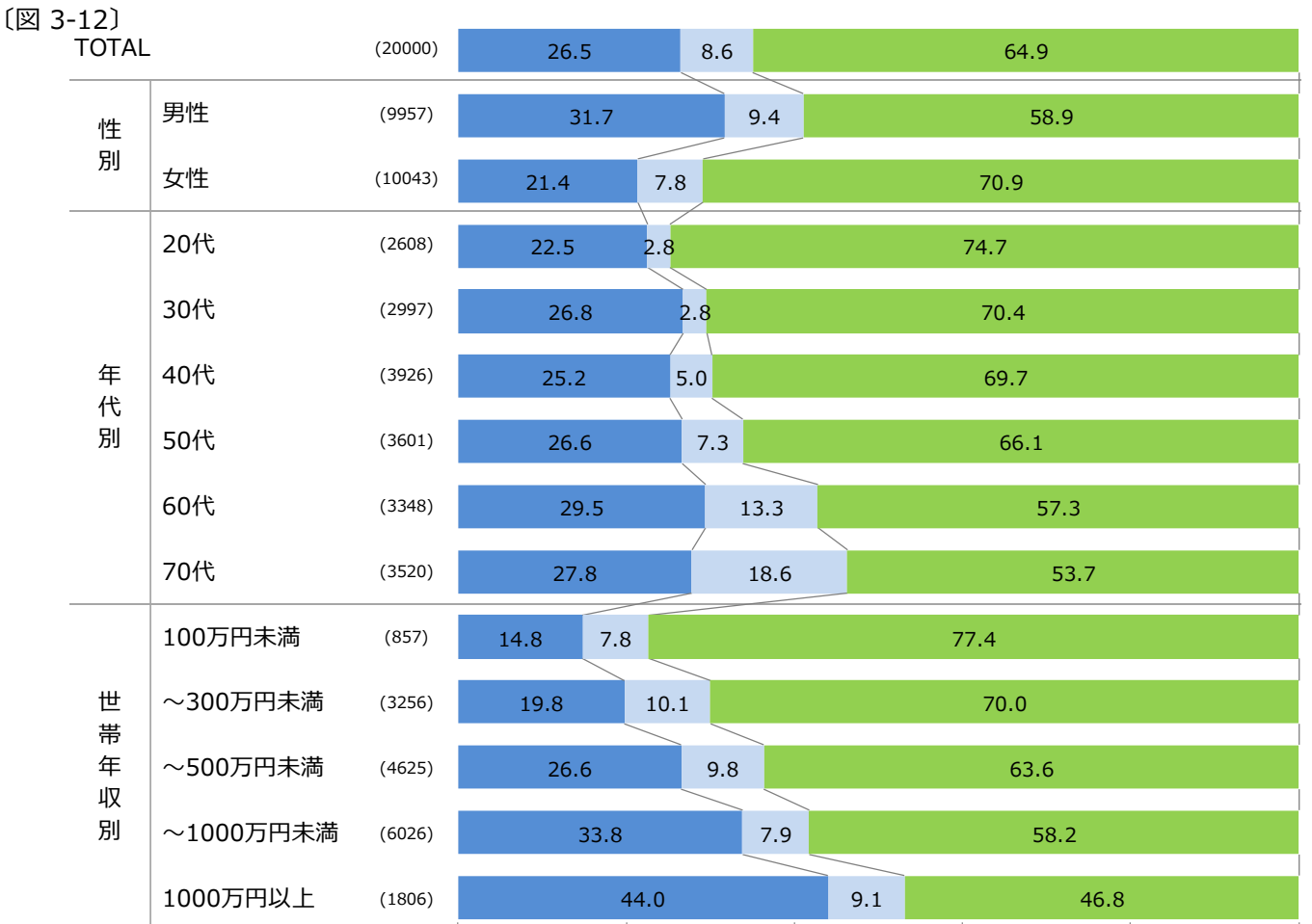
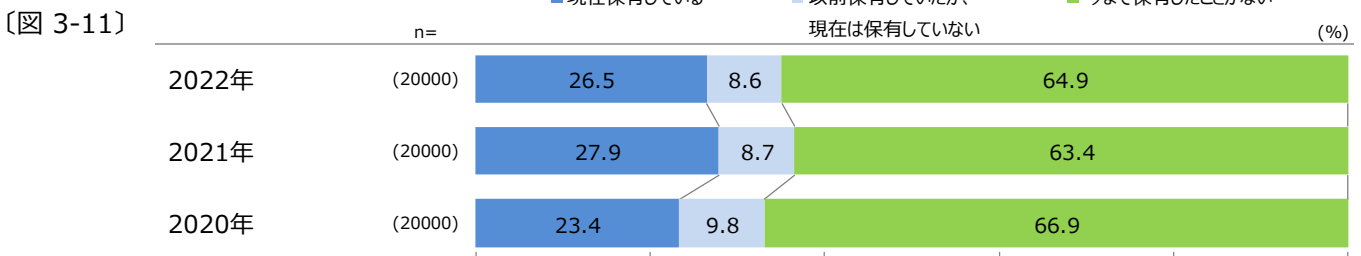
〔図 3-10〕



3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

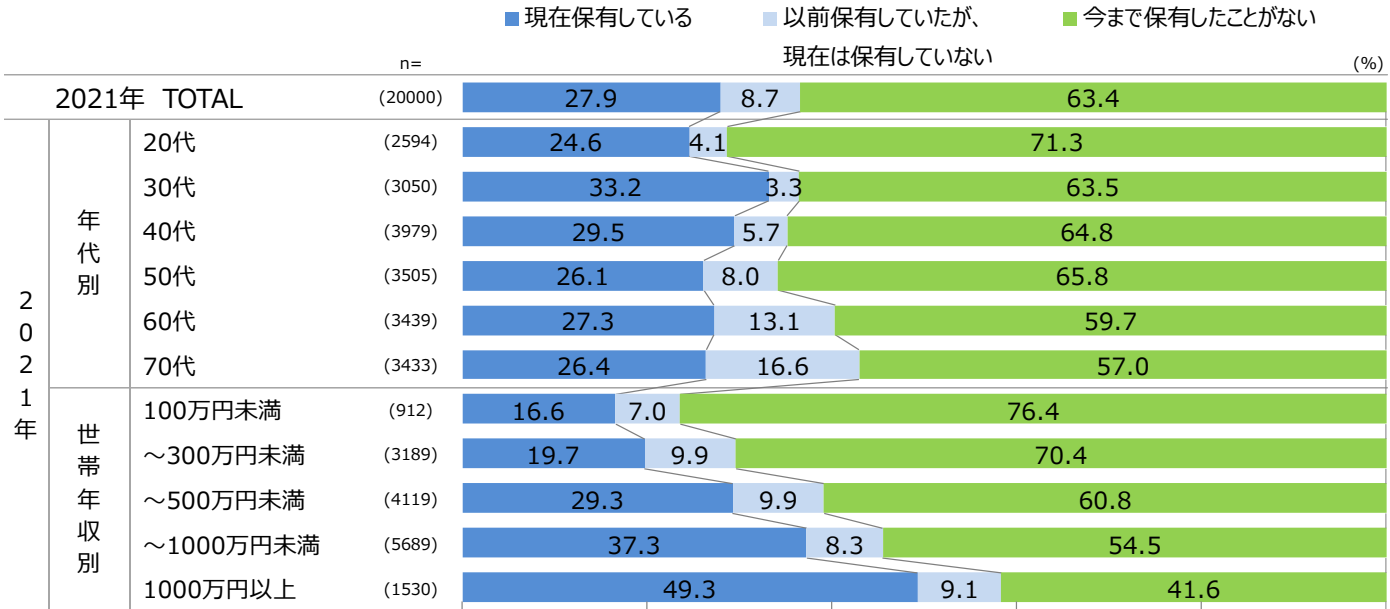
- 投資信託の保有状況は、「現在保有している」という“投信現在保有層”が26.5%、「以前保有していたが、現在は保有していない」との“投信保有経験層”が8.6%、「今まで保有したことがない」という“投信保有未経験層”64.9%で、“投信現在保有層”が前回より僅かに減少。〔図3-11〕
- 世帯年収が高いほど、“投信現在保有層”が増加する。〔図3-12〕
前回と比べて、40代以下で“投信現在保有層”が減少。特に30代は、6.4ポイント減少。〔図3-12・図3-13〕
“投信現在保有層”の年代構成比は、40代(18.7%)が最も高く、ついで60代(18.6%)が続く。50～70代の比率が前回より増加。30代は3.0ポイント、40代は2.3ポイント減少。〔図3-15〕



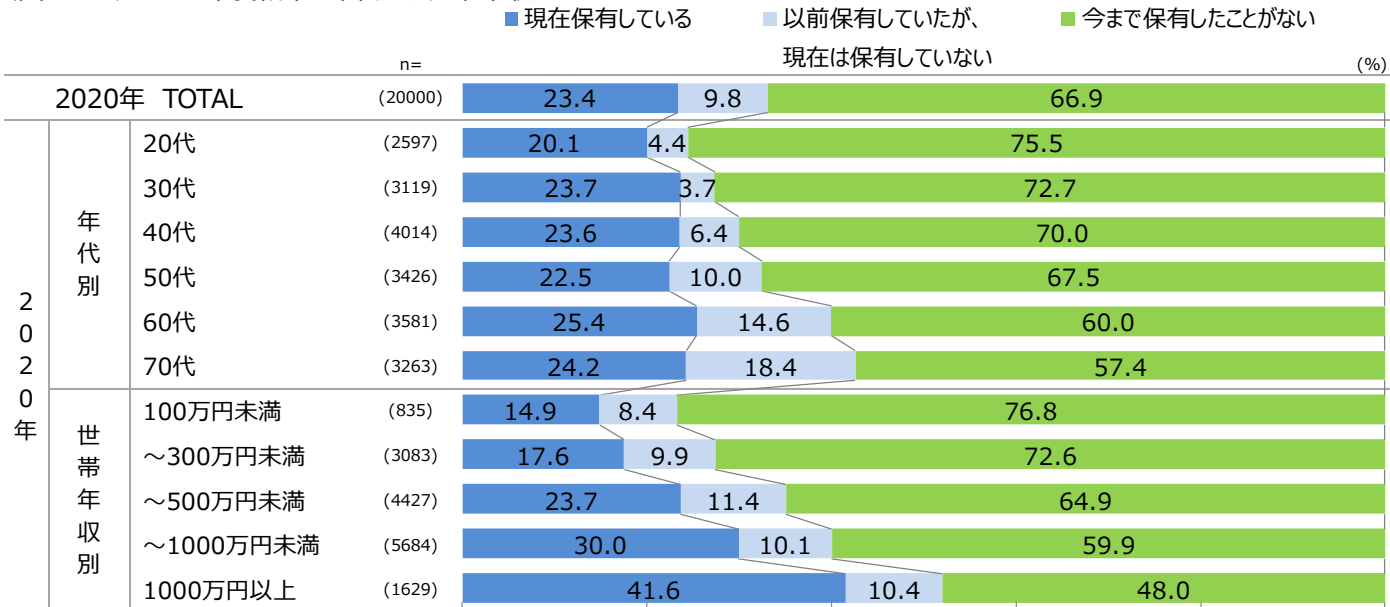
3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

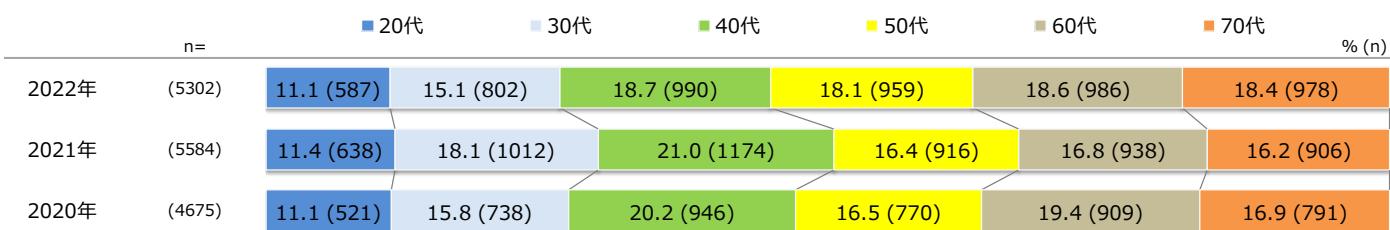
〔図 3-13〕 2021年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-14〕 2020年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-15〕 投信現在保有層の年代構成比（投資信託現在保有者）

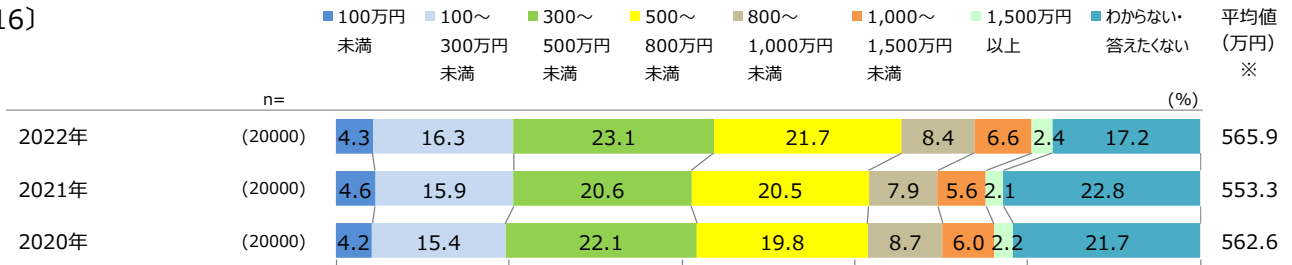


3. 回答者のプロフィール

(5) 世帯年収〔F4①：単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」(23.1%)、「500～800万円未満」(21.7%)が高く、『800万円未満』合計で65.4%を占める。また、平均値は「565.9万円」と前回より12.6万円高い。〔図3-16〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層の平均世帯年収は全体平均より101万円高い。〔図3-18〕

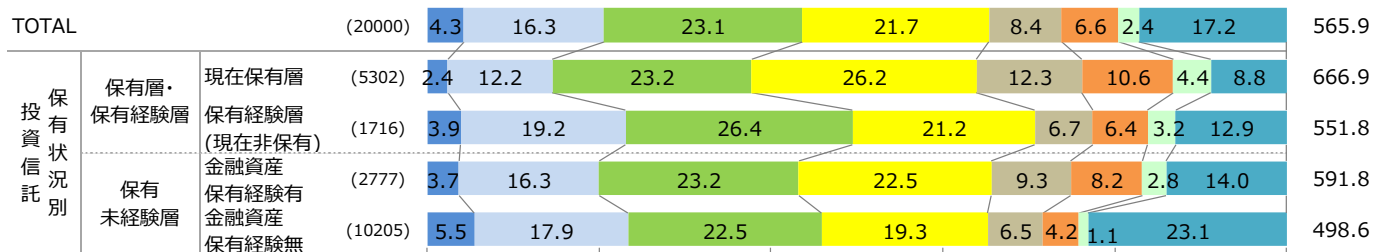
〔図 3-16〕



〔図 3-17〕



〔図 3-18〕



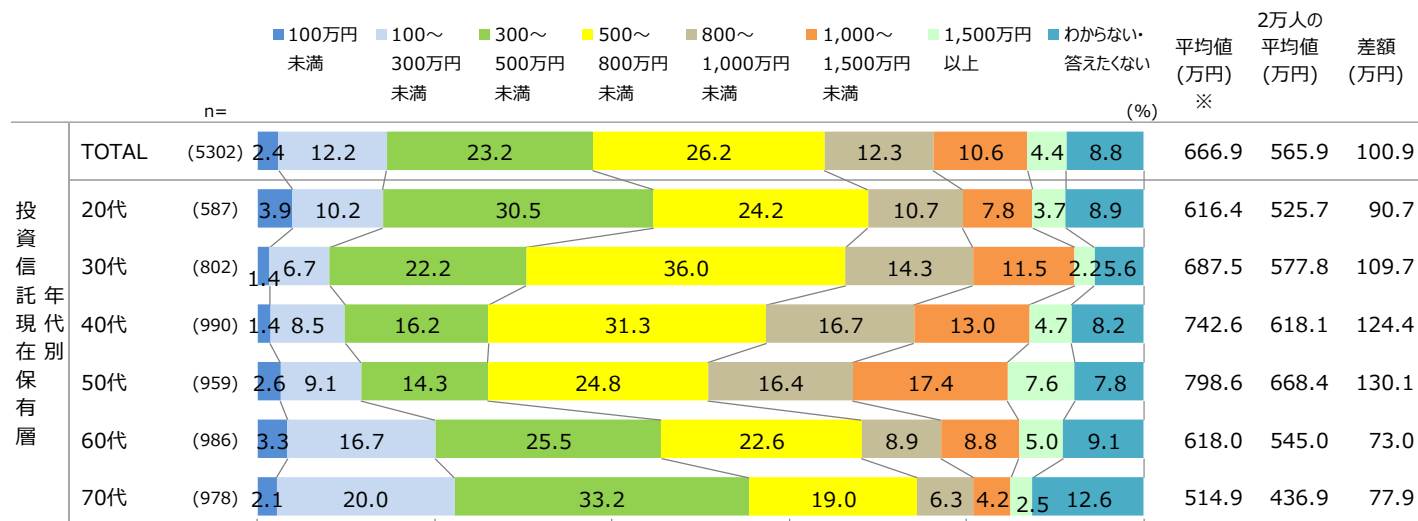
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(5) 世帯年収〔F4①〕：単数回答

〔図 3-19〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

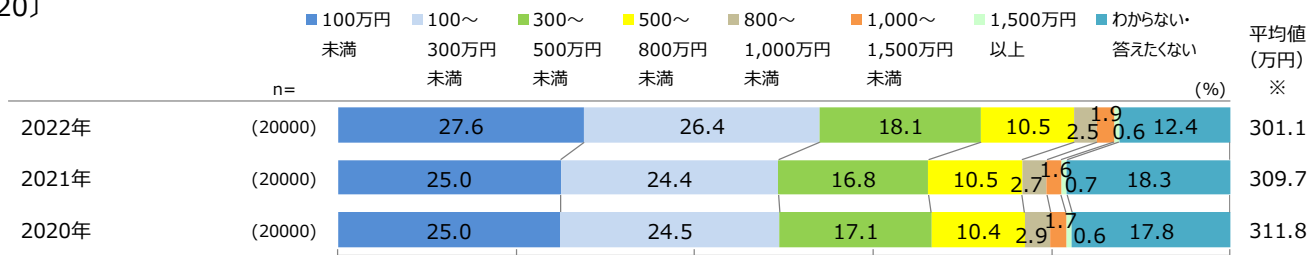
100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 300~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円
800万円~1000万円未満：900万円 / 1000~1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

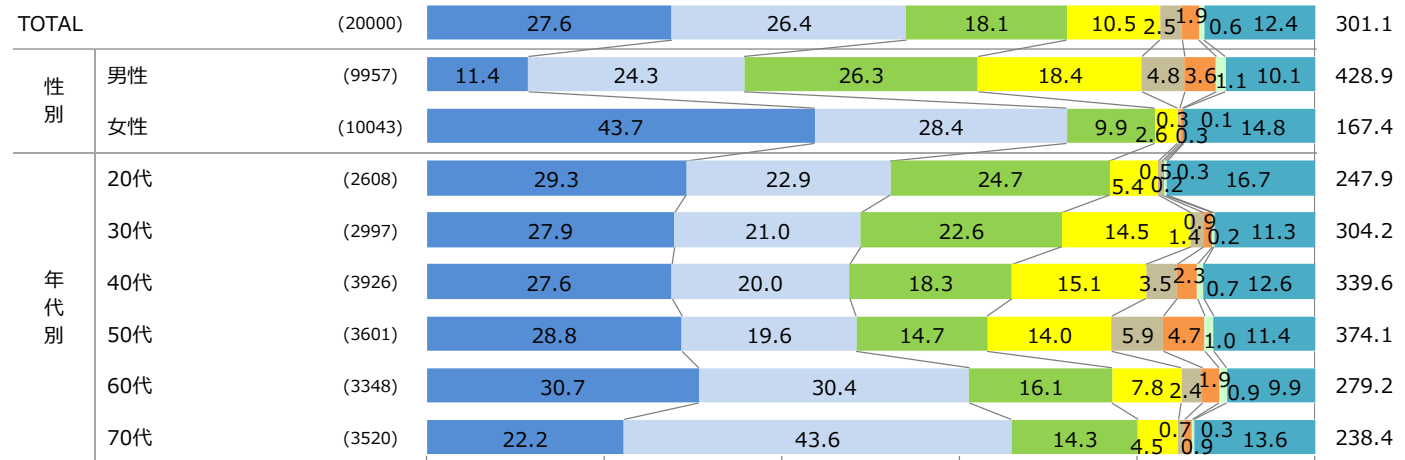
(6) 個人年収〔F4②：単数回答〕

- 個人年収は「100万円未満」が27.6%、「100～300万円未満」が26.4%とやや高く、『500万円未満』合計で72.1%を占める。平均は「301.1万円」と前回より8.6万円低い。〔図3-20〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層の平均個人年収は全体平均より104.5万円高い。〔図3-22〕

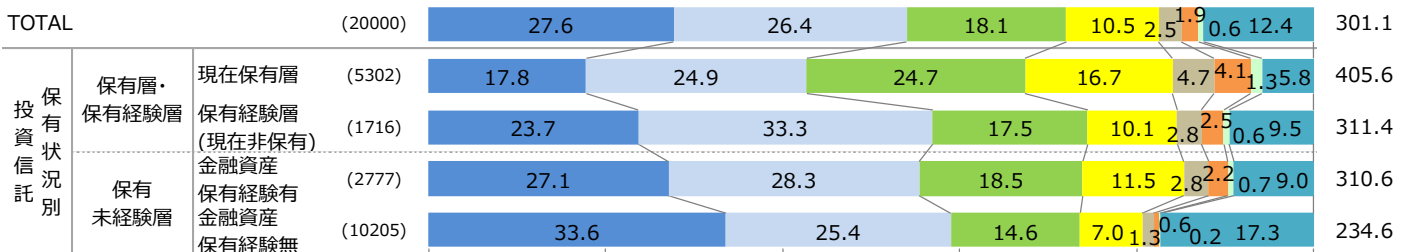
〔図 3-20〕



〔図 3-21〕



〔図 3-22〕

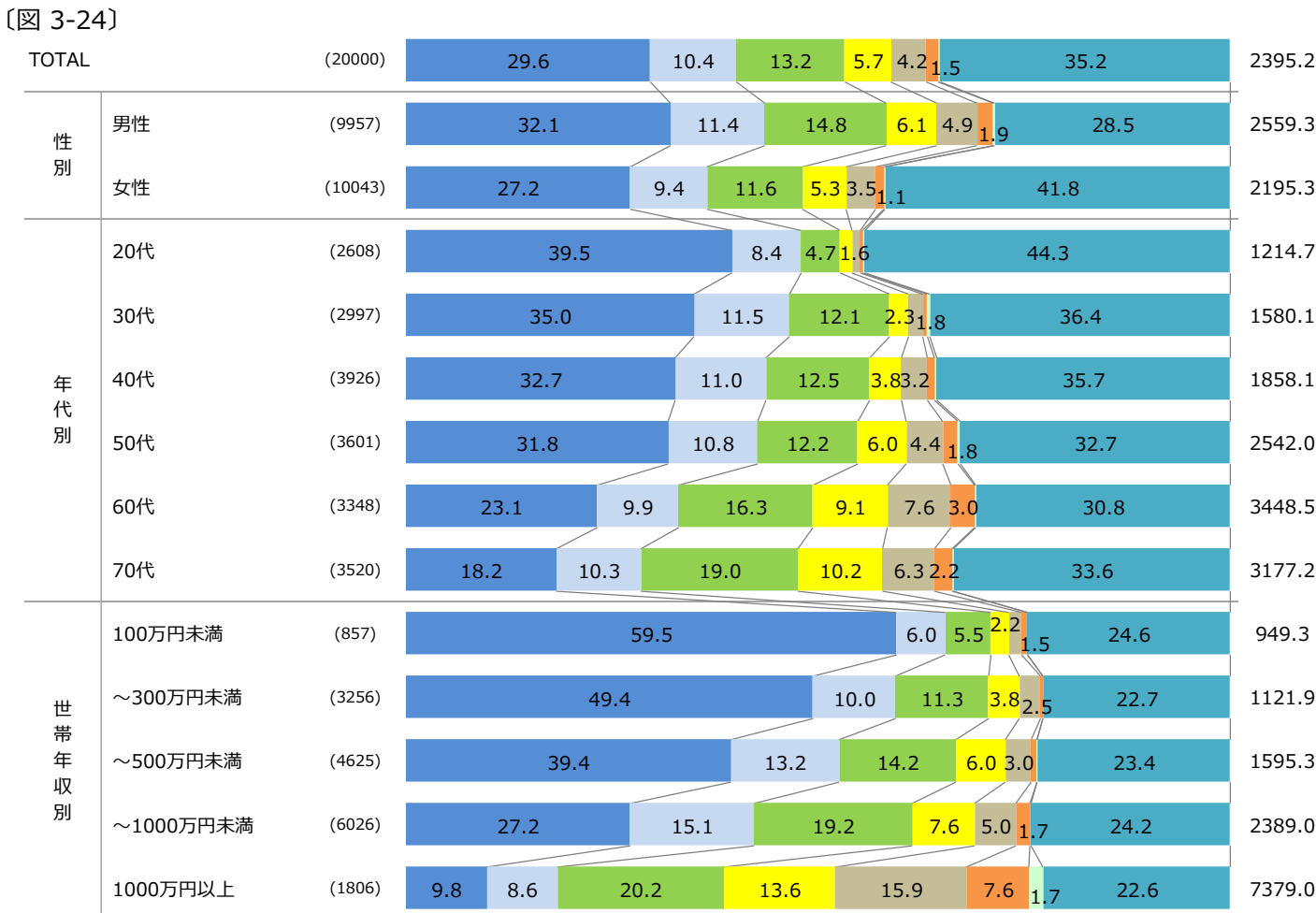
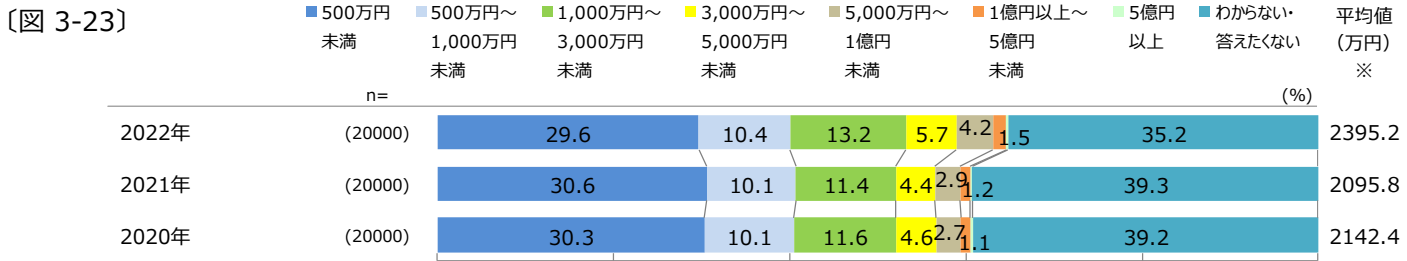


※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(7) 保有金融資産額〔F5:単数回答〕

- 保有金融資産額は「500万円未満」が29.6%と多く、『3,000万円未満』合計で53.2%を占める。また、平均値は「2395.2万円」で前回より299.4万円上昇。〔図3-23〕
- 投信保有状況別の保有金融資産額の平均をみると、投信現在保有層は、全体平均より1474.2万円高い。〔図3-25〕



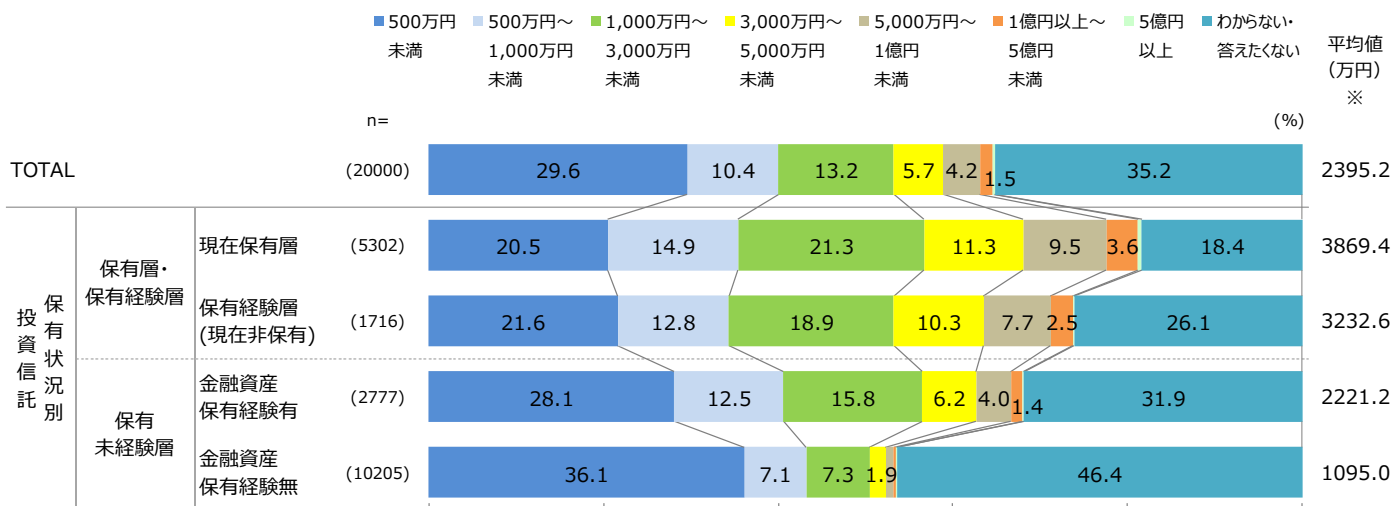
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円 / 3000～5000万円未満：4000万円 / 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

3. 回答者のプロフィール

(7) 保有金融資産額〔F5:単数回答〕

〔図 3-25〕



※1%未満は非表示

※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつてのウエイト値は以下の通り

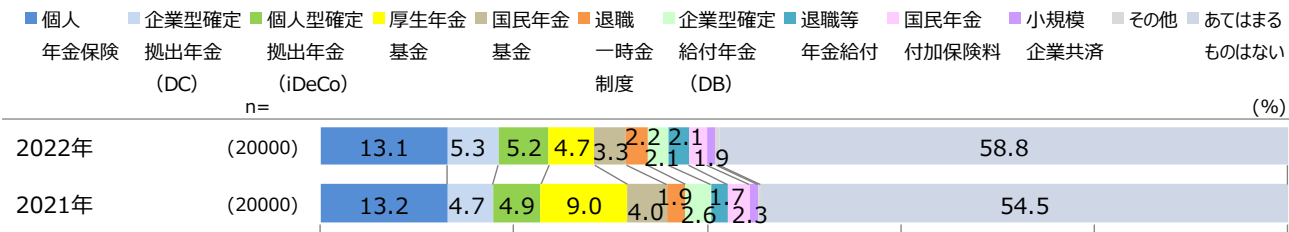
500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円 / 3000～5000万円未満：4000万円 / 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

3. 回答者のプロフィール

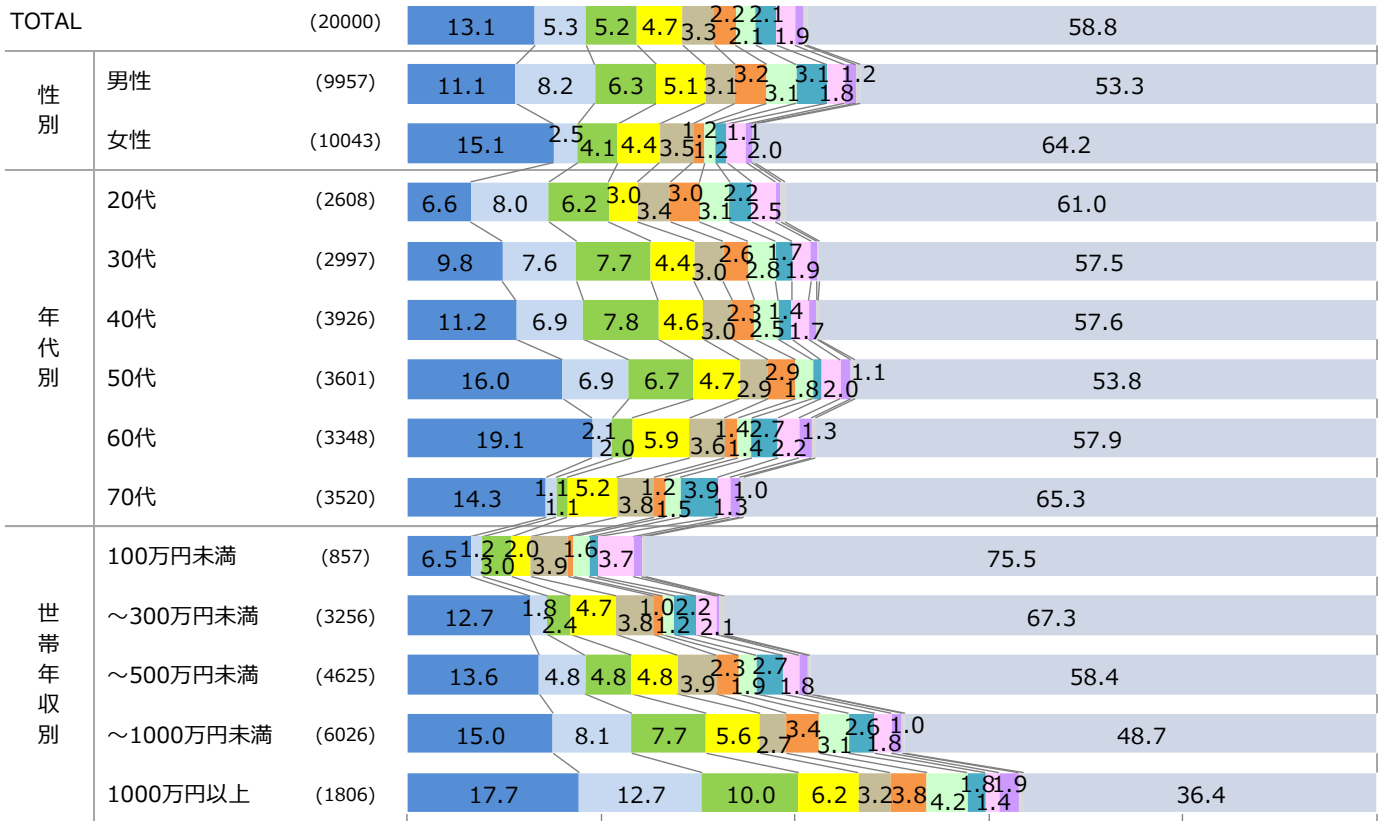
(8) 老後の資産形成〔Q30:単数回答〕

- 老後の資産形成では、「個人年金保険」(13.1%)、「企業型確定拠出年金(DC)」(5.3%)、「個人型確定拠出年金(iDeCo)」(5.2%)、「厚生年金基金」(4.7%)、の順に高い。〔図3-26〕
- 「個人年金保険」は60代以下において、年代が上がるごとに増加。「個人型確定拠出年金(iDeCo)」は40代以下において、年代が上がるごとに増加。「企業型確定拠出年金(DC)」は、年代が下がることに増加。〔図3-27〕
- 投信現在保有層は、「企業型確定拠出年(DC)」と「個人型確定拠出年金(iDeCo)」が高い。〔図3-28〕

〔図 3-26〕



〔図 3-27〕



※1%未満は非表示

4. 投資信託保有狀況（現在保有層）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（1）投資信託の保有口座〔Q3:重複回答〕

- 投資信託の保有口座は、「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」が63.5%と最も高く、「NISA」(38.1%)、「つみたてNISA」(32.0%)が続く。「iDeCo（個人型確定拠出年金）」「ポイント投資/運用口座」が10%半ばで続く。前回より「NISA」がやや増加し、「ポイント投資/運用口座」がやや減少。〔図4-1〕
- 「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」「NISA」は高齢層ほど保有率が増加傾向にあり、「つみたてNISA」は若年層ほど保有率が高い。〔図4-2〕
「NISA」は、前回に比べて全年代で増加。20代は、「つみたてNISA」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」「企業型DC（企業型確定拠出年金）」も前回より増加。〔図4-2・図4-3〕

※選択肢「企業型DC（企業型確定拠出年金）」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」は、年金受取期間に投資信託の運用を継続している者が含まれる

〔図 4-1〕

	n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたて NISA	iDeCo （個人型 確定拠出 年金）	ポイント投資/ 運用の口座	企業型DC （企業型 確定拠出 年金）	その他	わからない・ 忘れた	(%)
2022年	(5302)	63.5	38.1	32.0	15.5	14.4	9.4	0.8	2.3	
2021年	(5584)	62.4	35.1	35.2	16.6	17.5	9.8	0.8	1.7	
2020年	(4675)	65.1	40.4	24.4	13.5	—	9.6	1.0	3.4	

※選択肢「ポイント投資/運用の口座」は2021年より聴取

〔図 4-2〕

TOTAL	(5302)	63.5	38.1	32.0	15.5	14.4	9.4	0.8	2.3
性別									
男性	(3157)	67.2	37.6	31.4	17.2	15.6	12.7	0.9	1.7
女性	(2145)	58.1	38.8	33.0	13.0	12.6	4.5	0.7	3.1
年代別									
20代	(587)	50.1	25.9	65.6	19.4	18.7	16.4	0.7	1.2
30代	(802)	52.9	28.6	55.5	22.9	23.6	15.2	0.5	1.1
40代	(990)	57.7	31.7	39.5	24.1	20.7	11.9	1.1	2.0
50代	(959)	64.4	37.0	27.1	22.6	14.8	11.5	0.4	1.7
60代	(986)	73.8	48.3	13.7	6.4	7.4	4.1	0.8	3.2
70代	(978)	75.1	50.4	8.4	0.6	4.6	1.1	1.1	3.7
世帯年収別									
100万円未満	(127)	62.2	32.3	27.6	7.9	11.0	4.7	1.6	5.5
～300万円未満	(646)	63.3	38.7	24.5	6.7	10.8	1.5	0.9	2.2
～500万円未満	(1230)	62.6	38.9	32.5	12.8	12.3	6.7	1.1	2.5
～1000万円未満	(2038)	60.9	36.6	36.2	18.7	16.7	11.4	0.5	1.3
1000万円以上	(795)	72.2	40.9	29.3	23.4	18.2	18.7	0.9	2.1

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（1）投資信託の保有口座〔Q3:重複回答〕

※選択肢「企業型DC（企業型確定拠出年金）」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」は、年金受取期間に投資信託の運用を継続している者が含まれる

〔図 4-3〕2021年度結果 性別、年代別、世帯年収別

		n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたて NISA	iDeCo （個人型 確定拠出 年金）	ポイント投資/ 運用の口座	企業型DC （企業型 確定拠出 年金）	その他	わからない・ 忘れた	(%)
TOTAL		(5584)	62.4	35.1	35.2	16.6	17.5	9.8	0.8	1.7	
性別	男性	(3491)	66.2	35.8	35.2	18.1	19.5	12.4	0.7	1.4	
	女性	(2093)	56.0	34.0	35.2	14.1	14.0	5.3	1.0	2.2	
年代別	20代	(638)	47.0	22.4	61.3	16.0	22.3	14.4	0.5	1.6	
	30代	(1012)	56.1	27.4	54.5	24.7	28.3	15.7	0.7	1.2	
	40代	(1174)	60.4	28.6	44.8	25.6	23.3	13.1	0.4	1.2	
	50代	(916)	62.2	35.5	27.2	22.1	16.5	9.5	1.3	1.4	
	60代	(938)	69.7	45.9	16.3	5.9	9.1	4.4	0.9	2.3	
	70代	(906)	75.4	49.6	10.6	2.0	4.1	1.3	1.0	2.6	
世帯 年収別	100万円未満	(151)	62.9	38.4	24.5	15.9	11.9	4.6	0.0	1.3	
	～300万円未満	(629)	63.1	36.7	25.9	7.2	12.4	1.7	1.3	2.2	
	～500万円未満	(1207)	60.4	32.8	37.6	14.1	15.8	6.2	0.8	1.8	
	～1000万円未満	(2120)	62.1	33.6	39.7	20.6	20.0	12.7	0.8	0.6	
	1000万円以上	(754)	68.8	39.9	36.1	23.6	21.4	19.9	0.7	1.1	

〔図 4-4〕2020年度結果 性別、年代別、世帯年収別

		n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたて NISA	iDeCo （個人型 確定拠出 年金）	企業型DC （企業型 確定拠出 年金）	その他	わからない・ 忘れた	(%)
TOTAL		(4675)	65.1	40.4	24.4	13.5	9.6	1.0	3.4	
性別	男性	(2910)	67.2	40.3	24.3	15.5	12.9	0.9	2.7	
	女性	(1765)	61.6	40.6	24.4	10.3	4.3	1.1	4.5	
年代別	20代	(521)	48.2	32.8	48.0	18.6	15.5	1.7	4.4	
	30代	(738)	55.0	34.0	39.8	21.5	16.1	1.1	3.4	
	40代	(946)	61.0	36.0	29.9	22.4	13.0	0.7	2.7	
	50代	(770)	66.2	38.2	18.8	16.8	11.3	1.6	2.6	
	60代	(909)	74.3	50.3	11.7	3.0	3.9	0.7	3.4	
	70代	(791)	78.8	47.4	7.7	1.1	0.8	0.5	4.3	
世帯 年収別	100万円未満	(124)	60.5	44.4	21.8	12.1	4.8	0.0	3.2	
	～300万円未満	(542)	68.3	42.8	17.5	7.0	2.6	1.1	4.1	
	～500万円未満	(1049)	65.3	39.7	24.7	10.5	5.1	0.8	2.7	
	～1000万円未満	(1705)	63.4	40.0	27.9	16.7	13.0	1.0	2.4	
	1000万円以上	(677)	69.3	43.0	25.0	20.5	18.3	1.5	1.9	

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(2) 投資信託の保有種類〔Q6:重複回答〕

- 現在保有している投資信託の種類は、「外国株式投資信託」が46.7%で最も高い。次いで「国内株式投資信託」(45.3%)、「分散型投資信託（バランス型）」(25.4%)、「外国債券投資信託」（14.3%)、「ETF」(13.7%)が続く。前回より「外国株式投資信託」が7.2ポイント、「国内株式投資信託」が4.9ポイント減少。〔図4-5〕
- 年代別で保有率をみると、「外国株式投資信託」「ETF」は若年層ほど高くなる傾向。「分散型投資信託（バランス型）」「外国債券投資信託」「国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託」は年齢が上がるほど増加傾向。〔図4-6〕
- 投資信託の平均保有数は2.07種類となっている。前回より僅かに減少。〔図4-7〕

〔図 4-5〕

	n=	外国株式投資信託	国内株式投資信託	分散型投資信託（バランス型）	外国債券投資信託	ETF	国内債券投資信託	国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信（Jリート）	その他	不明・回答拒否 (%)
2022年	(5302)	46.7	45.3	25.4	14.3	13.7	12.7	10.6	8.3	6.9	0.6	10.8
2021年	(5584)	53.9	50.2	22.8	14.9	11.6	15.1	9.8	7.8	5.4	0.6	8.0
2020年	(4675)	43.6	54.4	25.6	17.7	9.5	18.4	12.4	9.2	5.8	0.4	9.2

※選択肢「分散型投資信託（バランス型）」は2022年（バランス型）を追記して聴取

〔図 4-6〕

	n=	外国株式投資信託	国内株式投資信託	分散型投資信託（バランス型）	外国債券投資信託	ETF	国内債券投資信託	国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信（Jリート）	その他	不明・回答拒否 (%)
TOTAL	(5302)	46.7	45.3	25.4	14.3	13.7	12.7	10.6	8.3	6.9	0.6	10.8
性別												
男性	(3157)	51.9	50.2	24.5	16.2	16.4	13.7	11.6	9.4	8.1	0.7	7.4
女性	(2145)	39.1	38.1	26.7	11.4	9.7	11.4	9.0	6.8	5.2	0.5	15.8
年代別												
20代	(587)	56.4	44.8	13.3	13.3	20.8	15.0	8.9	6.8	7.5	0.5	7.5
30代	(802)	59.0	43.1	19.3	10.0	18.6	11.6	7.4	6.2	7.0	0.4	8.5
40代	(990)	50.5	48.1	23.1	12.6	16.6	12.9	9.1	6.3	5.2	0.4	9.5
50代	(959)	48.6	47.8	29.8	13.9	11.6	13.3	11.2	10.1	6.8	0.5	11.5
60代	(986)	39.9	44.7	31.9	16.9	11.0	11.6	12.4	11.3	9.1	0.7	12.3
70代	(978)	32.1	42.8	29.0	17.8	7.5	12.7	13.3	8.4	6.3	1.1	13.8
世帯年収別												
100万円未満	(127)	42.5	35.4	22.0	7.1	16.5	7.1	7.9	6.3	2.4	1.6	22.0
～300万円未満	(646)	37.8	40.1	26.6	12.1	8.8	9.9	8.0	7.0	4.6	0.6	13.3
～500万円未満	(1230)	46.9	44.1	24.8	14.8	11.3	12.0	10.6	9.0	6.3	0.9	9.6
～1000万円未満	(2038)	49.1	47.4	24.9	14.2	14.4	13.5	10.6	7.9	6.4	0.3	8.0
1000万円以上	(795)	53.5	55.0	29.9	18.0	21.6	17.9	14.0	10.9	11.8	0.9	5.7

〔図 4-7〕【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	外国株式投資信託	国内株式投資信託	分散型投資信託（バランス型）	外国債券投資信託	ETF	国内債券投資信託	国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信（Jリート）	その他	平均保有数（種類）※2
2022年 TOTAL(n=4730) ※1	2477	2403	1347	757	727	675	560	442	368	33	2.07
2021年 TOTAL(n=5140) ※1	3012	2803	1273	832	650	841	547	434	303	31	2.09
2020年 TOTAL(n=4247) ※1	2039	2541	1195	827	443	861	581	430	273	20	2.17

（2022年/2021年/2020年）

※1 投信保有者(n=5302/5584/4675)から「種類不明・回答拒否」(n=572/444/428)を控除。

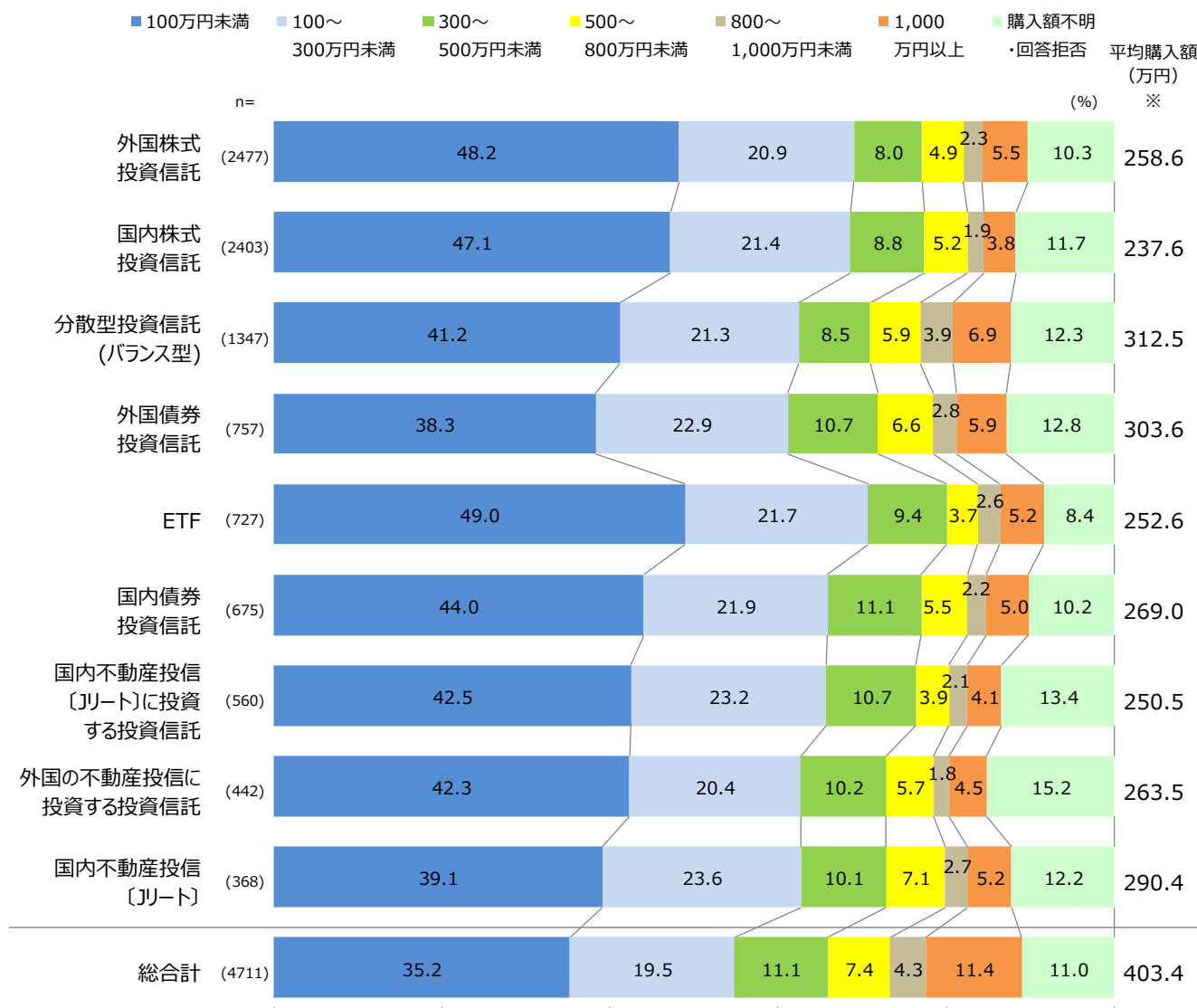
※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、(n=4730/5140/4247)で割って算出。

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(3) 投資信託の保有金額〔Q7:単数回答-各種類現在保有層ベース〕

- 現在保有している投資信託の平均購入額は、総合計では「403.4万円」となる。種類別に平均購入額をみると、「分散型投資信託（バランス型）」が312.5万円で最も高く、次いで「外国債券投資信託」が303.6万円、「国内不動産投信（Jリート）」が290.4万円が続く。〔図4-8〕

〔図 4-8〕



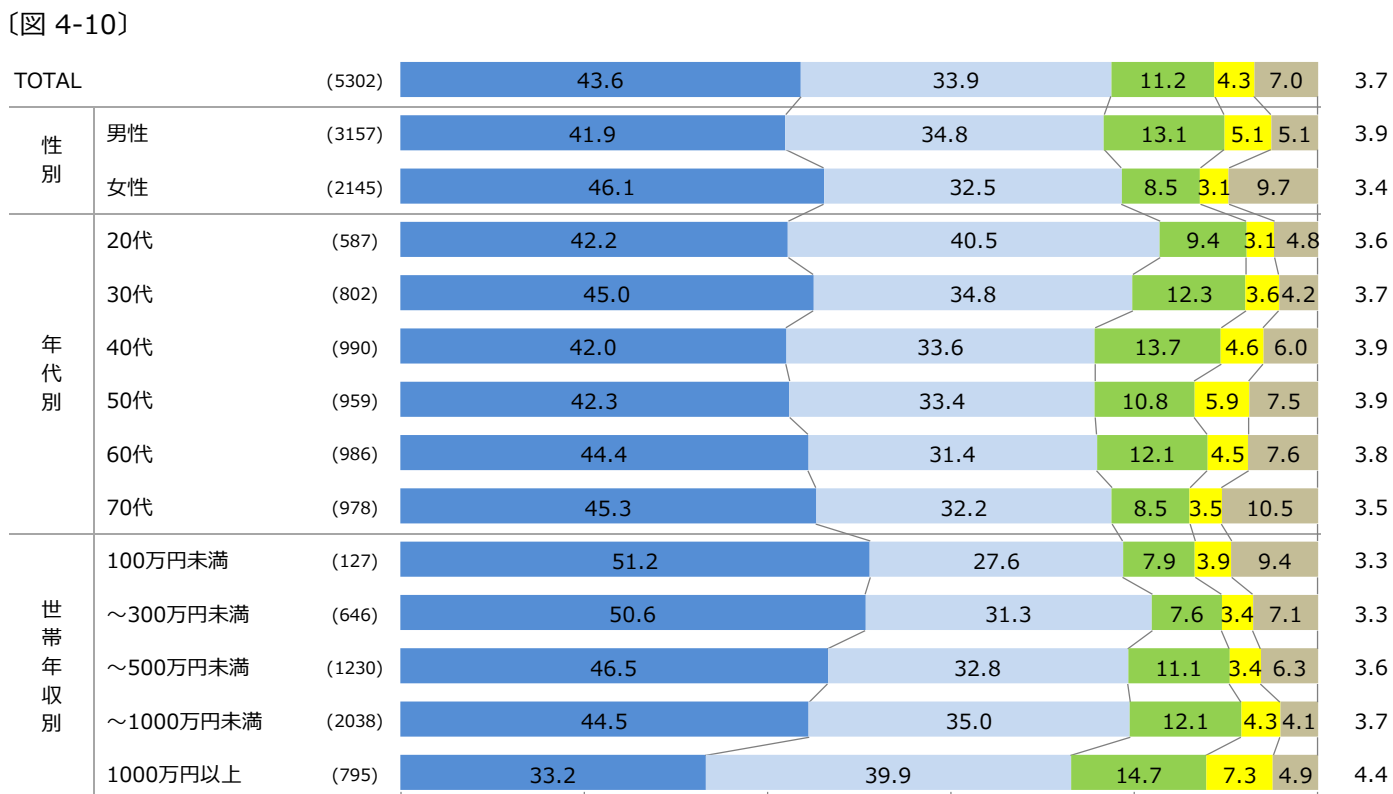
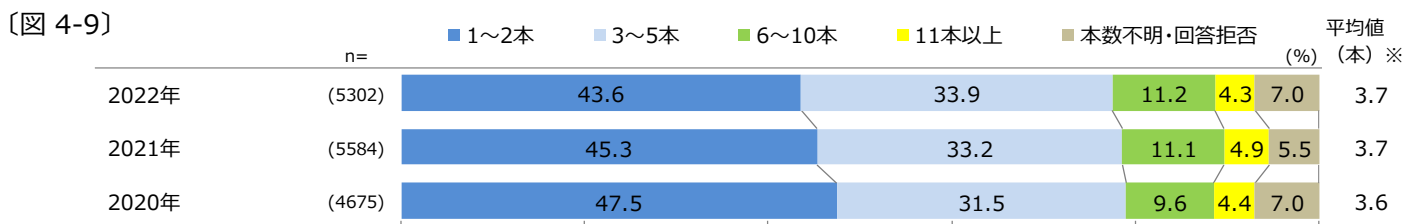
※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 300~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円
800~1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（4）現在保有している投資信託の本数〔Q4:単数回答〕

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1～2本」(43.6%)が4割強を占める。平均は3.7本で前回と同程度。〔図4-9〕
- 年代別では40～50代の平均保有本数がやや多い。また、世帯年収が高いほど多くなる傾向があり、1,000万円以上は平均保有本数(4.4本)となっている。〔図4-10〕

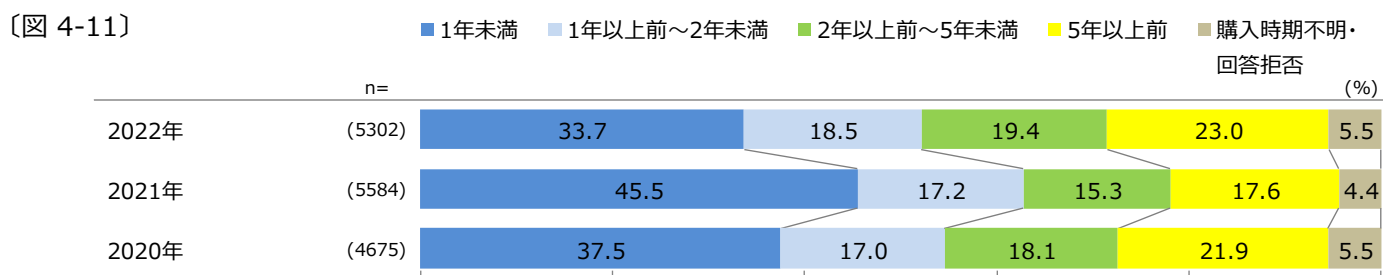


※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り
 1～2本：1.5本 / 3～5本：4本 / 6～10本：8本 / 11本以上：13本

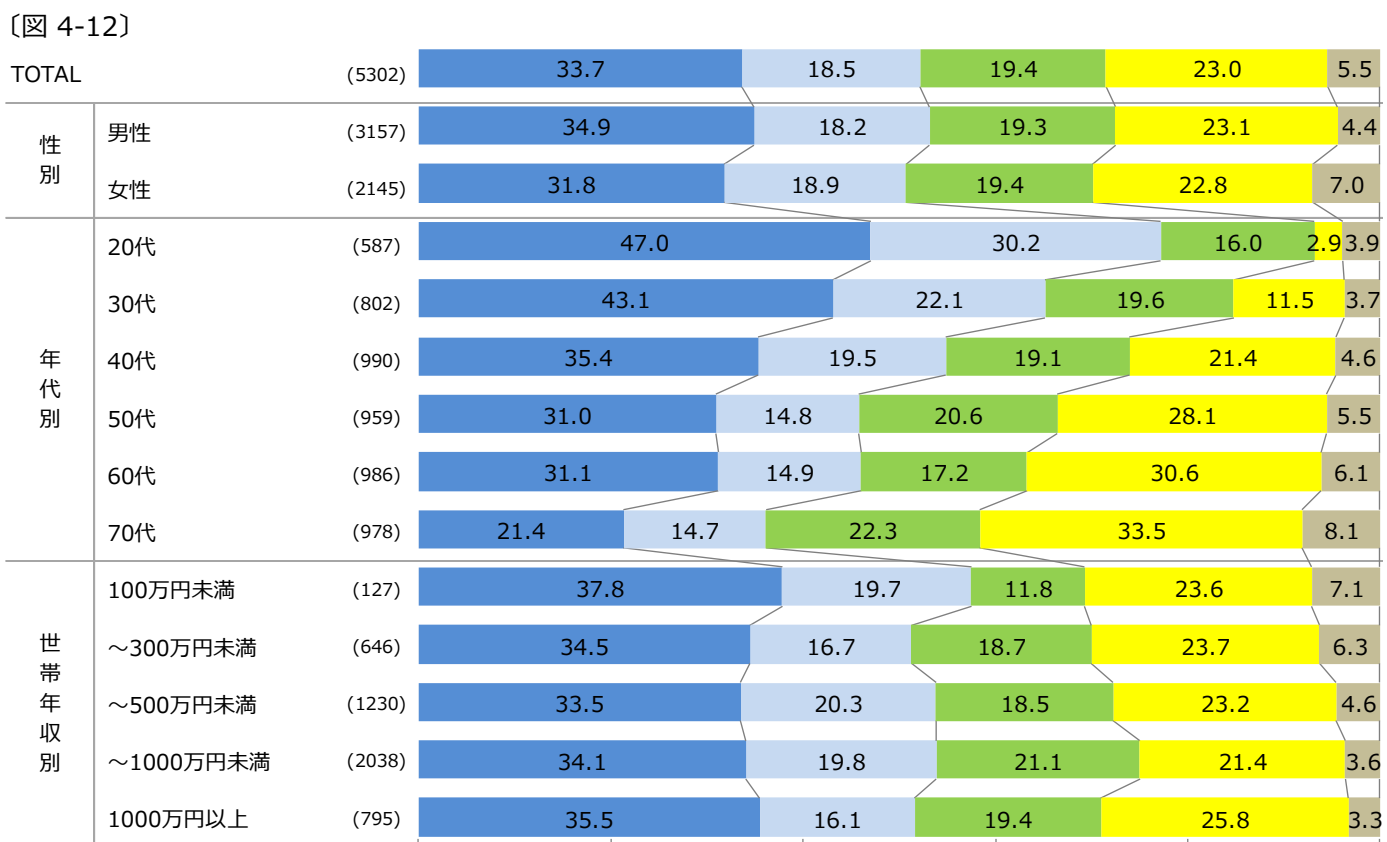
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（5）投資信託商品の直近購入時期〔Q5:単数回答〕

- 直近の購入時期は「1年未満」(33.7%)が最も高い。次いで「5年以上前」(23.0%)が続く。前回より「1年未満」が11.8ポイント減少し、「5年以上前」が5.4ポイント増加。〔図4-11〕
- 「1年未満」の購入率は、20～30代が4割台で高い。〔図4-12〕



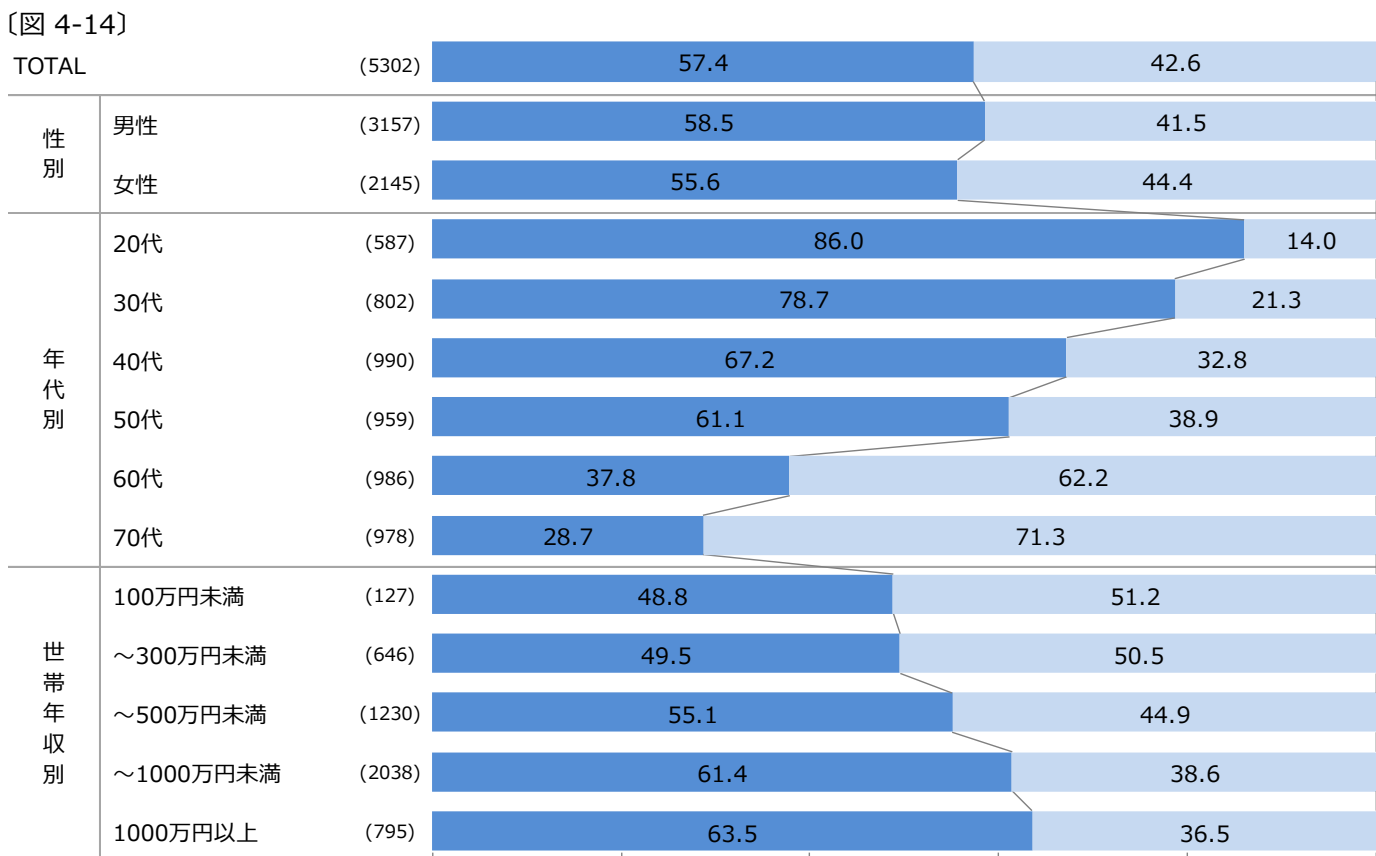
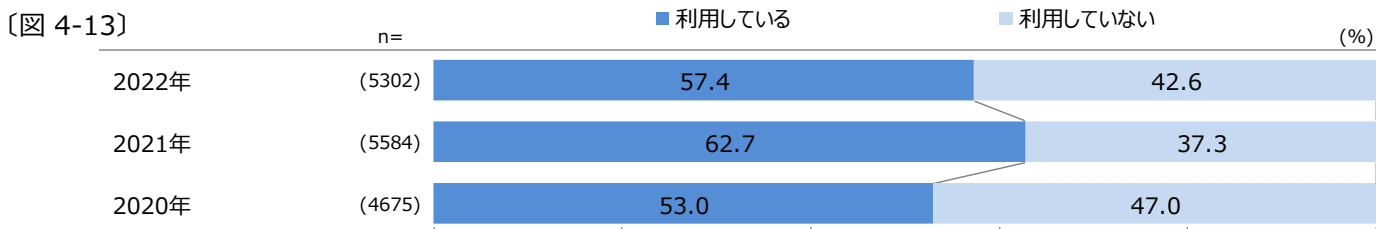
※選択肢「1年以上前～2年未満」「2年以上前～5年未満」は、2020年まで「1年以上～2年未満」「2年以上～5年未満」で聴取



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（6）投資信託の積立投資の利用状況〔Q18:単数回答〕

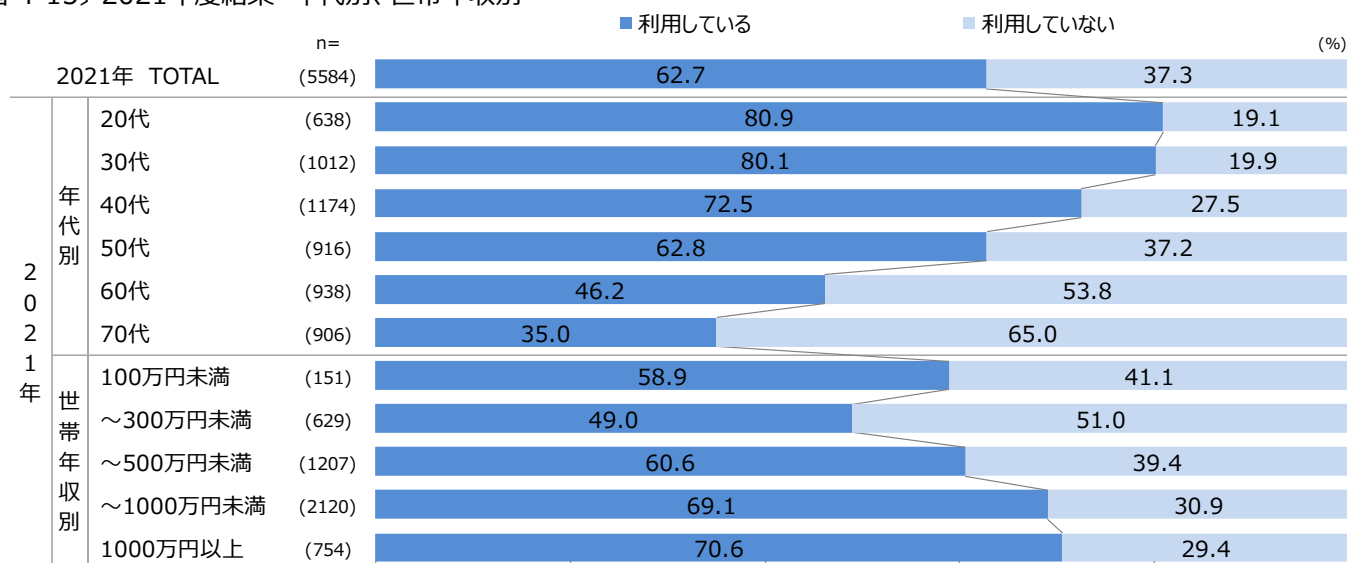
- 積立投資利用率は57.4%。前回と比べて5.3ポイント減少。〔図4-13〕
- 若年層ほど積立投資利用率は高く、特に20・30代は78.7～86.0%と高い。〔図4-14〕
 前回より、30代以上の利用率が減少している。〔図4-14・図4-15〕
 なお、年代構成比では、前回と比べて20代と50代が1.9～2.9ポイント増加。
 全体としては40代以下が6割（59.2%）を占める。〔図4-17〕



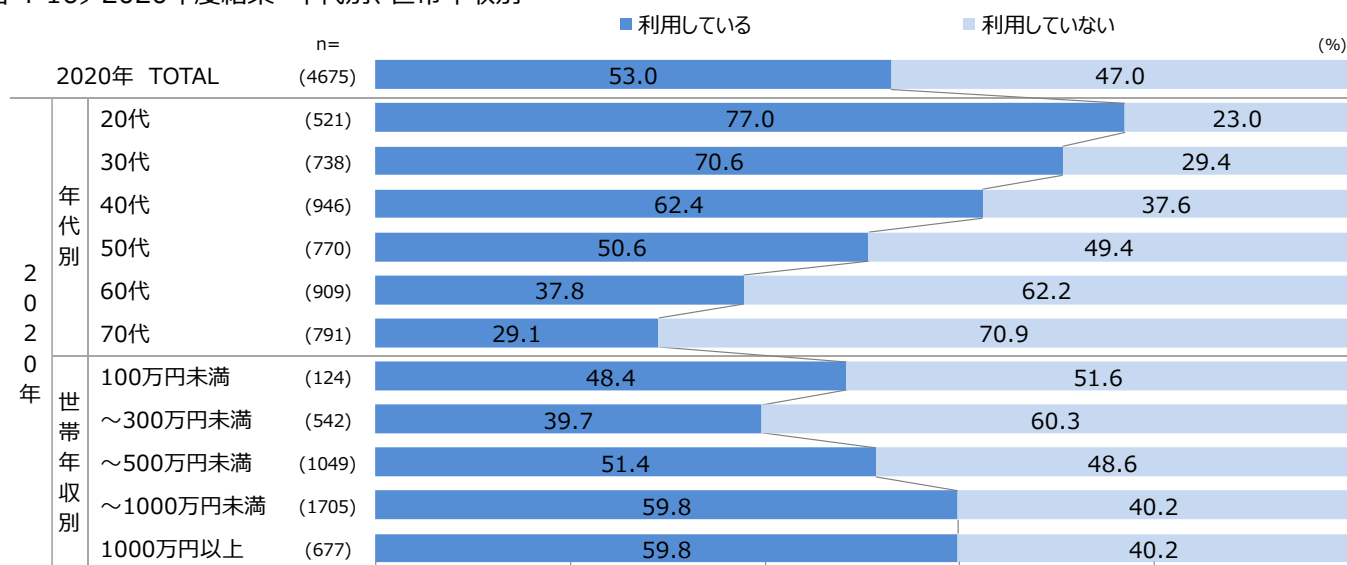
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（6）投資信託の積立投資の利用状況〔Q18:単数回答〕

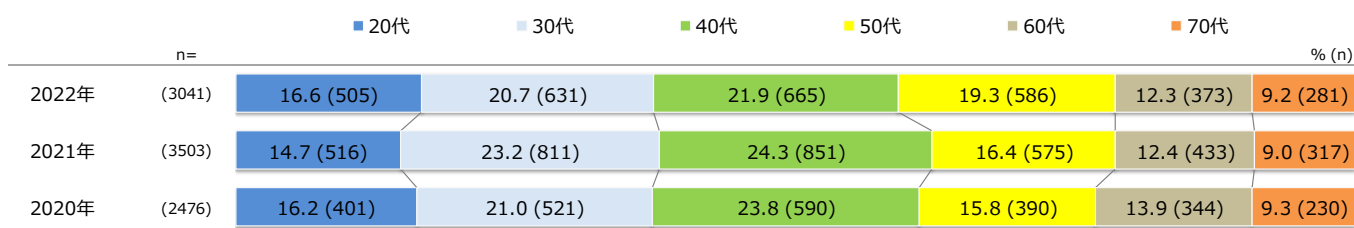
〔図 4-15〕 2021年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 4-16〕 2020年度結果 年代別、世帯年収別



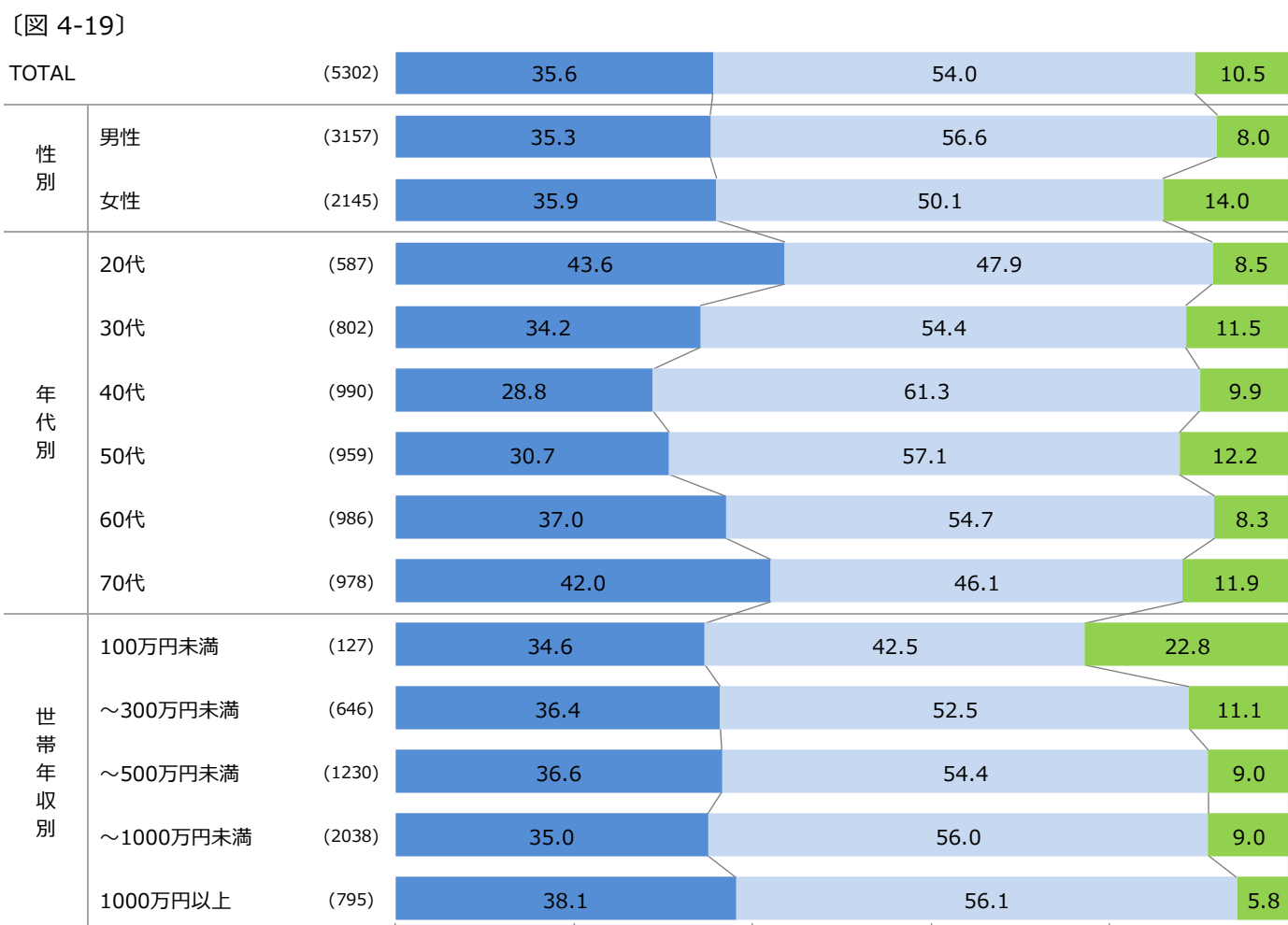
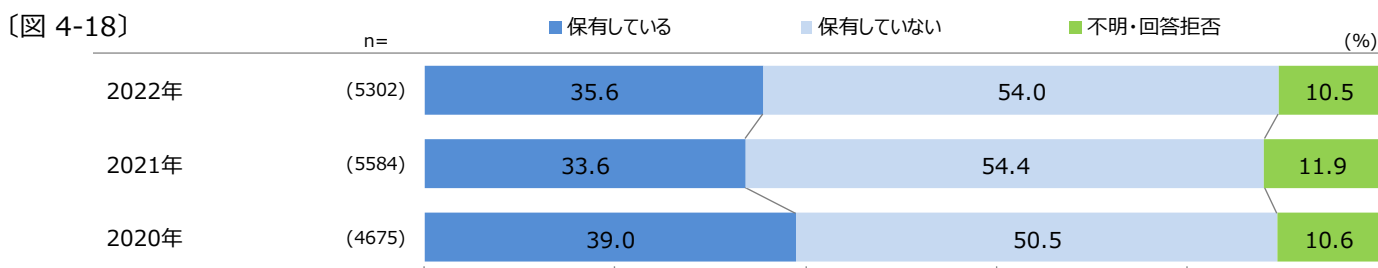
〔図 4-17〕 積立投資利用者の年代構成比（投資信託現在保有者で積立投資利用者）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（7）毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

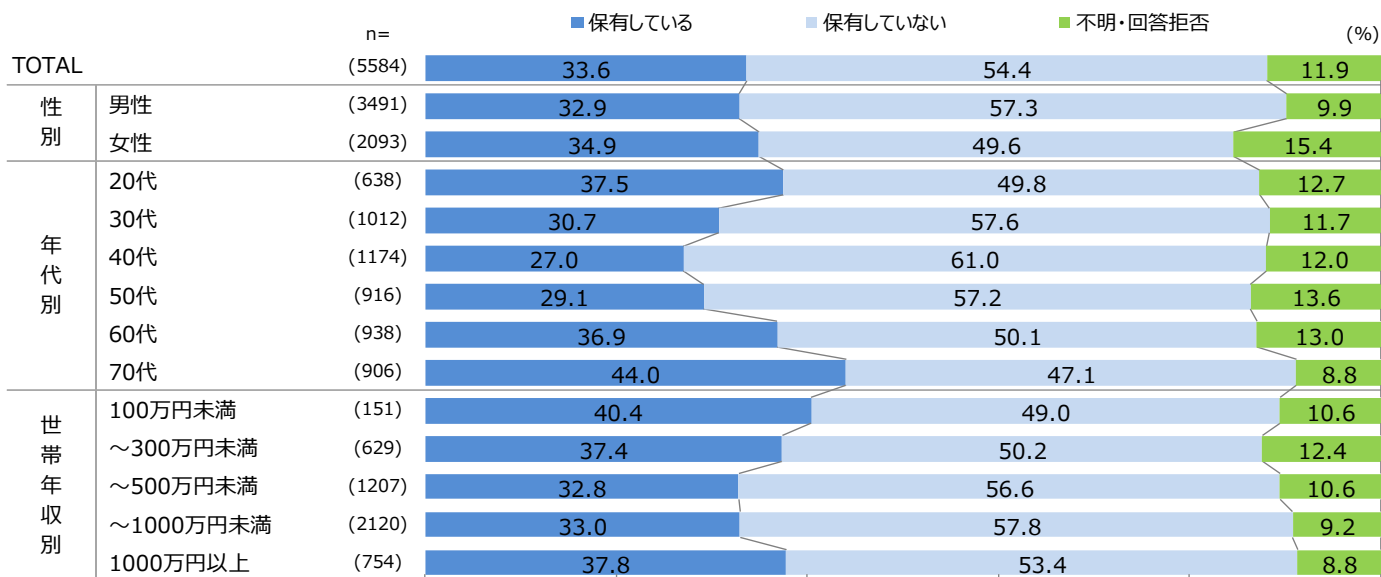
- 現在投資信託保有層のうち、毎月分配型投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する分配方針のもの）の保有率は35.6%と、前回よりやや増加。〔図4-18〕
- 属性別では、40代以上から年代が上がるにつれ保有率が増加。〔図4-19〕
毎月分配型投信保有者の年代構成比は、引き続き50代以上が半数以上占める。〔図4-22〕



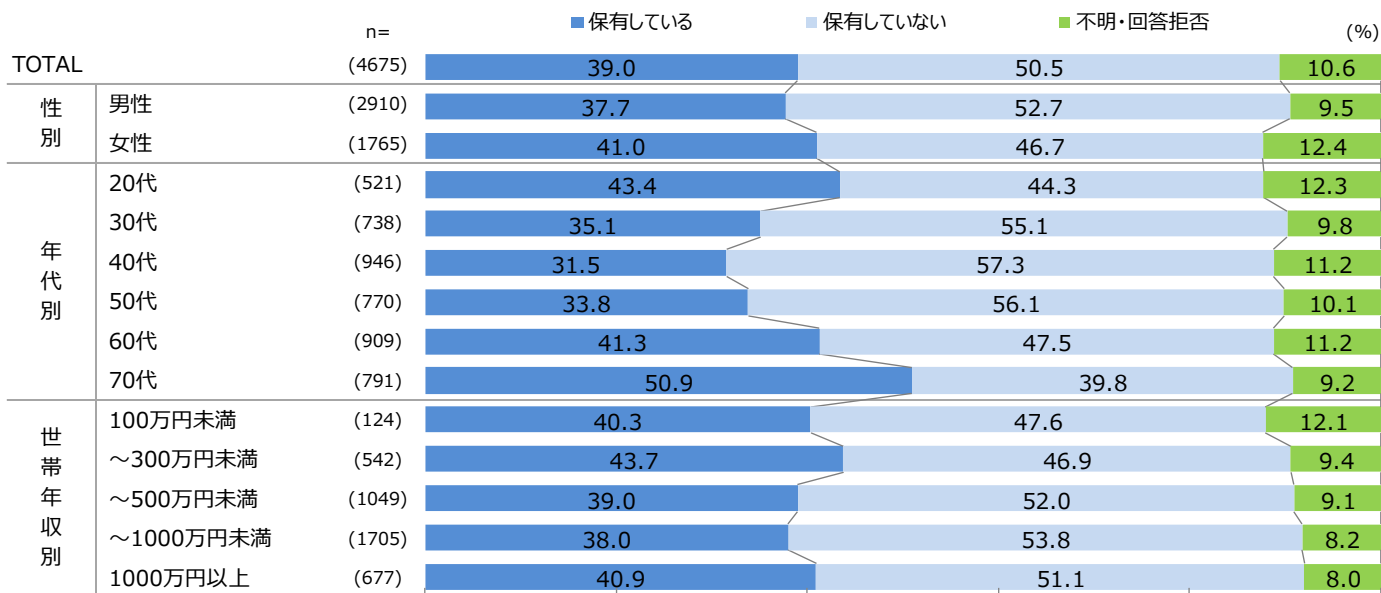
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（7）毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

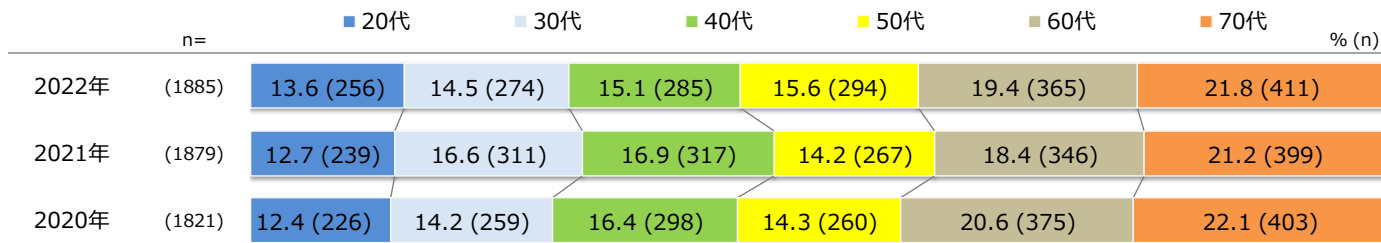
〔図 4-20〕 2021年度結果 性別、年代別、世帯年収別



〔図 4-21〕 2020年度結果 性別、年代別、世帯年収別



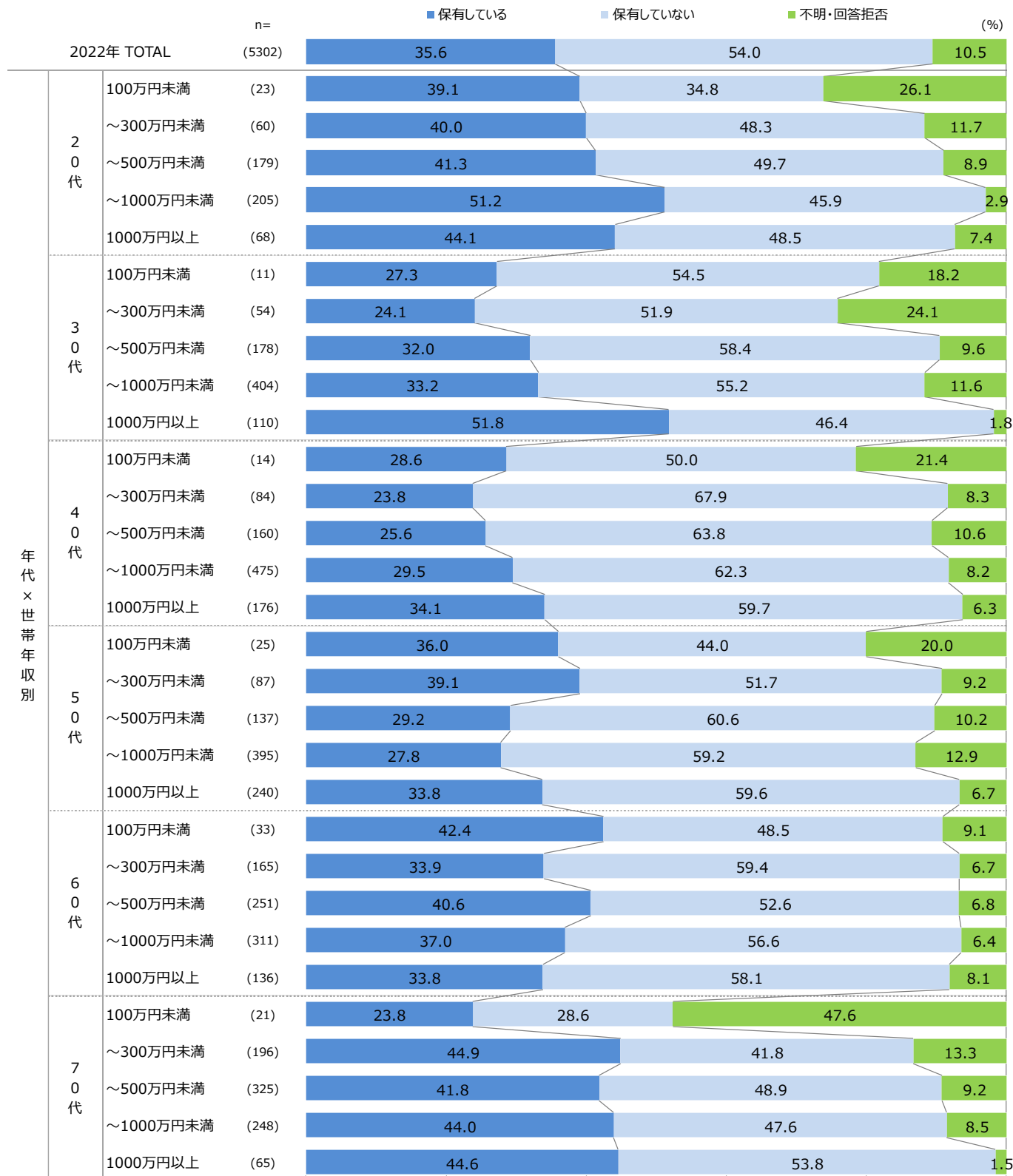
〔図 4-22〕 分配型投資信託保有者の年代構成比（投資信託現在保有者で毎月分配型投資利用者）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

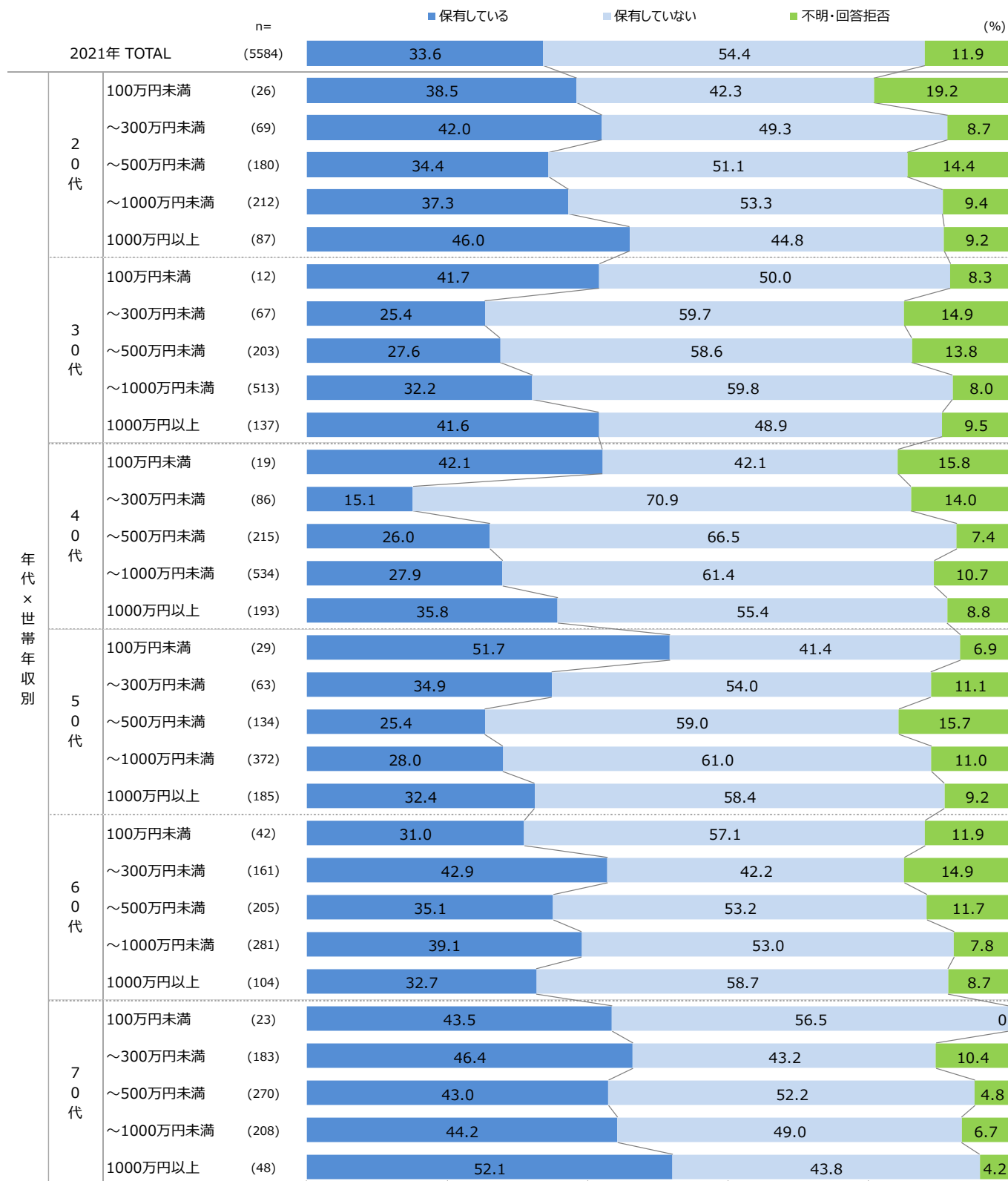
〔図 4-23〕 2022年度結果 年代×世帯年収別



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

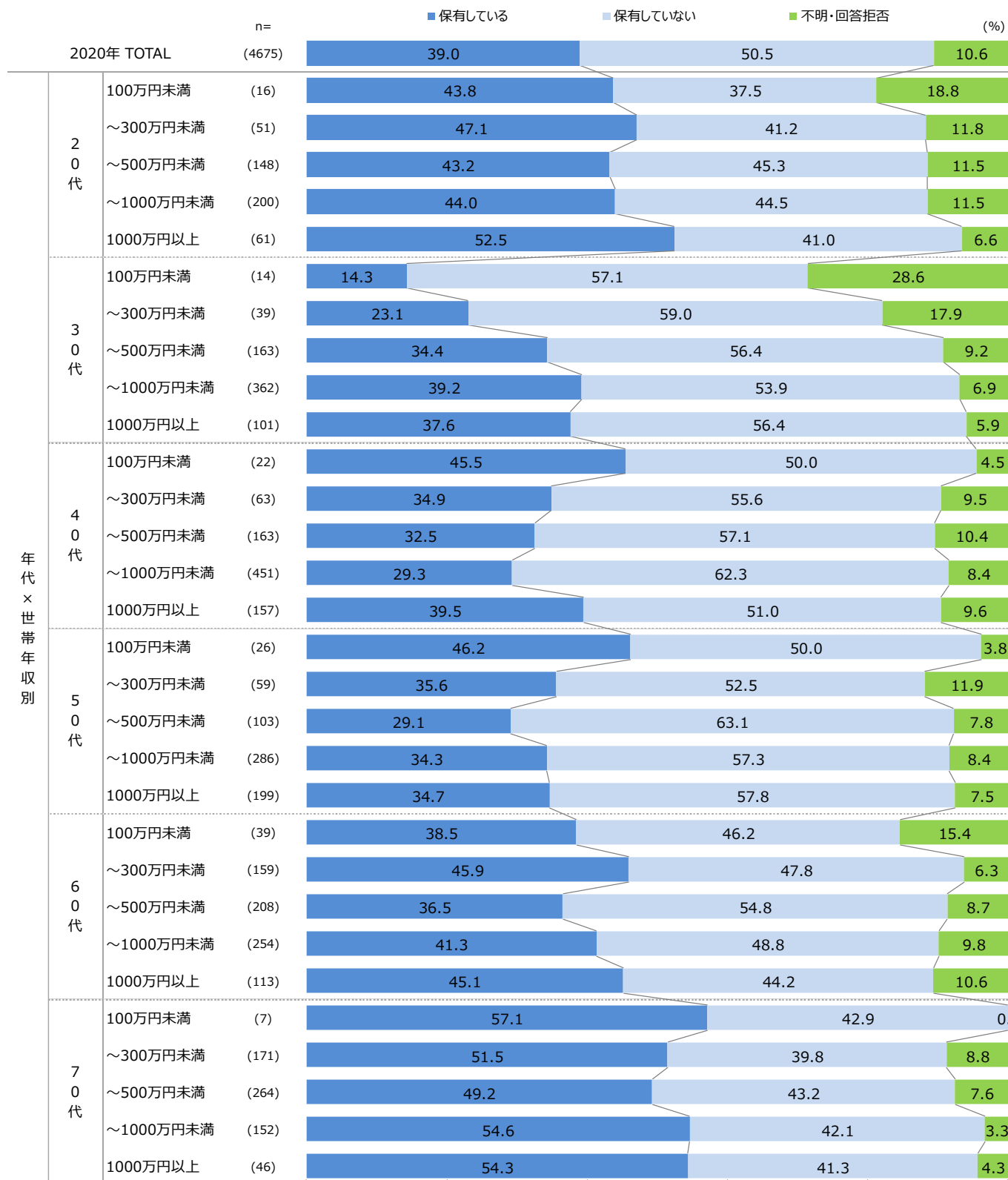
〔図 4-24〕 2021年度結果 年代×世帯年収別




4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

〔図 4-25〕 2020年度結果 年代×世帯年収別



5. 投資信託購入状況 (現在保有層・保有経験層)



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（1）投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

- 興味・関心・購入のきっかけは、「金融機関の人に勧められて」(36.1%)が最も高い。次いで「インターネットで見たり調べたりして」(25.1%)、「投資信託に関する本や記事を見て」(15.0%)、「少額投資非課税制度があるから」(14.7%)が続く。前回より「金融機関の人に勧められて」がやや増加。〔図5-1〕
- 年代別でみると、30代以上において「金融機関の人に勧められて」は年代が上がるほど高くなる傾向。また、「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本や記事を見て」「少額投資非課税制度があるから」「ポイントで投資/運用ができることを知って」は年代が下がるほど高くなる傾向。「YouTube等の動画配信を観て」「SNSからの情報を通じて」は20・30代で高い傾向。〔図5-2〕
- 投信現在保有層は、保有経験層に比べて「金融機関の人に勧められて」「友人・知人から話を聞いて」以外の全ての項目が高い。特に「インターネットで見たり調べたりして」「少額投資非課税制度があるから」は13.5ポイント以上高い。〔図5-3〕

〔図 5-1〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本や記事を見て	少額投資非課税制度があるから	投資信託の商品広告などを見て	経済的に余裕ができたので	ポイントで投資/運用ができることを知って	景気や市場の状況を見て	家族などから話を聞いて	DMを見たり、電話案内を聞いて	YouTube等の動画配信を観て	友人・知人から話を聞いて	老後2000万円に関する各種報道を受けて	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	SNSからの情報を通じて	その他
2022年	(7018)	36.1	25.1	15.0	14.7	10.8	9.7	8.6	8.4	8.3	8.2	7.2	7.1	7.0	6.2	5.8	4.7	2.2
2021年	(7317)	34.3	28.1	20.1	17.1	9.4	8.4	10.7	8.0	7.2	7.7	8.8	7.5	6.8	6.1	6.4	6.1	2.3
2020年	(6626)	40.0	25.0	20.8	11.4	10.8	10.2	-	8.6	10.1	8.5	-	10.1	4.8	6.7	6.6	3.8	2.9

※「投資信託に関する本や記事を見て」は2021年までの「投資信託に関する本を読んで」「新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て」を統合して聴取（2021年までは合算のため参考値）

※「YouTube等の動画配信を観て」「ポイントで投資/運用ができることを知って」は2021年より聴取

※「家族などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて」「友人・知人から、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて」は2020年までの「家族や友人などから話を聞いて」を分割して聴取

※「少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）があるから」は2020年まで「少額投資非課税制度が始まったので」聴取

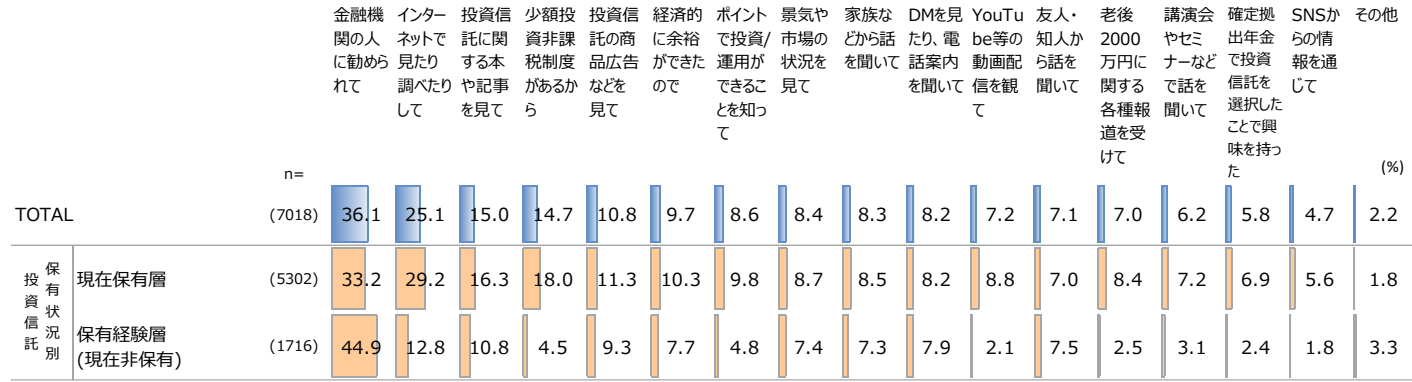
〔図 5-2〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本や記事を見て	少額投資非課税制度があるから	投資信託の商品広告などを見て	経済的に余裕ができたので	ポイントで投資/運用ができることを知って	景気や市場の状況を見て	家族などから話を聞いて	DMを見たり、電話案内を聞いて	YouTube等の動画配信を観て	友人・知人から話を聞いて	老後2000万円に関する各種報道を受けて	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	SNSからの情報を通じて	その他
TOTAL	(7018)	36.1	25.1	15.0	14.7	10.8	9.7	8.6	8.4	8.3	8.2	7.2	7.1	7.0	6.2	5.8	4.7	2.2
性別																		
男性	(4092)	30.4	29.9	17.5	14.3	12.7	11.0	10.2	9.7	5.6	9.3	8.9	6.8	7.5	6.8	7.5	5.2	2.2
女性	(2926)	44.1	18.5	11.4	15.3	8.2	7.8	6.4	6.6	11.9	6.5	4.8	7.7	6.3	5.4	3.6	4.0	2.1
年代別																		
20代	(659)	18.8	31.4	14.0	22.0	10.5	11.1	13.1	11.8	11.7	15.6	22.5	11.2	13.2	9.3	8.8	17.5	1.2
30代	(887)	15.3	41.9	18.8	22.7	10.4	9.6	16.7	9.7	9.8	9.5	16.7	9.6	11.4	7.7	8.3	12.7	0.7
40代	(1188)	20.4	35.7	18.3	17.9	10.2	9.5	13.1	9.1	8.2	7.0	7.7	7.3	9.7	6.1	7.9	4.7	1.5
50代	(1222)	31.3	28.2	16.6	13.7	12.2	9.3	9.2	8.8	7.9	6.5	5.8	6.0	6.8	4.7	8.9	2.3	2.4
60代	(1431)	48.6	16.9	14.5	10.2	9.9	9.8	4.3	6.8	6.8	7.0	2.3	6.0	4.9	5.4	3.8	0.6	2.9
70代	(1631)	58.5	10.7	10.1	9.8	11.3	9.4	2.5	6.9	7.5	7.6	0.7	5.9	2.1	6.3	1.2	0.4	3.0
世帯年収別																		
100万円未満	(194)	40.7	23.2	9.3	11.3	9.3	8.2	12.4	9.8	8.8	6.2	8.2	8.2	5.2	6.2	2.6	3.6	5.7
～300万円未満	(976)	42.6	20.9	10.9	14.5	10.1	6.0	8.4	6.5	4.8	6.1	5.5	6.4	4.9	5.1	3.3	3.5	2.7
～500万円未満	(1683)	39.2	21.8	14.3	13.3	9.7	9.4	7.8	7.6	8.3	8.0	7.1	7.0	6.4	6.2	4.0	5.2	2.2
～1000万円未満	(2517)	32.1	28.9	17.0	16.6	11.4	9.5	9.3	8.3	8.6	9.7	8.3	7.6	8.4	7.0	7.2	5.4	1.4
1000万円以上	(960)	31.4	30.1	17.6	14.7	15.8	15.1	7.4	12.0	10.3	9.1	6.8	7.4	7.2	8.0	10.3	4.7	2.0

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(1) 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

〔図 5-3〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（2）投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

- 投資信託の購入目的は、「老後の生活資金」(54.6%)が最も高く、前回と同程度。次いで「資産のリスク分散」(29.8%)、「金融・経済・投資の勉強のため」(15.2%)、「不測の事態への備え」(11.7%)が多い。「資産のリスク分散」は前回より5.7ポイント増加。〔図5-4〕
- 年代別では、30～70代で「老後の生活資金」が50%以上と高い。「金融・経済・投資の勉強のため」「結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払に備えて」「子供又は孫のための教育などの資金」「FIREのため」は若年層ほど高い傾向。〔図5-5〕
- 投信現在保有層は「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が、保有経験層より12.8ポイント以上高い。〔図5-6〕

〔図 5-4〕

	n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払に備えるため	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	FIREのため	高額商品の購入資金	投資で社会を良くすることができるため	その他	目的はないが資金を増やしたい
2022年	(7018)	54.6	29.8	15.2	11.7	9.4	8.3	6.8	6.3	5.8	3.9	2.6	1.0	17.1
2021年	(7317)	54.5	24.1	16.0	9.2	8.5	8.2	7.7	5.7	5.7	3.2	2.1	1.0	14.6
2020年	(6626)	51.3	24.6	15.1	9.3	7.9	7.6	7.1	5.1	-	3.7	-	1.2	16.4

※選択肢「結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払に備えるため」は2021年までの「結婚資金」「住宅資金」を統合して聴取（2021年までは合算のため参考値）

※「投資で社会を良くすることができるため（ESG投資）」「FIRE（経済的自立・早期リタイア）のため」は2021年より聴取

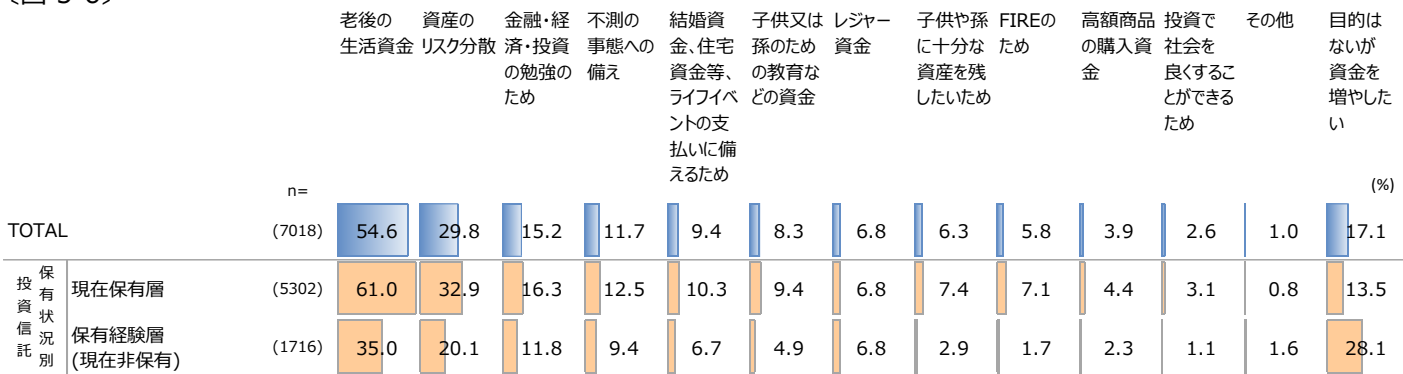
〔図 5-5〕

	n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払に備えるため	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	FIREのため	高額商品の購入資金	投資で社会を良くすることができるため	その他	目的はないが資金を増やしたい
TOTAL	(7018)	54.6	29.8	15.2	11.7	9.4	8.3	6.8	6.3	5.8	3.9	2.6	1.0	17.1
性別	男性 (4092)	52.8	32.4	17.4	11.6	10.5	8.4	7.5	6.6	8.0	5.1	3.2	1.1	16.2
	女性 (2926)	57.1	26.2	12.0	12.0	7.9	8.2	5.8	5.8	2.6	2.2	1.8	0.9	18.4
年代別	20代 (659)	41.3	28.5	24.4	13.1	26.9	12.4	14.3	9.1	14.9	10.8	4.9	0.6	12.6
	30代 (887)	50.6	33.7	24.2	15.4	17.9	18.9	9.7	8.7	13.3	6.9	5.0	0.2	11.7
	40代 (1188)	52.5	29.7	19.0	14.4	9.5	10.9	6.6	5.7	8.8	5.1	2.8	0.7	17.2
	50代 (1222)	59.3	29.4	13.9	9.1	7.4	6.9	4.5	3.5	4.1	2.4	2.0	0.7	16.6
	60代 (1431)	60.2	31.4	9.1	9.8	5.0	4.1	4.5	4.9	1.3	1.5	2.2	1.6	18.1
	70代 (1631)	55.3	27.2	9.9	11.0	3.1	3.6	6.0	7.5	0.9	1.8	1.0	1.5	21.3
世帯年収別	100万円未満 (194)	43.8	25.8	11.9	11.3	5.2	4.6	5.2	1.0	5.7	2.6	1.5	3.6	26.3
	～300万円未満 (976)	51.4	24.2	12.9	9.9	6.8	4.2	5.3	4.1	3.9	2.4	2.5	1.3	18.9
	～500万円未満 (1683)	54.6	28.6	14.1	11.1	9.6	5.6	7.1	5.5	4.9	4.5	2.3	0.8	17.3
	～1000万円未満 (2517)	57.0	31.3	16.7	12.0	11.4	11.8	7.5	7.4	6.8	4.2	2.9	0.6	14.5
	1000万円以上 (960)	57.4	38.0	19.1	14.7	10.3	11.3	8.4	9.7	7.6	5.7	4.1	1.4	12.0

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(2) 投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

〔図 5-6〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

- 購入時参考情報は、「投資信託を販売している会社のHP」(27.1%)、「目論見書・運用報告書」(26.8%)、「販売用資料」(25.1%)、「金融機関の担当者的話」(21.6%)が上位。前回より「目論見書・運用報告書」がやや減少。〔図5-7〕
- 若年層は、インターネット経由や動画、SNSからの情報が高い。一方、「金融機関の担当者的話」は高齢層ほど高い。〔図5-8〕
- 投信現在保有層は、保有経験層に比べて「投資信託を販売している会社のHP」「目論見書・運用報告書」「投資に関する情報サイト」が5.5ポイント以上高い。一方、「金融機関の担当者的話」は、保有経験層に比べて5.0ポイント低い。〔図5-9〕

〔図 5-7〕

	n=	投資信託を販売している会社のHP	目論見書・運用報告書	販売用資料	金融機関の担当者的話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	新聞	投資信託の機関	YouT ube等の動画配信	投資信託や資産運用に関する本	その他のインターネットの情報サイト	親族や知人の話	SNSからの情報	テレビ番組	雑誌	セミナーなど(会場開催)	セミナーなど(オンライン開催)	その他	特にな	(%)
2022年	(7018)	27.1	26.8	25.1	21.6	15.9	14.8	10.8	9.9	9.5	9.5	9.1	8.6	6.8	5.6	4.8	3.9	3.6	0.4	14.9	
2021年	(7317)	28.1	29.3	25.8	19.2	17.2	15.8	9.6	11.0	12.5	11.2	12.1	7.8	9.2	4.0	4.8	4.7	4.7	0.4	12.7	
2020年	(6626)	28.7	28.8	30.4	22.4	16.2	15.2	11.5	11.0	-	10.4	13.8	8.0	6.2	4.8	5.3	5.1	5.1	0.5	13.8	

※選択肢「セミナーなど（会場開催）」「セミナーなど（オンライン開催）」は2022年より分割して聴取のため同じ数値
 ※「YouTube等の動画配信」は2021年より聴取

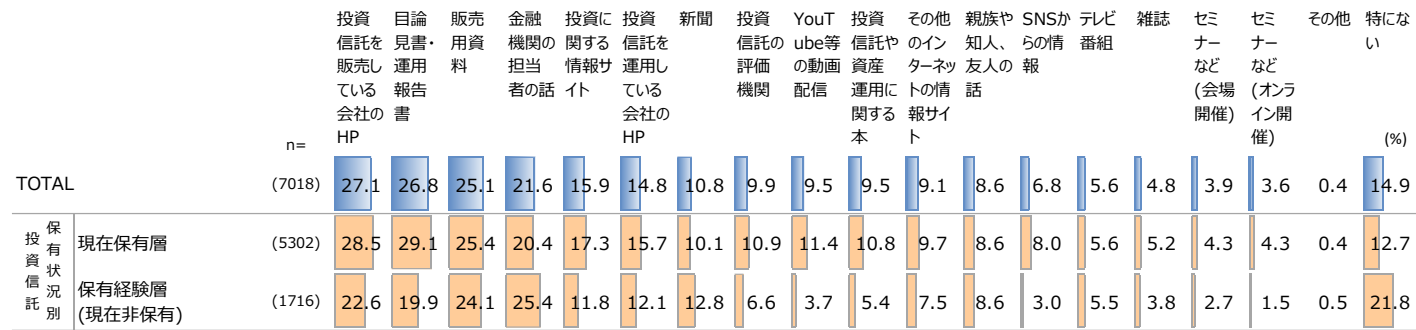
〔図 5-8〕

		n=	投資信託を販売している会社のHP	目論見書・運用報告書	販売用資料	金融機関の担当者的話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	新聞	投資信託の機関	YouT ube等の動画配信	投資信託や資産運用に関する本	その他のインターネットの情報サイト	親族や知人の話	SNSからの情報	テレビ番組	雑誌	セミナーなど(会場開催)	セミナーなど(オンライン開催)	その他	特にな	(%)
TOTAL		(7018)	27.1	26.8	25.1	21.6	15.9	14.8	10.8	9.9	9.5	9.5	9.1	8.6	6.8	5.6	4.8	3.9	3.6	0.4	14.9	
性別	男性	(4092)	29.5	30.2	26.3	14.8	19.0	17.3	12.0	12.1	11.2	10.3	9.9	5.3	7.2	5.7	5.7	4.1	4.2	0.5	14.8	
	女性	(2926)	23.7	22.1	23.3	31.2	11.6	11.4	9.1	6.7	7.1	8.3	8.1	13.2	6.2	5.5	3.7	3.8	2.8	0.3	15.0	
年代別	20代	(659)	26.9	30.0	22.8	5.8	19.0	20.3	10.3	12.9	27.6	12.0	10.6	11.5	22.9	5.9	4.7	3.8	5.5	0.2	10.0	
	30代	(887)	29.1	29.0	20.6	7.2	22.2	17.0	6.5	11.5	21.4	14.7	14.7	9.4	18.0	5.5	4.3	4.6	4.8	0.2	10.9	
	40代	(1188)	30.9	26.3	21.2	10.9	18.8	14.2	9.3	11.1	10.7	13.1	11.3	10.3	8.6	5.1	5.2	3.3	4.0	0.4	14.1	
	50代	(1222)	28.2	27.5	25.0	17.2	16.7	15.4	9.7	10.5	8.5	9.2	10.4	8.2	3.0	5.7	5.5	3.2	2.5	0.3	16.8	
	60代	(1431)	27.8	27.0	28.3	30.5	14.7	14.3	12.4	8.9	3.1	7.1	6.6	7.5	1.4	6.5	5.7	3.0	3.0	0.5	16.5	
	70代	(1631)	21.8	24.2	28.4	39.2	9.7	12.0	13.9	7.3	1.2	5.3	5.3	7.0	0.2	5.0	3.7	5.5	3.3	0.6	16.7	
世帯年収別	100万円未満	(194)	23.7	21.1	25.8	19.1	10.3	8.8	7.2	8.2	8.2	4.6	9.8	7.7	4.6	3.6	3.6	3.1	2.1	1.0	23.7	
	～300万円未満	(976)	22.7	22.6	23.4	25.5	11.9	11.7	10.3	6.5	8.1	7.8	8.0	6.0	5.0	6.1	3.2	4.1	3.1	0.5	17.1	
	～500万円未満	(1683)	25.7	25.0	25.2	24.1	15.2	14.3	10.3	9.1	8.7	8.3	8.4	7.7	7.1	6.4	3.6	3.9	3.4	0.2	14.9	
	～1000万円未満	(2517)	30.5	28.5	25.1	19.1	18.1	16.6	11.2	10.7	11.0	11.0	10.3	9.3	7.7	5.9	5.4	3.8	4.1	0.2	11.8	
	1000万円以上	(960)	31.6	34.5	29.2	18.2	21.5	19.7	13.6	15.6	10.3	11.8	10.0	10.9	7.5	4.8	7.7	5.3	5.0	0.8	10.2	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

〔図 5-9〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10：最大3項目回答〕

- 購入時重視点は、「値上がりへの期待」(36.5%) が最も高く、次いで「過去の運用実績」(31.3%)、「手数料や運用管理費用の水準」(22.4%)が続く。前回より「過去の運用実績」は7.2ポイント、「手数料や運用管理費用の水準」は4.5ポイント減少。〔図5-10〕
- 年代別でみると、「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」は若年層ほど重視率が高い傾向。高齢層は「換金のしやすさ」「過去の分配金額」「分配頻度」が高い傾向。〔図5-11〕
- 投信保有経験層は、保有経験層に比べて「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」が低く、「値下がりへの不安が少ない」「換金のしやすさ」が高い。〔図5-12〕

〔図 5-10〕

	n=	値上がりへの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費用の水準	値下がりへの不安が少ない	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	分配頻度	換金のしやすさ	過去の分配金額	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	わからない・特にない	(%)
2022年	(7018)	36.5	31.3	22.4	21.8	21.5	13.0	10.7	10.7	9.3	7.4	5.7	5.4	3.0	0.6	9.1	
2021年	(7317)	35.1	38.5	26.9	25.4	18.7	9.0	6.9	9.5	8.8	7.7	5.7	4.0	3.5	0.5	11.5	
2020年	(6626)	32.9	37.1	23.7	26.6	18.7	10.6	8.2	11.0	10.6	7.1	5.9	4.7	3.5	0.7	11.9	

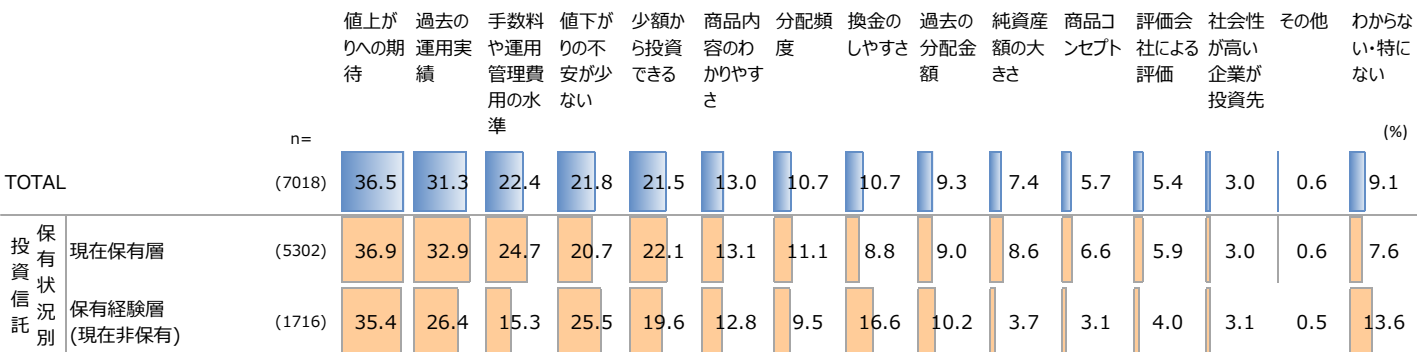
〔図 5-11〕

		n=	値上がりへの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費用の水準	値下がりへの不安が少ない	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	分配頻度	換金のしやすさ	過去の分配金額	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(7018)	36.5	31.3	22.4	21.8	21.5	13.0	10.7	10.7	9.3	7.4	5.7	5.4	3.0	0.6	9.1	
性別	男性	(4092)	40.0	33.9	23.4	18.8	20.1	12.4	10.7	11.4	9.1	8.4	6.2	4.7	2.3	0.6	8.2	
	女性	(2926)	31.7	27.5	20.9	26.0	23.4	13.9	10.6	9.6	9.6	6.0	5.1	6.4	4.1	0.6	10.3	
年代別	20代	(659)	37.0	38.5	23.4	23.4	22.9	10.8	9.0	12.3	5.8	9.9	4.7	4.9	2.7	0.3	4.9	
	30代	(887)	36.0	34.4	26.8	20.2	26.9	13.2	7.7	10.6	6.0	9.5	7.2	4.8	2.7	0.2	6.7	
	40代	(1188)	33.3	31.4	27.6	19.4	26.4	12.3	8.3	8.6	6.4	8.1	5.0	4.5	1.8	0.5	10.4	
	50代	(1222)	37.4	32.2	24.0	20.2	23.5	12.6	9.2	7.2	7.2	6.8	6.5	5.4	2.5	0.3	9.2	
	60代	(1431)	36.5	31.7	21.2	22.7	17.0	15.6	12.2	10.4	11.3	7.7	6.3	6.6	3.8	0.8	8.9	
	70代	(1631)	38.3	25.5	15.5	24.3	16.8	12.4	14.5	14.4	14.5	5.0	4.9	5.7	4.1	0.9	11.1	
世帯年収別	100万円未満	(194)	30.4	24.2	18.6	21.1	20.1	7.2	8.2	9.8	14.4	3.6	4.1	3.1	2.1	2.1	19.1	
	～300万円未満	(976)	35.3	26.5	19.9	22.3	25.6	12.8	11.8	10.0	11.8	5.5	4.9	5.2	2.0	0.7	10.2	
	～500万円未満	(1683)	37.3	30.1	22.0	22.2	21.0	12.5	11.3	11.3	8.8	7.1	6.2	6.0	3.3	0.5	8.0	
	～1000万円未満	(2517)	38.2	33.6	23.1	22.4	22.2	13.0	9.9	10.9	8.7	8.4	5.6	5.1	3.1	0.5	7.3	
	1000万円以上	(960)	38.6	37.7	26.3	19.9	17.4	17.0	12.7	10.1	8.4	8.5	7.6	6.9	3.2	0.4	6.0	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10：最大3項目回答〕

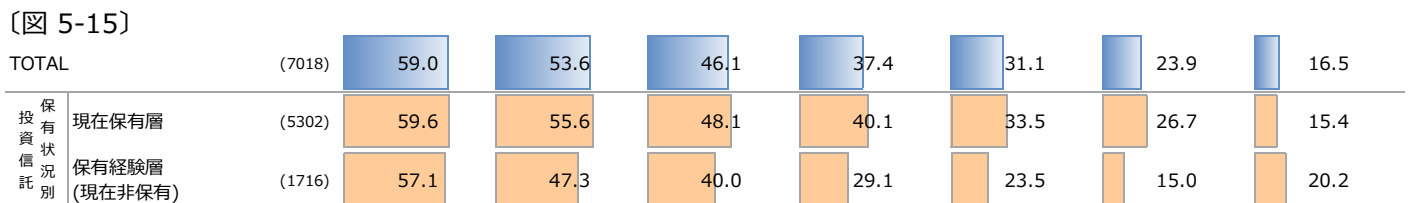
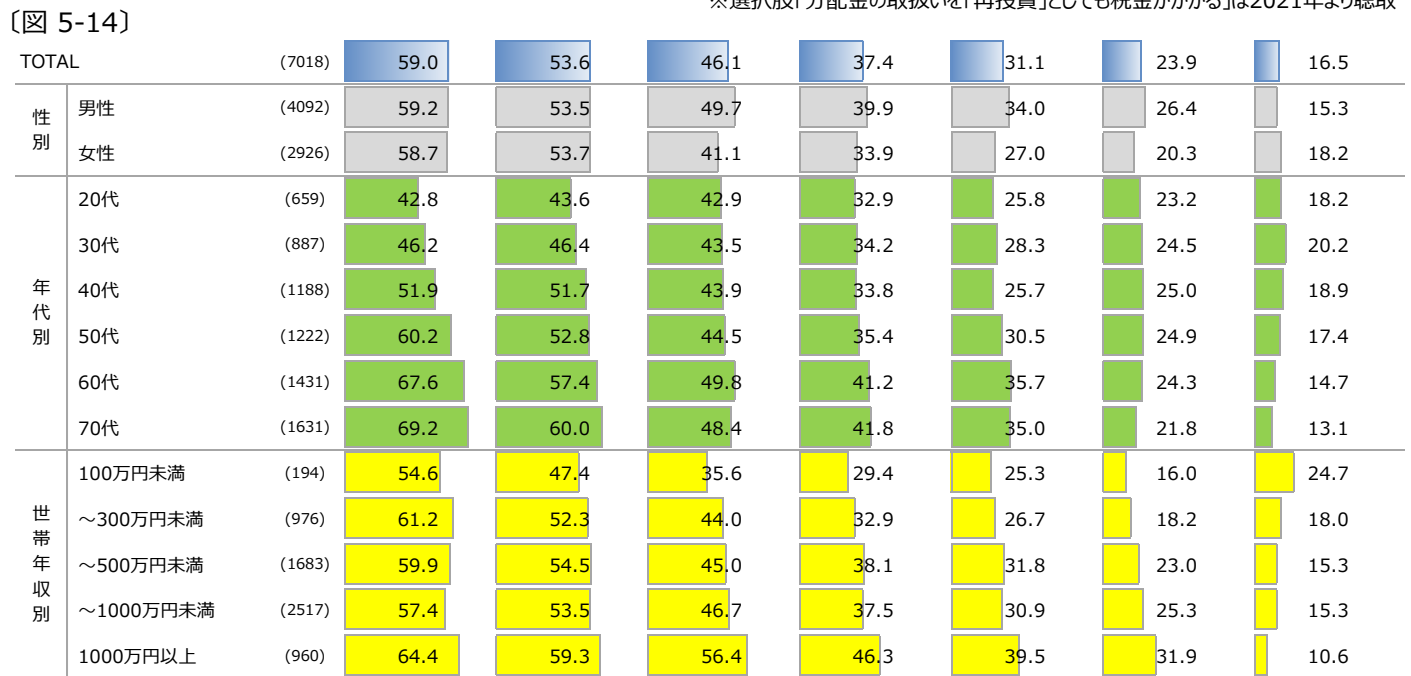
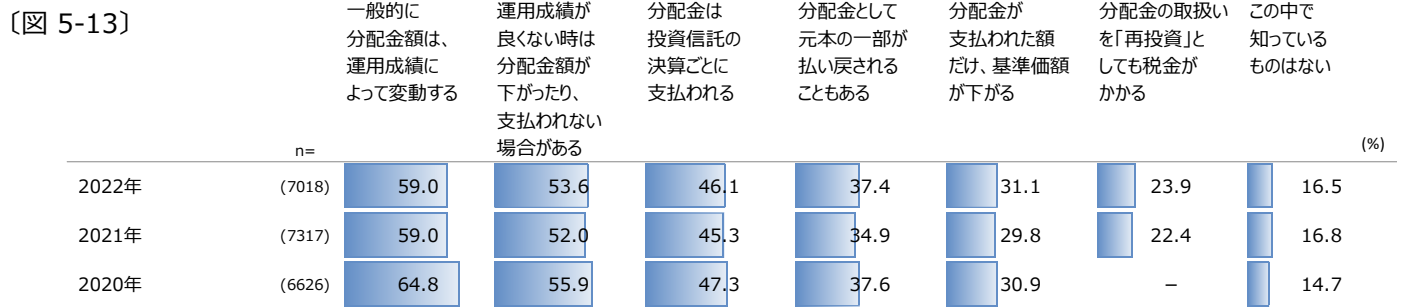
〔図 5-12〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（5）分配金の特徴認知状況〔Q13:重複回答〕

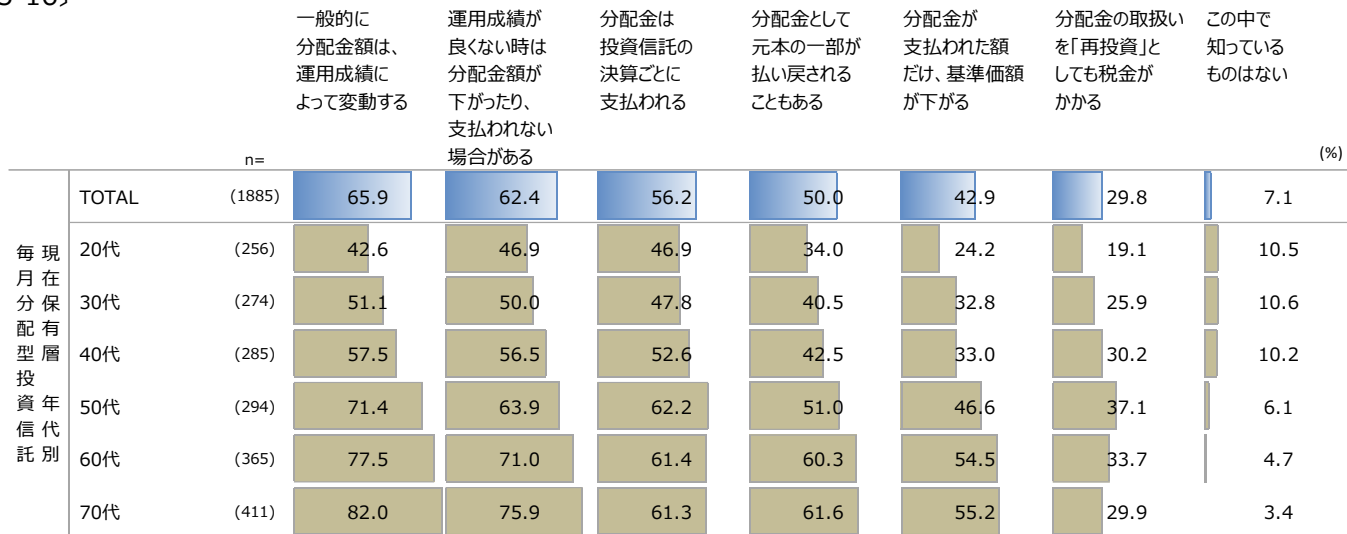
- 分配金の特徴認知は、「運用成績によって変動する」(59.0%)が最も高く、次いで「運用成績が良くない時は分配金額が下がったり、支払われない場合がある」(53.6%)、「分配金は投資信託の決算ごとに支払われる」(46.1%)が続く。〔図5-13〕
- 「運用成績によって変動する」「運用成績が良くない時は分配金額が下がったり、支払われない場合がある」「分配金は投資信託の決算ごとに支払われる」「分配金として元本の一部が払い戻されることがある」は年代が高いほど認知率が高い。〔図5-14〕
- 現在投信保有層は保有経験層に比べて、いずれの特徴でも認知率が高い。また、毎月分配型保有者層は、現在保有層・保有経験層よりもいずれの認知率が5.9～12.6ポイント高い。〔図5-15、図5-16〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(5) 分配金の特徴認知状況（毎月分配型保有者）〔Q13:重複回答〕

〔図 5-16〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（6）償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

- 投資信託の償還・売却資金流出先は、「預貯金・MRFなどにまわした」(25.1%)が最も高いが、「すぐに株式・債券を購入」(20.4%)、「すぐに他の投資信託購入」(19.7%)が高い。前回より「預貯金・MRFなどにまわした」がやや高い。〔図5-17〕
- 年代別で見ると、高齢層は「預貯金・MRF」「生活資金」「まとまった支出」が高い傾向。「すぐに他の投資信託購入」「すぐに株式・債券を購入」は若年層で高い傾向。〔図5-18〕
- 現在投信保有層は、保有経験層に比べて「すぐに他の投資信託購入」が高い。保有経験層は、「生活資金」「まとまった支出」が高い。〔図5-19〕

〔図 5-17〕

	n=	預貯金・MRF などにまわした	すぐに株式、 債券を購入した	すぐに他の投資 信託を購入した	生活資金として 引き出した	まとまった支出に あてた ※生活 資金にあてた 場合を除く	その他	売却経験 なし／償還 でお金を得 たことはない	(%)
2022年	(7018)	25.1	20.4	19.7	16.4	9.4	1.0	32.3	
2021年	(7317)	21.4	20.6	20.9	18.4	8.9	1.0	33.4	
2020年	(6626)	25.4	19.2	18.9	20.3	10.5	1.7	28.8	

〔図 5-18〕

	n=	預貯金・MRF などにまわした	すぐに株式、 債券を購入した	すぐに他の投資 信託を購入した	生活資金として 引き出した	まとまった支出に あてた ※生活 資金にあてた 場合を除く	その他	売却経験 なし／償還 でお金を得 たことはない	(%)
TOTAL	(7018)	25.1	20.4	19.7	16.4	9.4	1.0	32.3	
性別									
男性	(4092)	24.8	24.2	21.4	17.7	9.3	0.9	30.8	
女性	(2926)	25.4	15.1	17.3	14.6	9.4	1.3	34.4	
年代別									
20代	(659)	20.5	29.7	24.4	15.0	8.6	0.2	37.6	
30代	(887)	18.8	23.3	22.7	12.2	7.0	0.0	44.8	
40代	(1188)	20.5	21.2	18.8	15.2	6.1	0.5	40.4	
50代	(1222)	24.1	18.2	18.3	12.9	8.5	1.0	37.3	
60代	(1431)	29.4	18.0	19.0	17.5	9.1	1.5	28.0	
70代	(1631)	30.5	18.3	18.5	21.9	14.2	2.0	17.7	
世帯年収別									
100万円未満	(194)	20.1	14.4	15.5	25.8	9.3	2.6	33.5	
～300万円未満	(976)	24.8	16.9	16.6	24.4	9.3	1.3	26.8	
～500万円未満	(1683)	25.8	19.7	19.7	18.5	10.3	0.8	29.6	
～1000万円未満	(2517)	23.4	22.1	20.7	13.6	8.7	0.7	35.8	
1000万円以上	(960)	29.4	27.3	25.0	12.0	9.5	0.8	30.5	

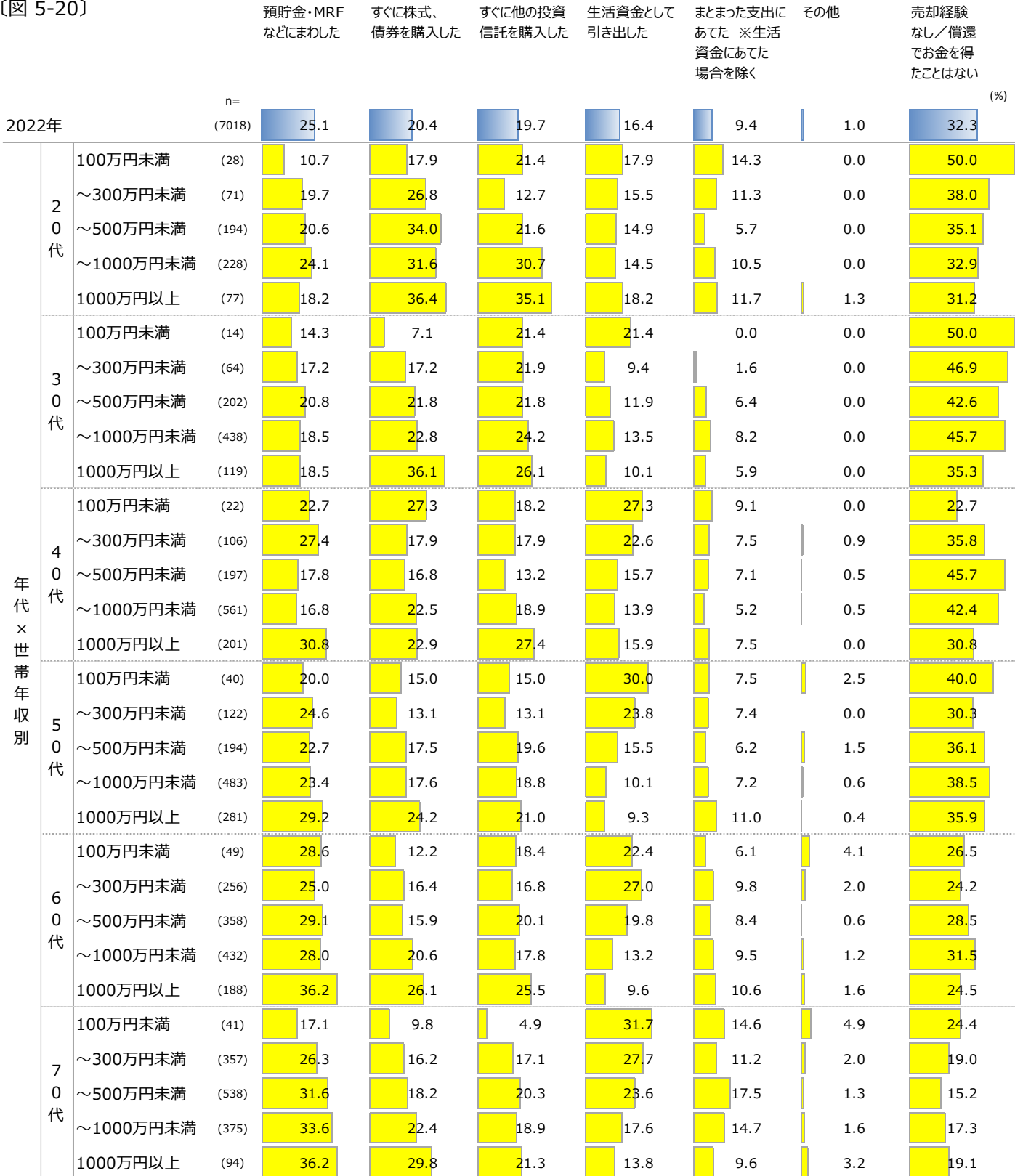
〔図 5-19〕

	n=	預貯金・MRF などにまわした	すぐに株式、 債券を購入した	すぐに他の投資 信託を購入した	生活資金として 引き出した	まとまった支出に あてた ※生活 資金にあてた 場合を除く	その他	売却経験 なし／償還 でお金を得 たことはない	(%)
TOTAL	(7018)	25.1	20.4	19.7	16.4	9.4	1.0	32.3	
投資信託 保有状況別									
現在保有層	(5302)	24.5	21.0	24.0	11.8	7.5	0.6	38.8	
保有経験層 (現在非保有)	(1716)	26.9	18.6	6.4	30.8	15.2	2.4	12.4	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(6) 償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

〔図 5-20〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15：重複回答〕

- 魅力点上位は前回と変わらず「少額でも分散投資ができる」(51.1%)、「専門知識や時間がなくても投資ができる」(32.5%)が続く。「積立投資ができる」(31.0%)は前回より4.0ポイント低い。〔図5-21〕
- 年代別で見ると、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「手数料が比較的安い」が高い傾向がみられ、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。〔図5-22〕
- 投信現在保有層は保有経験層に比べて、「定期的に分配金が受け取れる」以外の全ての項目が高い。特に「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「外国への投資が手軽にできる」が10ポイント以上高い。〔図5-23〕

〔図 5-21〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間もなくても投資ができる	積立投資ができる	少額でも投資の面白味がある	購入手続きが簡単である	定期的に分配金が受け取れる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	比較的高い利回りが見込める	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	外国への投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が豊富	その他	わからない・特にない	(%)
2022年	(7018)	51.1	32.5	31.0	25.3	24.2	21.8	19.7	19.4	18.2	17.6	16.1	7.2	0.3	14.5	
2021年	(7317)	56.6	37.0	35.0	23.8	25.0	21.7	20.8	23.3	20.8	17.2	19.2	7.9	0.2	14.4	
2020年	(6626)	53.0	35.0	30.6	22.9	22.5	22.1	20.3	23.1	19.8	13.7	14.4	7.7	0.2	16.5	

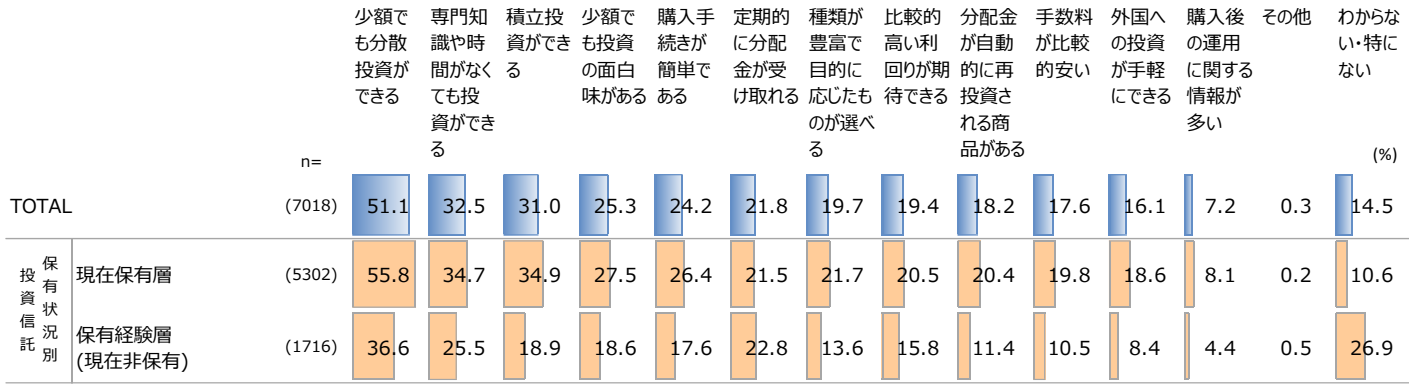
〔図 5-22〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間もなくても投資ができる	積立投資ができる	少額でも投資の面白味がある	購入手続きが簡単である	定期的に分配金が受け取れる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	比較的高い利回りが見込める	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	外国への投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が豊富	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(7018)	51.1	32.5	31.0	25.3	24.2	21.8	19.7	19.4	18.2	17.6	16.1	7.2	0.3	14.5	
性別																
男性	(4092)	54.6	32.6	32.2	27.8	24.1	19.0	21.5	19.3	19.0	17.3	17.3	7.6	0.3	13.8	
女性	(2926)	46.1	32.3	29.3	21.9	24.4	25.8	17.2	19.5	17.0	17.9	14.4	6.6	0.3	15.7	
年代別																
20代	(659)	63.4	37.0	36.0	35.1	22.3	10.2	19.4	14.3	13.2	20.0	15.6	6.8	0.3	5.6	
30代	(887)	63.0	36.1	40.2	35.4	23.7	11.0	21.0	16.3	16.8	22.7	17.1	7.6	0.2	8.7	
40代	(1188)	59.2	30.1	35.3	29.5	24.3	14.7	18.4	17.6	16.6	22.0	15.2	6.6	0.3	11.4	
50代	(1222)	52.2	30.4	32.6	25.1	25.0	17.1	17.5	20.6	16.7	20.5	16.6	7.3	0.0	15.4	
60代	(1431)	43.8	29.7	26.7	18.4	24.2	26.3	20.1	20.3	19.6	15.4	16.0	6.4	0.3	18.4	
70代	(1631)	39.2	34.3	23.5	19.1	24.6	37.2	21.3	22.6	21.8	10.2	16.0	8.3	0.6	19.7	
世帯年収別																
100万円未満	(194)	48.5	28.4	23.7	24.2	26.8	16.5	15.5	13.9	13.4	17.5	15.5	3.6	1.5	25.3	
～300万円未満	(976)	45.5	30.6	28.0	21.6	25.2	25.5	18.1	18.3	16.8	15.9	15.5	7.1	0.5	17.2	
～500万円未満	(1683)	50.1	33.3	30.1	23.2	22.1	24.8	19.4	19.5	19.1	15.0	14.9	6.4	0.1	14.4	
～1000万円未満	(2517)	55.5	33.2	33.7	28.7	25.3	20.2	19.0	19.4	18.0	18.8	15.4	7.7	0.2	11.1	
1000万円以上	(960)	56.8	34.5	33.8	29.9	26.6	18.4	26.9	22.6	21.3	21.6	21.4	9.6	0.2	10.6	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15：重複回答〕

〔図 5-23〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（8）投資信託で不満に感じる点〔Q16：重複回答〕

- 不満点は、「リターンが低い」(25.7%)、「手数料が比較的高い」(25.6%)、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(23.6%)、「専門知識がないと商品を選びにくい」(22.6%)が上位。〔図5-24〕
- 「手数料が比較的高い」「仕組みや運用手法がわかりにくい」「専門知識がないと商品を選びにくい」「高い利回りを期待できる一方で元本保証がない」「公社債に比べてリスクが高い」は高齢層ほど高い傾向。〔図5-25〕
- 投信現在保有層では、保有経験層に比べて多くの項目で不満点は低い傾向にあるが、「種類が多くて迷う」「金融機関によって取り扱っていない商品がある」は保有経験層より高い。〔図5-26〕

〔図 5-24〕

	n=	リターンが低い	手数料が比較的高い	仕組みや運用手法がわかりにくい	専門知識がないと商品を選びにくい	種類が多くて迷う	高い利回りを期待できる一方で元本保証がない	株式に比べて面白くない	公社債に比べてリスクが高い	金融機関によって取り扱っていない商品がある	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	その他	わからない・特にな	(%)
2022年	(7018)	25.7	25.6	23.6	22.6	19.1	18.7	18.6	14.2	12.3	10.5	7.6	7.0	0.6	18.2	
2021年	(7317)	20.6	24.2	24.4	20.5	18.1	19.0	16.2	12.7	11.7	11.1	7.4	7.8	0.7	22.4	
2020年	(6626)	23.5	27.2	27.9	22.5	18.0	25.9	16.1	15.7	-	12.0	7.1	8.3	0.7	19.1	

※選択肢「高い利回りを期待できる一方で元本保証がない」は、2020年まで「元本保証がない」で聴取
 ※「金融機関によって取り扱っていない商品がある」は、2021年より聴取

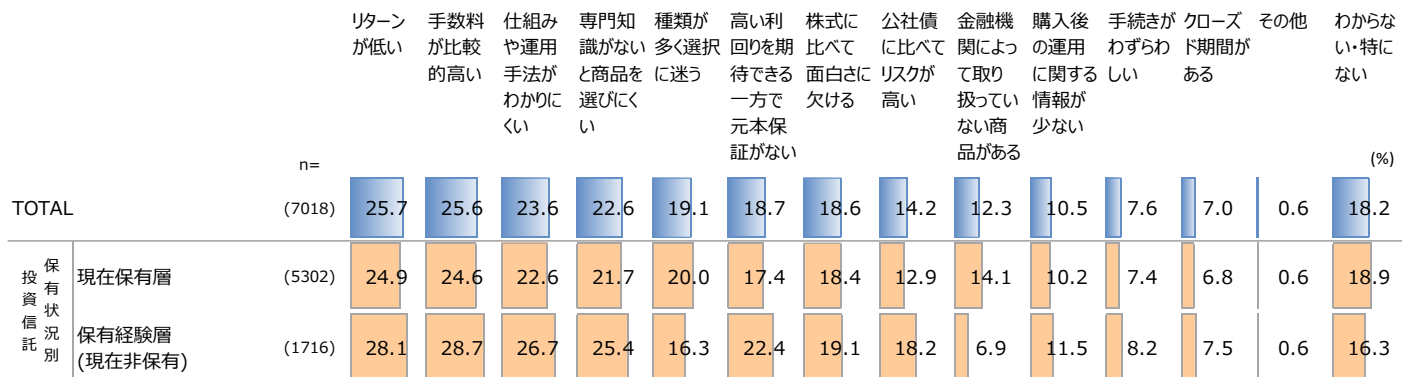
〔図 5-25〕

		n=	リターンが低い	手数料が比較的高い	仕組みや運用手法がわかりにくい	専門知識がないと商品を選びにくい	種類が多くて迷う	高い利回りを期待できる一方で元本保証がない	株式に比べて面白くない	公社債に比べてリスクが高い	金融機関によって取り扱っていない商品がある	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	その他	わからない・特にな	(%)
TOTAL		(7018)	25.7	25.6	23.6	22.6	19.1	18.7	18.6	14.2	12.3	10.5	7.6	7.0	0.6	18.2	
性別	男性	(4092)	27.8	25.5	20.4	17.6	16.4	14.1	21.6	12.8	11.6	10.0	7.6	7.0	0.6	19.7	
	女性	(2926)	22.8	25.8	28.1	29.6	22.8	25.1	14.4	16.3	13.3	11.2	7.6	7.0	0.7	16.1	
年代別	20代	(659)	30.3	13.1	19.9	21.2	16.2	9.6	24.4	11.5	11.4	13.1	11.5	9.1	0.3	15.9	
	30代	(887)	25.6	14.0	17.1	19.7	15.7	7.3	18.7	11.3	11.3	8.8	11.6	5.6	0.6	22.1	
	40代	(1188)	27.6	18.9	19.9	19.2	16.5	11.5	16.3	10.1	11.1	8.6	7.4	5.2	1.0	19.9	
	50代	(1222)	24.7	26.8	23.8	20.9	18.5	17.1	14.2	11.8	12.7	8.3	7.9	6.0	0.3	19.9	
	60代	(1431)	25.5	32.6	27.3	23.8	20.3	24.3	17.4	15.1	12.1	10.1	6.6	7.2	0.7	16.6	
	70代	(1631)	23.5	35.0	27.9	27.3	23.4	29.9	22.1	21.0	14.1	14.0	4.5	8.7	0.7	16.1	
世帯年収別	100万円未満	(194)	22.7	20.6	23.2	20.1	16.5	18.0	10.3	14.4	11.3	10.3	7.7	8.8	1.0	26.3	
	～300万円未満	(976)	25.4	27.9	25.8	24.8	21.3	20.5	15.8	13.6	12.0	11.2	7.1	6.7	1.2	19.3	
	～500万円未満	(1683)	26.6	26.6	24.8	24.3	20.6	21.9	19.5	14.9	13.0	11.6	7.0	7.2	0.4	15.2	
	～1000万円未満	(2517)	26.4	23.8	22.4	21.9	17.6	17.0	19.9	13.9	11.7	9.6	8.6	6.8	0.5	17.2	
	1000万円以上	(960)	27.5	27.6	21.4	17.9	17.2	15.1	21.5	15.9	13.3	11.4	7.7	7.9	1.1	17.3	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で不満に感じる点〔Q16：重複回答〕

〔図 5-26〕

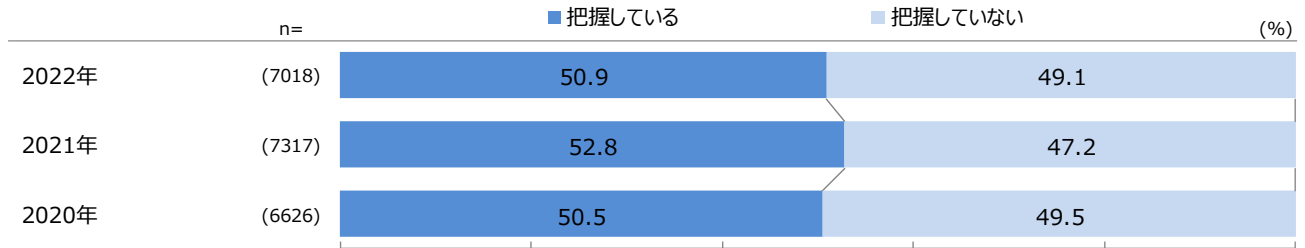


5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

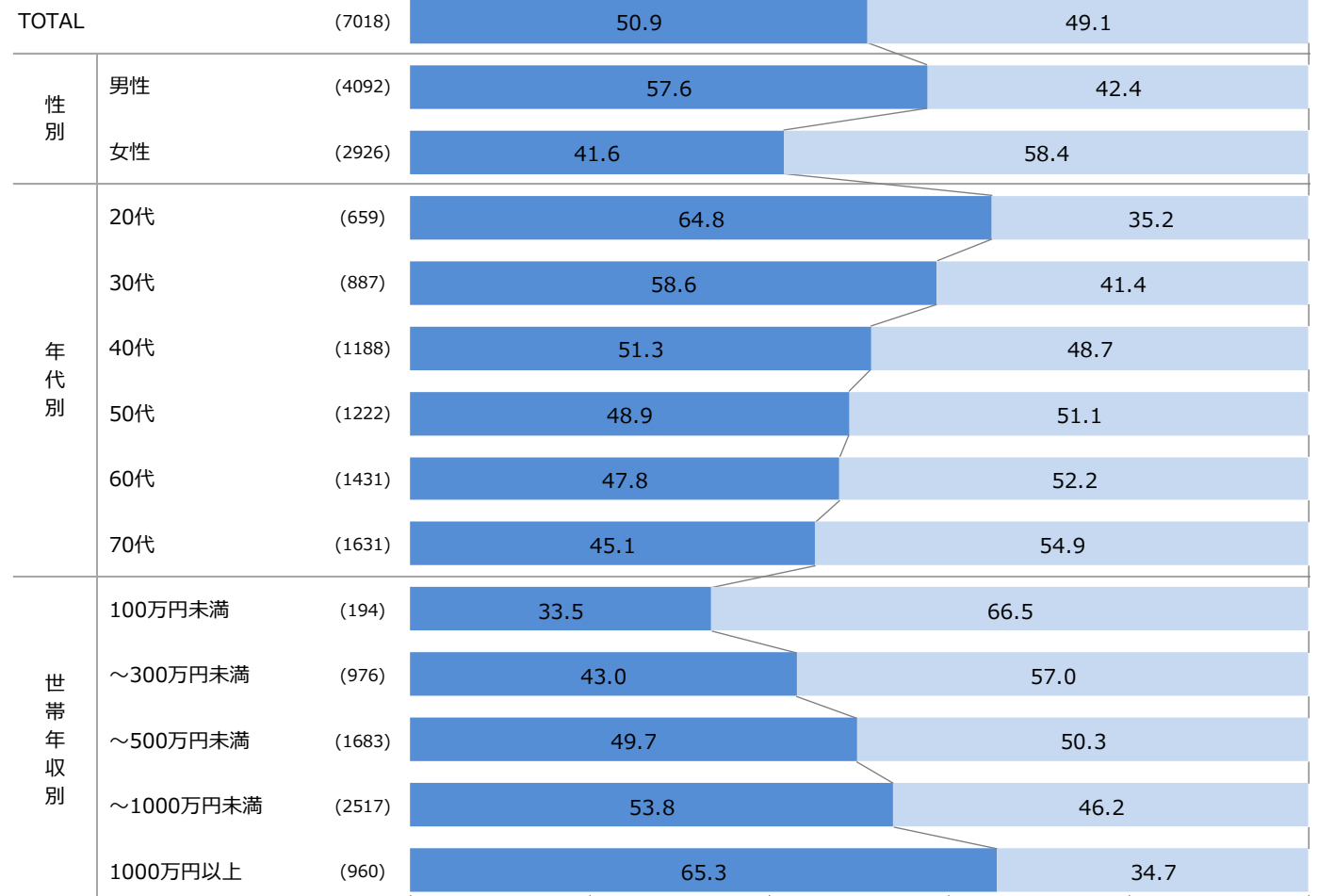
（9）トータルリターンの把握状況〔Q24:単数回答〕

- 現在、または過去に保有していた投資信託の「トータルリターン」は、投信現在保有層・保有経験層での把握率は50.9%で、半数が把握している。〔図5-27〕
- 年代別では若年層ほど把握率が高い。特に20代は6割を超える。また、世帯年収が高いほど把握率が高くなる傾向。〔図5-28〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層は、把握率が56.2%と保有経験層より21.7ポイント高い。〔図5-29〕

〔図 5-27〕



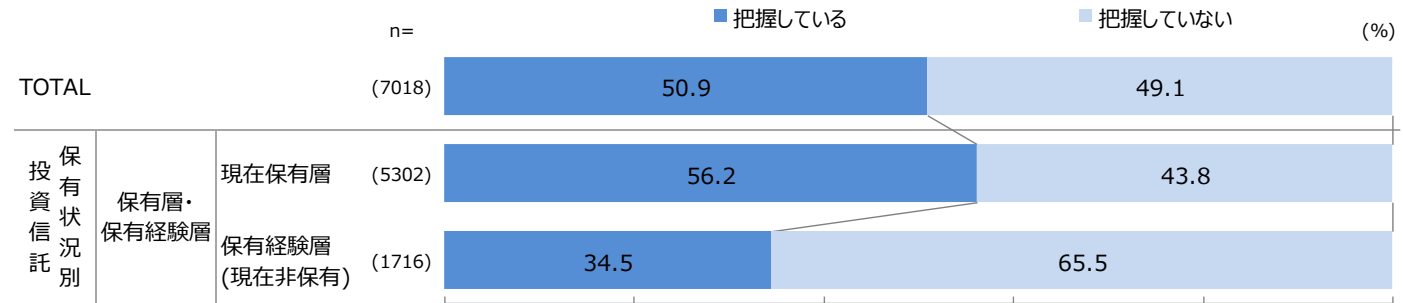
〔図 5-28〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（9）トータルリターンの把握状況〔Q24:単数回答〕

〔図 5-29〕



6. 投資信託保有未経験者の状況 (金融資産保有未経験層を含む)



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

（1）投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

- 投信保有未経験層の投信非購入理由は、「投資の知識がない」(51.4%)、「興味がない」(35.2%)、「損をしそうで怖い」(27.1%)が上位。前回より「投資の知識がない」が11.5ポイント高い。〔図6-1〕
- 年代別でみると、若年層ほど「投資の仕組みがよくわからない」「なんとなく機会がなかった」が高く、「元本保証がない」は低くなる傾向。〔図6-2〕
- 投信保有状況別では、金融資産保有経験のある層は、金融資産保有経験の無い層と比べて「手数料など費用が高い」「投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい」が7.8～9.7ポイント高い。金融資産保有経験の無い層では「投資の知識がない」「そもそも興味がない」が7.4～14.0ポイント高い。〔図6-3〕

〔図 6-1〕

	n=	投資の知識がない	そもそも興味がない	損をしそうで怖い	まとまった資金がない	元本保証がない	投資信託の仕組みがよくわからない	手数料など費用が高い	なんとなく機会がなかった	商品の種類が多すぎて自分で選択できない	購入するのに手間がかかる	投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい	投資信託の存在を知らなかった	友人・知人から投資について良い話を聞かないから	家族から投資について良い話を聞かないから	その他	(%)
2022年	(12982)	51.4	35.2	27.1	22.1	20.9	16.3	12.6	6.9	6.2	4.1	3.2	2.7	2.5	2.4	0.7	
2021年	(12683)	39.9	36.8	30.5	23.3	21.6	23.0	12.6	9.9	7.5	4.7	2.9	5.6	3.2	2.7	0.8	
2020年	(13374)	39.5	36.8	31.4	24.4	22.6	22.8	12.6	9.2	7.7	5.1	3.6	5.6	-	-	0.8	

※選択肢「家族から投資について良い話を聞かないから」「友人・知人から投資について良い話を聞かないから」は2021年より聴取

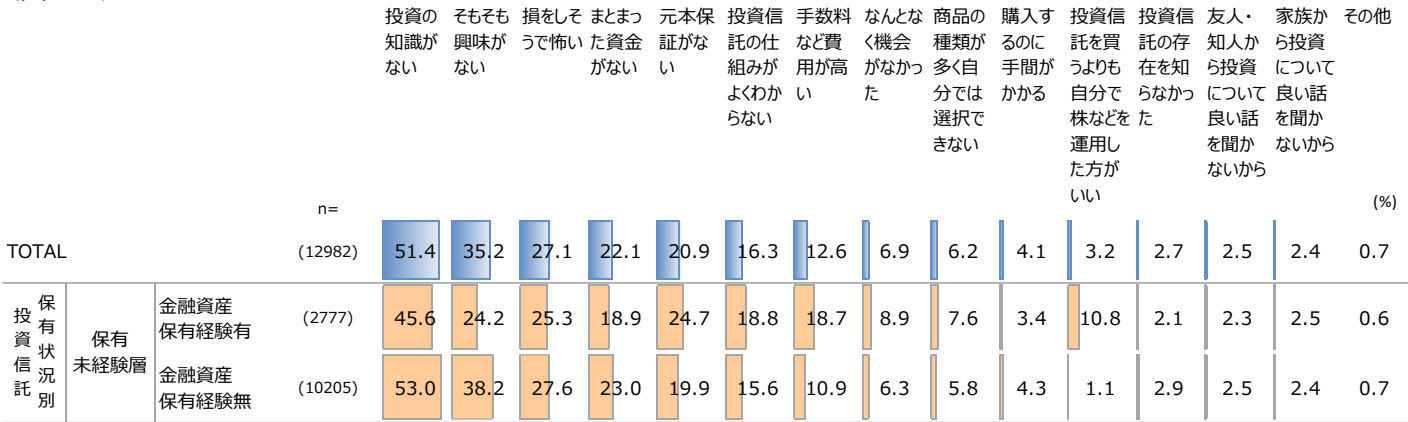
〔図 6-2〕

TOTAL		(12982)	51.4	35.2	27.1	22.1	20.9	16.3	12.6	6.9	6.2	4.1	3.2	2.7	2.5	2.4	0.7
性別	男性	(5865)	42.7	36.1	22.9	21.9	19.3	14.0	12.8	7.7	4.4	3.8	4.5	2.8	2.3	2.0	1.0
	女性	(7117)	58.6	34.4	30.6	22.3	22.2	18.3	12.4	6.2	7.6	4.4	2.1	2.7	2.6	2.8	0.4
年代別	20代	(1949)	48.4	34.0	24.7	22.4	9.9	18.9	8.8	10.3	5.1	4.6	1.8	4.4	2.4	2.0	0.6
	30代	(2110)	52.8	31.5	27.5	23.3	13.4	18.7	10.2	7.3	5.5	4.4	3.2	3.7	2.1	2.8	0.3
	40代	(2738)	53.4	30.4	28.2	22.8	19.2	17.3	13.2	7.2	6.6	4.9	3.0	2.8	2.0	2.4	0.7
	50代	(2379)	52.4	33.1	29.3	22.7	25.3	14.6	14.5	6.3	6.2	4.5	3.0	2.2	2.1	2.0	0.5
	60代	(1917)	52.8	39.5	27.8	21.5	29.7	13.6	15.1	4.3	6.0	3.4	3.4	1.9	2.2	2.5	0.8
	70代	(1889)	47.5	45.8	24.3	19.6	28.8	14.3	13.2	5.7	7.4	2.3	4.7	1.3	4.3	3.0	1.2
世帯年収別	100万円未満	(663)	49.8	38.3	26.4	24.9	19.3	16.0	13.7	6.5	5.9	4.7	3.0	3.0	1.8	2.4	1.4
	～300万円未満	(2280)	54.3	36.3	28.0	29.3	23.6	16.7	14.6	5.1	6.5	4.4	2.2	2.8	3.0	2.7	1.2
	～500万円未満	(2942)	53.5	33.8	29.0	23.9	22.2	16.8	13.7	6.9	6.4	4.4	3.7	2.3	3.1	2.3	0.6
	～1000万円未満	(3509)	54.2	26.7	29.4	20.9	21.7	18.7	12.2	7.2	6.4	4.0	3.7	3.3	2.2	2.5	0.3
	1000万円以上	(846)	45.4	28.8	26.2	12.8	23.0	14.7	13.4	10.0	6.9	4.1	6.5	2.6	3.0	3.4	0.4

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

（1）投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

〔図 6-3〕



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

- 投資信託購入検討のきっかけは、「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」(27.0%)、「金融や投資を勉強して理解できたら」(17.1%)、「手取り収入が増えたら」(16.8%)が上位。〔図6-4〕
- 年代別では、若年層ほど「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「貯蓄が一定額に達したら」「家族に勧められたら」「初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば」「金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら」「知人・友人に勧められたら」が高くなる傾向。〔図6-5〕
- 投信保有状況別でみると、金融資産保有経験のある層は、金融資産保有経験の無い層と比べては「手数料の低い投資信託商品が充実してきたら」「税制上の優遇措置が、より充実していたら」が6.2～7.0ポイント高い。金融資産保有経験の無い層は、「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」が11.0ポイント高い。〔図6-6〕

〔図 6-4〕

	n=	保有しているポイントで投資/運用ができるなら	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	家族に勧められたら	少額で積立てができる商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が向上し、値上がり期待が大きくなったら	税制上の優遇措置が、より充実してきたら	友人・知人に勧められたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	その他	(%)
2022年	(12982)	27.0	17.1	16.8	14.5	11.6	10.9	10.6	9.6	9.4	8.9	8.8	6.8	6.0	3.5	2.6	9.0	
2021年	(12683)	27.1	20.9	17.5	16.2	14.3	11.2	-	11.7	11.2	9.7	9.2	6.0	7.1	4.0	2.7	8.8	
2020年	(13374)	-	22.1	20.5	17.6	16.7	20.1	-	13.4	12.4	11.5	11.7	8.9	20.1	5.1	10.0	9.3	

※選択肢「少額で積立てができる商品が充実してきたら」は2022年より聴取

※「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」は2021年より聴取

※「家族に勧められたら」「友人・知人に勧められたら」は、2020年までの「身近な人に勧められたら」を分割して聴取のため同じ数値

〔図 6-5〕

	n=	保有しているポイントで投資/運用ができるなら	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	家族に勧められたら	少額で積立てができる商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が向上し、値上がり期待が大きくなったら	税制上の優遇措置が、より充実してきたら	友人・知人に勧められたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	その他	(%)	
TOTAL	(12982)	27.0	17.1	16.8	14.5	11.6	10.9	10.6	9.6	9.4	8.9	8.8	6.8	6.0	3.5	2.6	9.0		
性別																			
男性	(5865)	27.4	15.2	18.4	16.0	9.6	7.7	8.9	7.9	8.1	9.0	8.2	8.0	5.9	4.0	2.9	9.7		
女性	(7117)	26.6	18.7	15.5	13.2	13.3	13.6	12.0	11.0	10.4	8.9	9.3	5.8	6.2	3.1	2.3	8.4		
年代別																			
20代	(1949)	32.4	19.2	22.3	19.1	8.4	16.3	8.4	12.3	12.6	5.6	6.7	4.1	9.2	2.7	3.8	4.5		
30代	(2110)	31.8	18.8	21.0	18.7	10.5	15.5	10.1	10.9	9.6	7.9	8.3	5.9	9.6	2.8	3.0	4.4		
40代	(2738)	29.9	19.0	19.6	16.8	12.7	11.2	11.4	9.8	9.3	10.9	8.5	6.6	6.5	3.8	3.4	5.1		
50代	(2379)	27.2	15.4	17.2	12.7	12.3	8.7	10.6	8.4	8.8	9.4	8.4	7.9	5.2	4.0	2.4	8.2		
60代	(1917)	21.1	13.8	10.4	9.9	13.5	7.1	11.2	8.1	8.1	9.8	10.4	7.3	2.2	4.7	1.4	14.5		
70代	(1889)	17.4	15.9	8.3	8.4	11.9	6.6	11.8	7.9	7.7	9.1	10.6	9.1	3.2	2.8	1.2	19.9		
世帯年収別																			
100万円未満	(663)	30.9	16.4	19.2	15.2	9.4	7.8	9.4	8.3	7.5	7.2	7.2	4.8	4.2	2.7	1.8	10.3		
～300万円未満	(2280)	25.7	15.2	19.4	14.4	10.9	8.8	10.8	8.6	7.9	8.6	9.4	5.9	5.3	4.4	1.5	12.1		
～500万円未満	(2942)	25.7	17.4	18.2	17.0	13.5	9.7	12.3	9.8	9.1	9.7	9.3	7.2	6.7	3.9	2.7	9.1		
～1000万円未満	(3509)	23.6	19.6	16.8	15.4	12.8	13.9	11.1	11.9	12.1	10.1	9.5	7.6	7.6	4.0	3.1	5.0		
1000万円以上	(846)	21.5	19.3	13.1	13.0	12.3	16.1	9.8	12.1	13.1	11.7	8.5	10.3	8.9	3.9	4.0	6.0		

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

（2）投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

〔図 6-6〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

- 投資信託の特徴認知では、「元本保証がない」(48.2%)が最も高く、「リスクとリターンは表裏一体の関係」(38.4%)、「価格変動と為替リスクがある」(32.3%)、「過去実績は将来のリターンを保証するものではない」(30.4%)、「証券会社以外でも購入できる」(29.0%) が上位。上位4項目は前回よりやや減少。〔図7-1〕
- 年代が高くなるほど、商品特徴の認知率が高くなる傾向にあるが、「ポイントで投資信託に投資/運用できる」は若年層ほど高くなる。世帯年収が高くなるほど、いずれの商品特徴の認知率も高くなる。〔図7-2〕
- 投信現在保有種類別でみると、現在保有層はいずれの項目も他の層より高い。上位8項目においては認知度が5割を超える。〔図7-4〕

〔図 7-1〕

	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	過去の実績は、将来のリターンを保証するものではない	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある	投資信託は、運用会社やNISAやDCで投資信託が購入できる	ポイントで投資信託に投資/運用できる	販売手数料と運用管理費用がかかる	1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる	投資信託の評価額を運用会社が分散効果がある	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる	金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる	この中で知っているものはない	(%)
2022年	(20000)	48.2	38.4	32.3	30.4	29.0	25.3	24.8	24.6	22.5	20.4	19.2	11.1	9.6	9.1	8.6	7.1	36.7
2021年	(20000)	50.6	42.5	36.3	32.3	31.2	27.8	24.4	25.4	25.0	21.4	18.1	11.5	9.8	9.8	8.2	6.4	33.3
2020年	(20000)	49.7	40.9	34.5	30.6	31.2	24.9	24.4	24.4	-	21.0	-	12.0	10.5	9.2	-	-	33.8

※選択肢「ポイントで投資信託に投資/運用できる」「インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる」「1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる」「金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる」は、2021年より聴取
 ※「過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない」は2020年より聴取
 ※「国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある」は、2020年「国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある」で聴取

〔図 7-2〕

		n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	過去の実績は、将来のリターンを保証するものではない	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある	投資信託は、運用会社やNISAやDCで投資信託が購入できる	ポイントで投資信託に投資/運用できる	販売手数料と運用管理費用がかかる	1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる	投資信託の評価額を運用会社が分散効果がある	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる	金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる	この中で知っているものはない	(%)
TOTAL		(20000)	48.2	38.4	32.3	30.4	29.0	25.3	24.8	24.6	22.5	20.4	19.2	11.1	9.6	9.1	8.6	7.1	36.7
性別	男性	(9957)	50.6	40.5	36.3	35.0	30.7	28.4	29.7	27.1	23.7	24.0	22.9	14.1	12.0	12.2	12.2	9.3	33.5
	女性	(10043)	45.8	36.3	28.2	25.9	27.4	22.2	19.9	22.1	21.3	16.8	15.6	8.2	7.2	6.1	5.0	4.8	39.8
年代別	20代	(2608)	26.5	29.2	24.9	20.0	16.2	17.5	16.1	18.6	23.0	12.2	12.3	7.4	6.4	7.0	7.7	5.3	47.9
	30代	(2997)	36.5	32.6	25.1	24.6	20.2	19.5	19.4	21.3	25.8	15.3	16.2	9.6	5.4	8.4	7.6	5.4	42.7
	40代	(3926)	44.7	35.2	28.2	27.8	24.8	22.5	23.0	23.7	26.2	18.6	18.0	10.6	8.2	8.9	8.0	5.5	40.2
	50代	(3601)	53.6	40.0	33.5	33.0	32.0	25.7	26.1	26.5	25.0	22.0	20.0	12.9	12.0	9.7	9.3	7.6	35.2
	60代	(3348)	59.6	45.2	37.4	37.0	37.0	30.2	29.7	27.2	20.9	26.0	22.5	13.2	12.6	10.7	9.9	9.0	30.4
70代	(3520)	61.7	45.4	42.2	37.2	40.2	34.0	31.6	28.2	14.0	25.8	24.4	11.8	11.7	9.4	8.6	9.1	26.8	
世帯年収別	100万円未満	(857)	34.8	27.4	23.7	20.8	19.8	16.5	15.1	15.6	17.9	13.8	13.1	6.7	6.8	4.9	5.1	4.1	49.8
	~300万円未満	(3256)	46.9	35.9	29.1	27.5	27.0	21.6	22.1	20.9	19.6	18.0	16.9	7.8	7.0	6.8	6.4	5.3	39.5
	~500万円未満	(4625)	51.1	40.2	34.2	31.8	31.1	26.1	25.6	25.7	22.3	20.7	19.9	11.0	9.7	8.7	7.9	6.8	33.1
	~1000万円未満	(6026)	53.4	43.8	36.1	34.9	32.2	29.3	28.5	29.0	26.6	23.6	22.2	13.2	10.9	10.7	10.4	8.0	29.3
	1000万円以上	(1806)	61.9	50.2	46.7	44.9	42.1	39.3	38.8	36.3	30.8	33.3	32.3	22.6	20.2	19.4	19.3	15.4	22.3

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

〔図 7-3〕

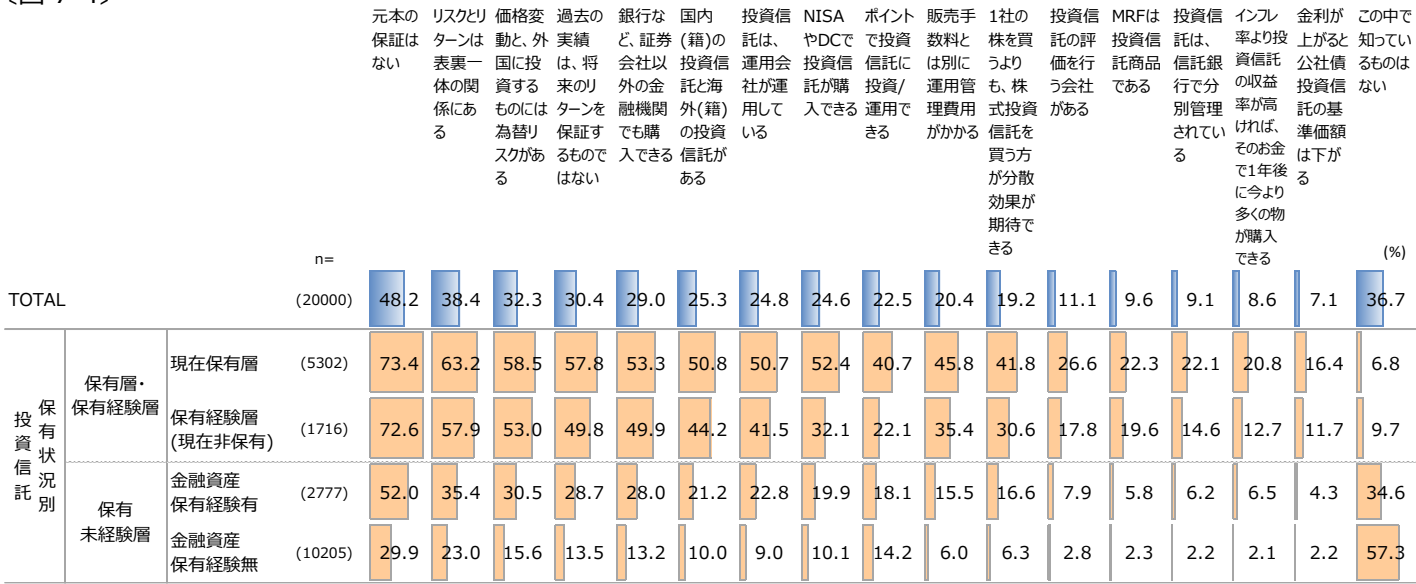
元本の保証はない
 リスクとターンは表裏一体の関係にある
 価格変動と外資による為替リスクがある
 過去の実績は、将来のターンを保障するものではない
 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
 国内（籍）の投資信託と海外（籍）の投資信託がある
 投資信託は、運用会社が運用している
 NISAやDCで投資信託が購入できる
 ポイントで投資信託に投資/運用できる
 販売手数料とは別に運用管理費用がかかる
 1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる
 投資信託の評価を行う会社がある
 MRFは投資信託商品である
 投資信託は、銀行で分別管理されている
 インフラより投資信託の収益率が高ければ、そのお金の1年後に今より多くの物が購入できる
 金利が上がるのと社債投資信託の基準価額は下がる
 この中で知っているものはない (%)

TOTAL		n=	48.2	38.4	32.3	30.4	29.0	25.3	24.8	24.6	22.5	20.4	19.2	11.1	9.6	9.1	8.6	7.1	36.7
		(20000)																	
20代	100万円未満	(192)	21.9	22.9	20.8	15.6	11.5	15.1	12.0	10.4	19.3	8.9	8.9	5.2	4.7	4.2	5.7	4.2	56.3
	～300万円未満	(357)	23.5	28.9	21.6	17.1	15.1	14.8	13.4	18.8	22.4	8.7	9.2	4.8	5.9	5.0	6.7	4.5	50.4
	～500万円未満	(610)	28.9	30.0	27.4	20.5	16.6	18.9	17.7	20.2	21.6	13.1	12.5	8.0	7.4	8.9	7.7	4.4	42.3
	～1000万円未満	(644)	36.3	38.2	32.3	28.7	22.0	23.3	20.5	24.5	29.8	18.0	17.9	10.2	9.2	9.3	11.5	7.3	34.5
	1000万円以上	(185)	37.3	37.3	42.7	33.0	25.4	32.4	27.6	30.3	35.1	21.6	21.1	16.8	11.4	14.1	14.1	11.9	27.6
30代	100万円未満	(115)	14.8	16.5	12.2	12.2	7.0	6.1	10.4	9.6	13.0	5.2	9.6	2.6	2.6	0.0	1.7	1.7	62.6
	～300万円未満	(371)	28.6	27.0	16.7	17.3	15.9	15.1	13.7	16.2	24.0	11.6	11.3	4.0	2.2	4.3	4.3	2.7	52.0
	～500万円未満	(674)	38.6	34.0	28.0	25.8	20.8	20.9	20.0	21.7	26.9	14.8	17.7	10.4	5.6	8.5	7.1	5.2	39.3
	～1000万円未満	(1133)	44.1	39.1	29.9	29.7	23.9	23.4	23.6	25.5	29.7	19.0	18.7	11.7	6.4	10.3	9.5	6.2	32.2
	1000万円以上	(221)	51.1	44.8	43.4	38.5	37.1	35.3	33.5	35.7	33.0	28.5	32.6	21.3	17.2	22.6	21.7	15.8	28.1
40代	100万円未満	(141)	29.8	29.1	24.1	20.6	17.0	13.5	14.9	13.5	20.6	12.8	12.1	2.8	4.3	4.3	2.8	1.4	52.5
	～300万円未満	(471)	40.1	28.9	22.9	22.1	19.1	17.0	17.8	16.8	25.5	15.7	14.4	6.8	4.5	6.2	3.8	4.0	45.4
	～500万円未満	(770)	46.0	34.8	26.8	26.9	23.6	22.3	21.7	23.1	26.4	15.7	15.8	10.1	7.3	6.6	6.6	3.8	38.7
	～1000万円未満	(1490)	50.5	39.9	32.0	31.2	29.0	25.7	26.1	28.0	28.9	21.1	21.2	12.6	9.7	10.5	9.7	6.2	33.4
	1000万円以上	(391)	56.5	46.8	44.0	43.7	38.6	34.5	38.4	37.1	34.5	33.0	31.7	20.7	19.2	18.4	19.2	14.8	24.8
50代	100万円未満	(136)	48.5	38.2	30.9	31.6	27.9	24.3	22.1	22.1	25.0	20.6	19.9	14.0	10.3	8.1	11.0	6.6	43.4
	～300万円未満	(453)	47.5	33.3	27.6	26.3	25.2	19.0	20.3	20.3	22.5	14.8	14.8	7.5	9.3	6.4	5.1	4.0	40.4
	～500万円未満	(664)	51.1	34.8	28.0	28.6	28.5	19.9	21.5	21.2	23.5	18.4	15.4	9.5	8.9	6.5	6.2	5.3	38.1
	～1000万円未満	(1237)	58.1	45.0	37.1	36.6	34.8	29.0	29.3	30.9	26.5	25.0	22.7	14.3	12.1	10.3	9.9	7.4	29.1
	1000万円以上	(547)	68.0	54.3	49.0	49.0	48.3	41.3	40.6	40.0	34.2	35.8	33.8	25.8	23.6	20.1	19.7	17.4	20.7
60代	100万円未満	(146)	52.7	30.1	29.5	26.7	31.5	18.5	20.5	19.9	20.5	19.9	16.4	11.0	11.0	8.2	5.5	6.8	38.4
	～300万円未満	(699)	55.4	41.3	33.8	33.8	33.6	25.6	27.9	23.2	19.0	23.3	20.6	11.3	8.9	9.0	9.2	7.4	35.6
	～500万円未満	(842)	61.9	48.1	39.3	38.2	39.4	29.9	30.0	29.7	23.2	26.6	23.0	12.7	12.8	9.7	8.7	8.4	27.7
	～1000万円未満	(884)	63.8	50.1	40.5	41.3	39.9	35.6	33.3	31.3	22.7	28.6	25.9	14.3	14.6	11.9	11.5	10.4	24.3
	1000万円以上	(325)	72.3	55.4	47.4	47.1	45.2	43.7	41.8	32.6	23.1	36.3	33.5	22.5	20.3	20.3	19.4	14.5	19.1
70代	100万円未満	(127)	42.5	27.6	23.6	18.1	25.2	20.5	10.2	19.7	6.3	15.7	12.6	3.9	7.9	3.9	3.1	3.1	45.7
	～300万円未満	(905)	60.4	43.1	37.6	34.4	36.0	27.5	27.5	24.5	12.5	22.9	21.5	8.4	8.3	7.3	6.9	6.5	29.4
	～500万円未満	(1065)	66.9	50.9	47.2	42.3	46.3	37.1	35.4	33.0	15.5	29.0	29.0	13.3	13.4	11.0	9.8	10.9	21.0
	～1000万円未満	(638)	70.4	55.3	52.5	46.9	48.6	46.2	43.3	35.6	18.0	33.4	29.2	17.1	16.1	11.9	11.8	13.8	16.1
	1000万円以上	(137)	78.8	56.9	54.0	52.6	50.4	49.6	49.6	36.5	16.1	40.9	39.4	26.3	25.5	19.0	20.4	15.3	12.4

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(1) 投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

〔図 7-4〕

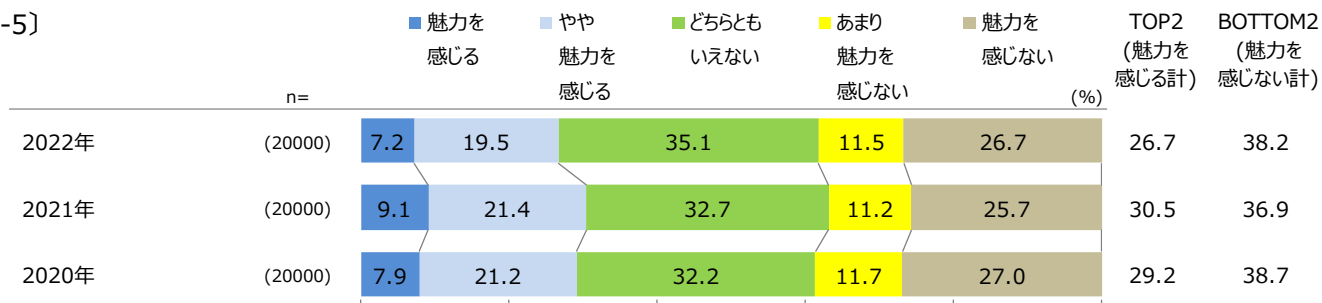


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

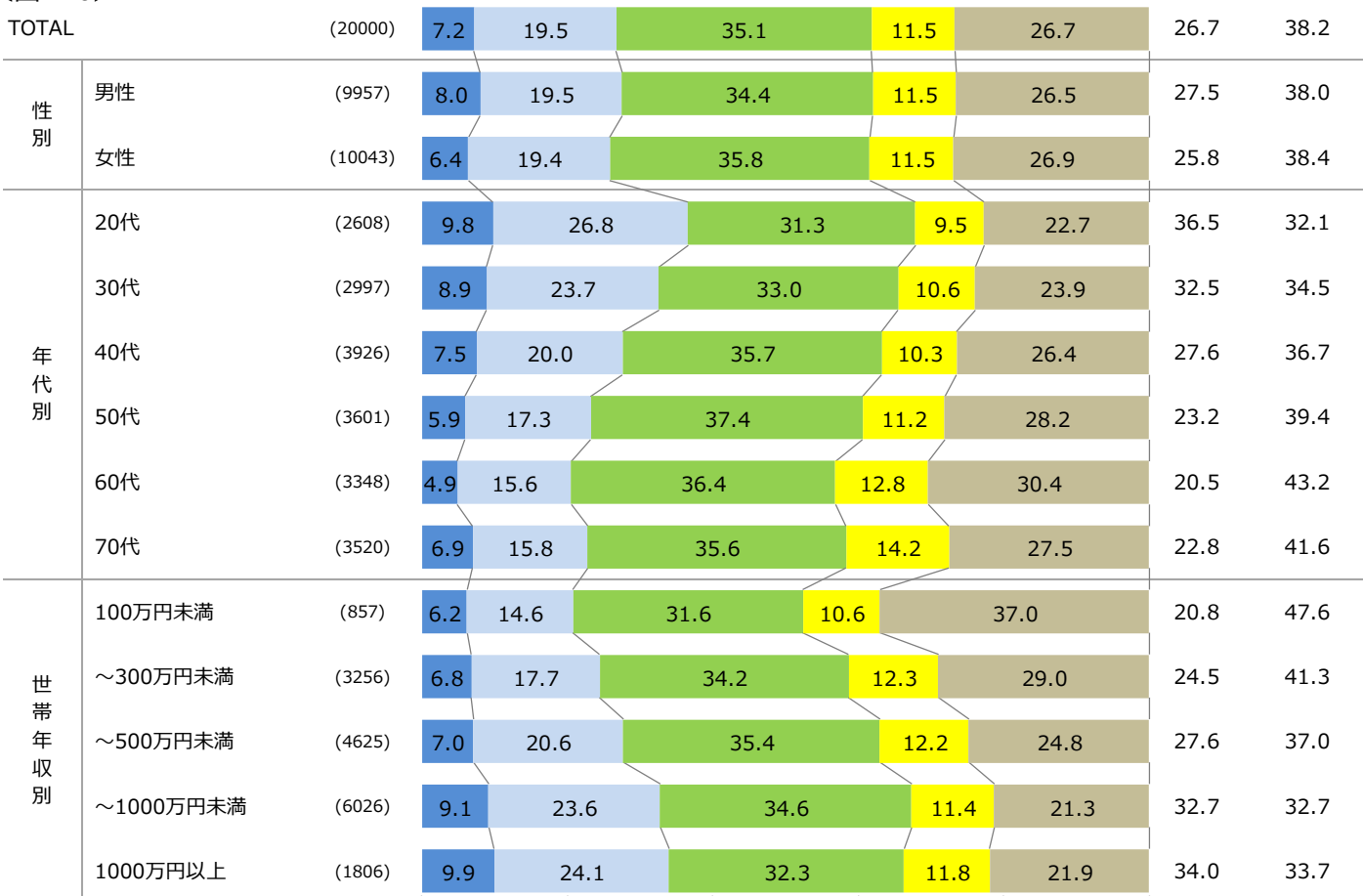
（2）毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力度は、TOP2(魅力を感じる計)が26.7%で、魅力を感じない人(38.2%)の方が多い。TOP2は前回より3.8ポイントとわずかに減少。〔図7-5〕
- 年代別では、若年層ほどTOP2が高くなる傾向。20代で36.5%、30代で32.5%と他の年代に比べて高い。また、世帯年収が高くなるほど、TOP2が高い。〔図7-6〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、魅力を感じる人は68.8%。前回より3.9ポイント減少。40代以下で70.5～83.6%が当該商品に対して魅力を感じている。〔図7-9〕

〔図 7-5〕



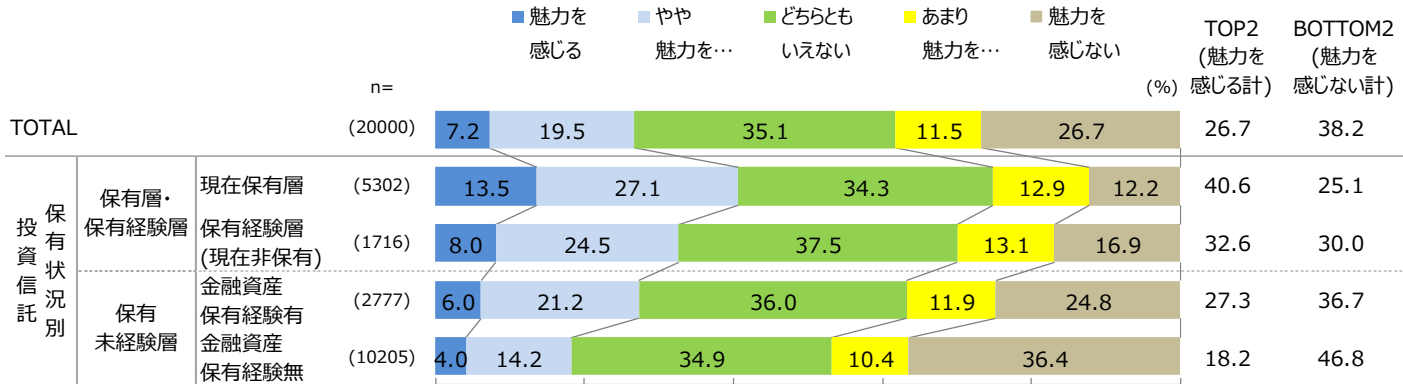
〔図 7-6〕



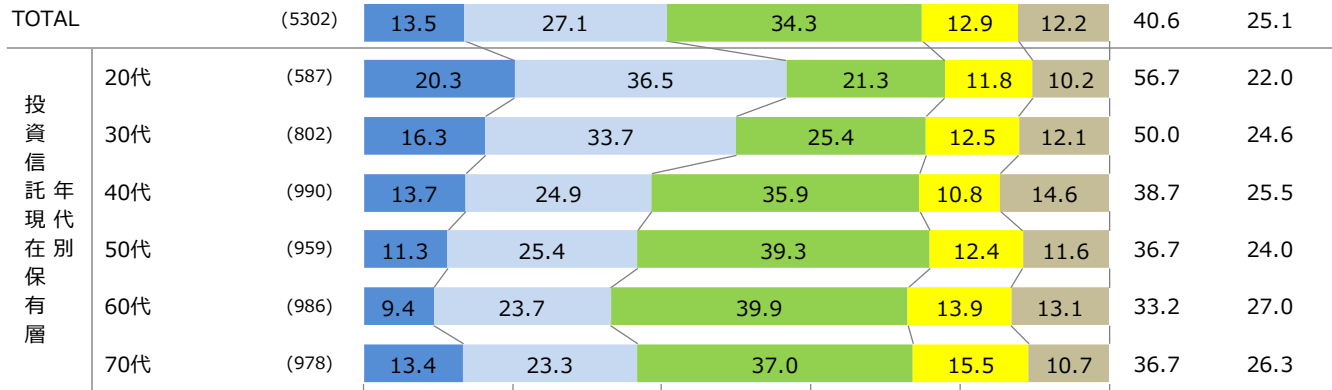
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

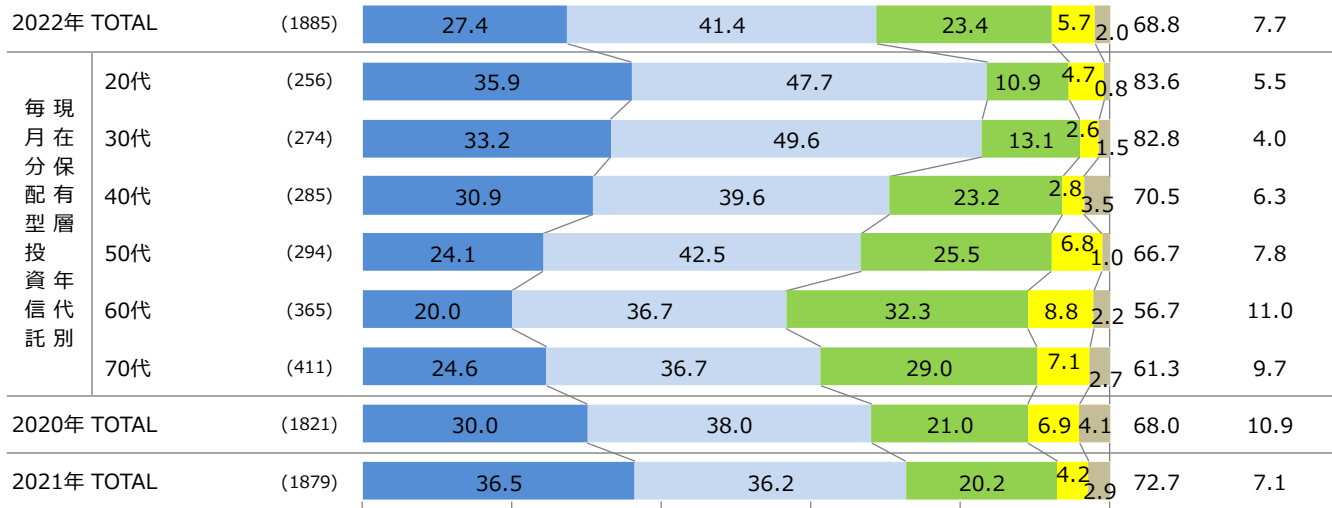
〔図 7-7〕



〔図 7-8〕



〔図 7-9〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力点では、「分配金を受け取ることで安心できる」(61.5%)、「毎月利益を確定したい」(52.0%)が上位。〔図7-10〕
- 年代別で見ると、若年層ほど「毎月利益を確定したい」が高い傾向。40代以上は「分配金を受け取ることで安心できる」が6割を超える。50～70代は「分配金で年金補完」が2割を超える。〔図7-11〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、40～70代で「分配金を受け取ることで安心できる」が6割を超える。一方、「毎月利益を確定したい」は20代が53.3%で高い。〔図7-14〕

〔図 7-10〕

	n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的な 商品がなかった	その他	(%)
2022年	(5334)	61.5	52.0	20.6	5.3	0.3	
2021年	(6092)	58.8	54.4	18.9	4.4	0.3	
2020年	(5830)	59.7	55.0	19.7	4.3	0.3	

〔図 7-11〕

		n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的な 商品がなかった	その他	(%)
TOTAL		(5334)	61.5	52.0	20.6	5.3	0.3	
性別	男性	(2741)	61.7	51.2	23.8	6.1	0.3	
	女性	(2593)	61.3	52.8	17.2	4.6	0.2	
年代別	20代	(953)	51.8	56.7	17.1	5.9	0.1	
	30代	(975)	59.4	55.3	19.6	4.9	0.1	
	40代	(1082)	64.0	54.3	19.2	6.3	0.1	
	50代	(837)	62.7	50.1	21.5	6.2	0.6	
	60代	(686)	66.0	46.9	23.8	4.8	0.1	
	70代	(801)	67.2	45.4	24.1	3.5	0.7	
世帯 年収別	100万円未満	(178)	62.9	59.0	13.5	7.3	0.0	
	～300万円未満	(797)	61.4	53.1	17.4	4.1	0.1	
	～500万円未満	(1278)	62.5	49.8	21.4	4.7	0.1	
	～1000万円未満	(1973)	61.9	51.9	22.0	5.2	0.6	
	1000万円以上	(614)	60.4	51.0	24.1	8.8	0.2	

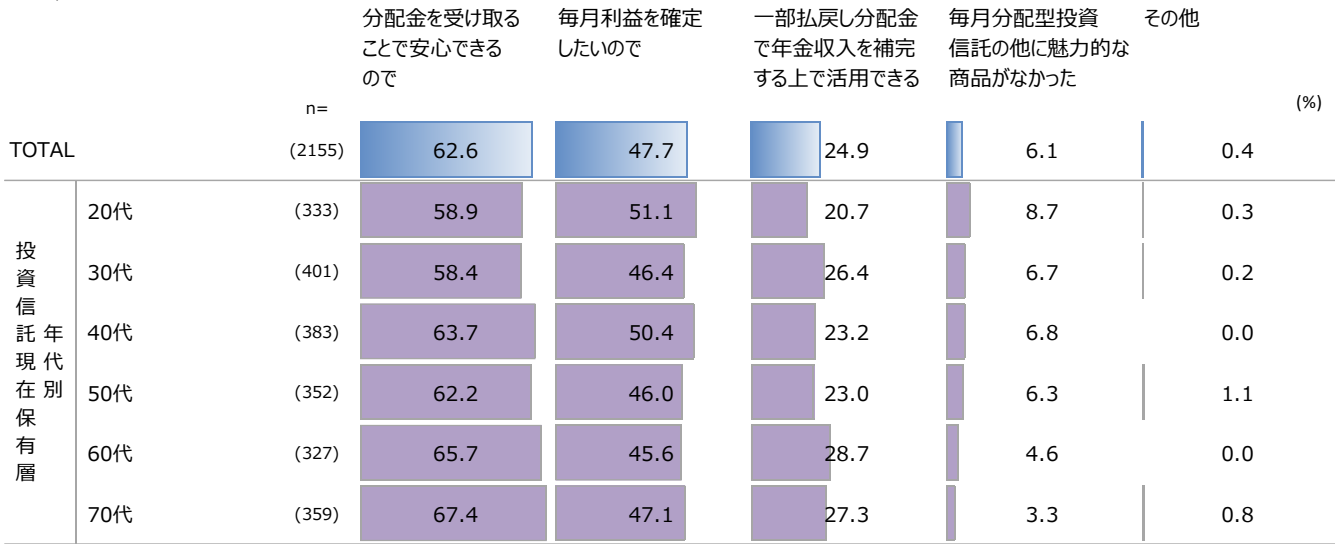
〔図 7-12〕

		n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的な 商品がなかった	その他	(%)
TOTAL		(5334)	61.5	52.0	20.6	5.3	0.3	
投資 信託 保有 状況 別	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(2155)	62.6	47.7	24.9	6.1	0.4
		保有経験層 (現在非保有)	(559)	67.1	43.8	22.4	4.3	0.5
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(758)	61.3	59.2	19.0	4.7	0.1
		金融資産 保有経験無	(1862)	58.6	56.3	15.7	5.0	0.1

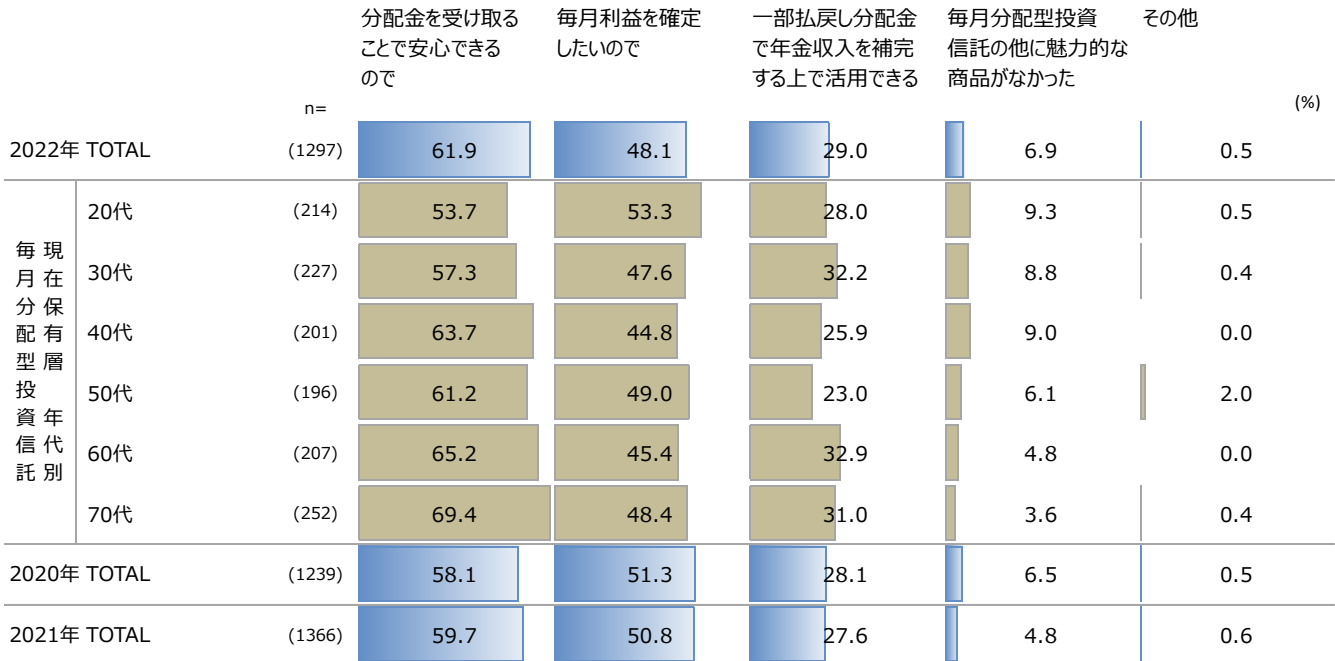
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

〔図 7-13〕



〔図 7-14〕

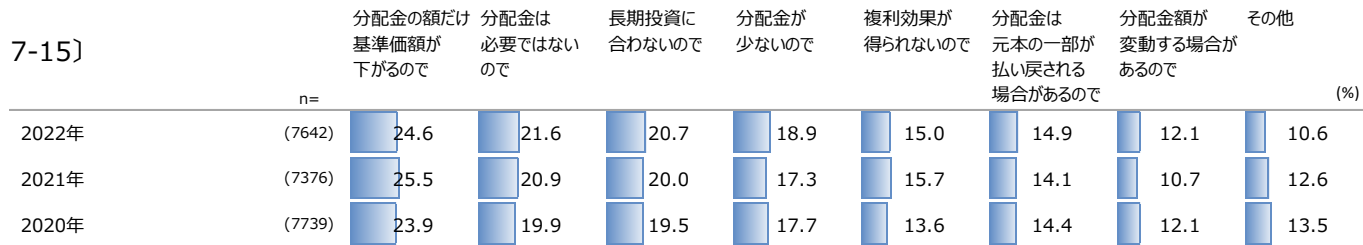


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

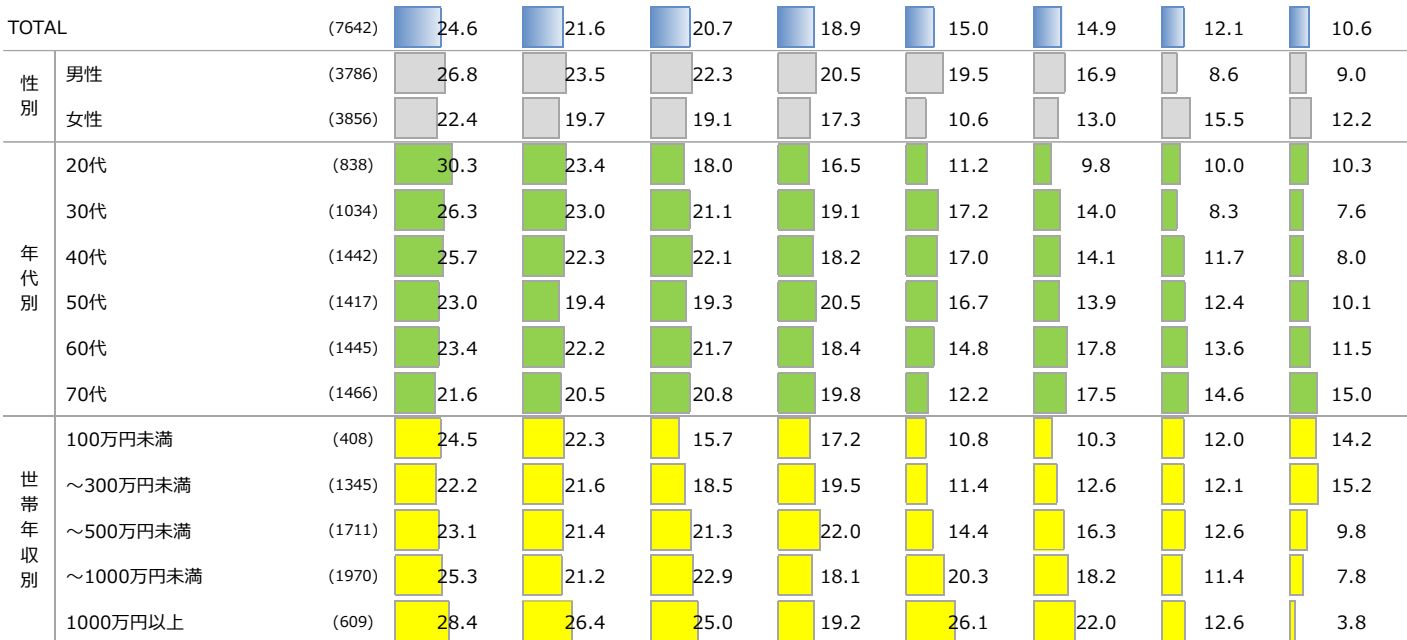
（4）毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の非魅力点は、「基準価額が下がる」(24.6%)が最も高く、次いで「分配金は必要ではないので」(21.6%)が続く。〔図7-15〕
- 年代別では、若年層のほど「分配金は必要ない」が高い。30～40代は「複利効果が得られないので」、60～70代は「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」がやや高い傾向。〔図7-16〕
- 世帯年収別では、「長期投資に合わないので」「複利効果が得られないので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」が年収が高いほど高くなる傾向。〔図7-16〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、「複利効果が得られないので」(30.8%)は前回より5.3ポイント減少。「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」(47.9%)は前回より11.1ポイント、「分配金額が変動する場合があるので」が11.4ポイント増加。〔図7-19〕 ※人数が少ないため参考値

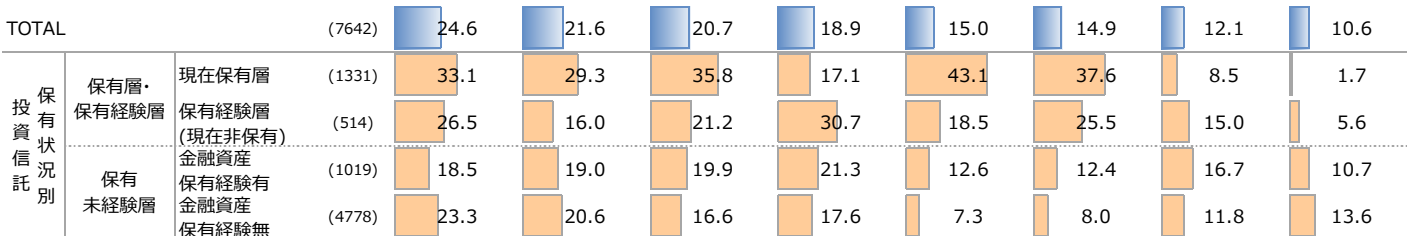
〔図 7-15〕



〔図 7-16〕



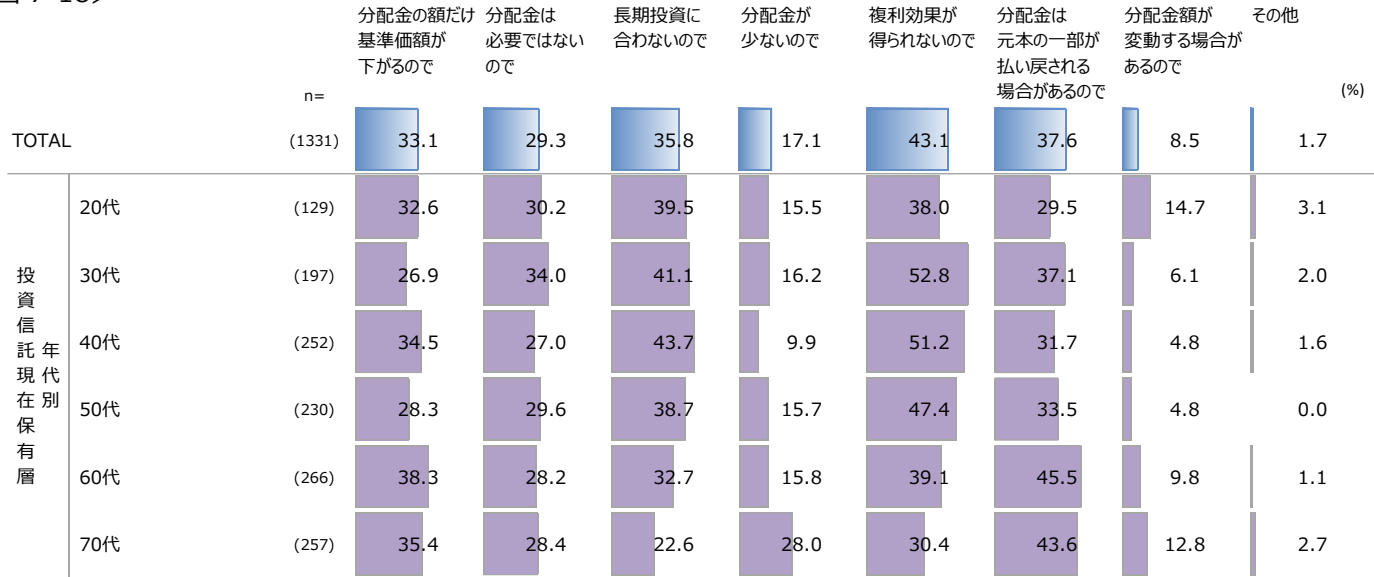
〔図 7-17〕



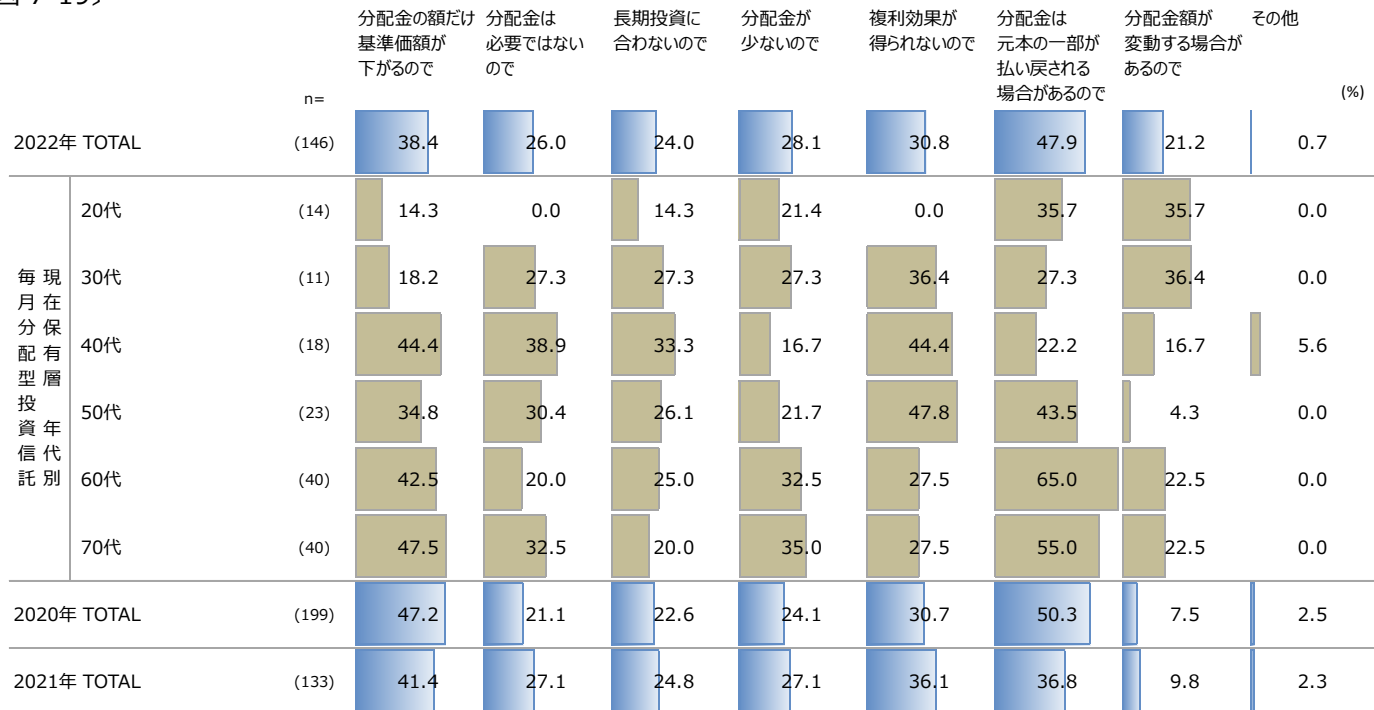
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(4) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

〔図 7-18〕



〔図 7-19〕

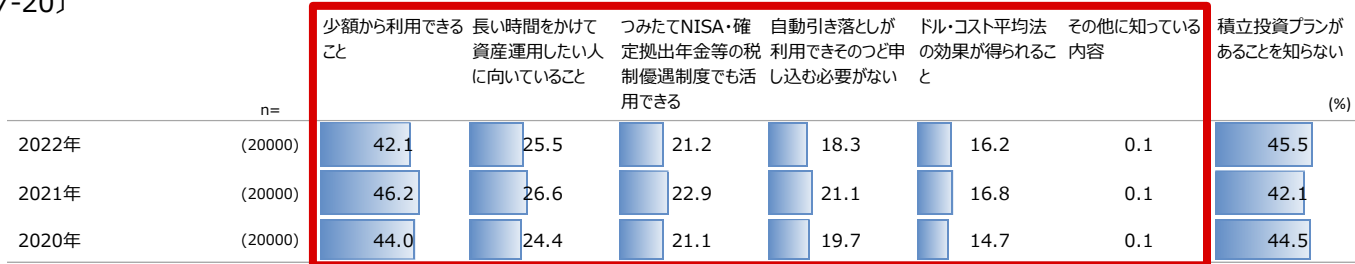


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(5) 積立投資プランの内容認知〔Q19：重複回答〕

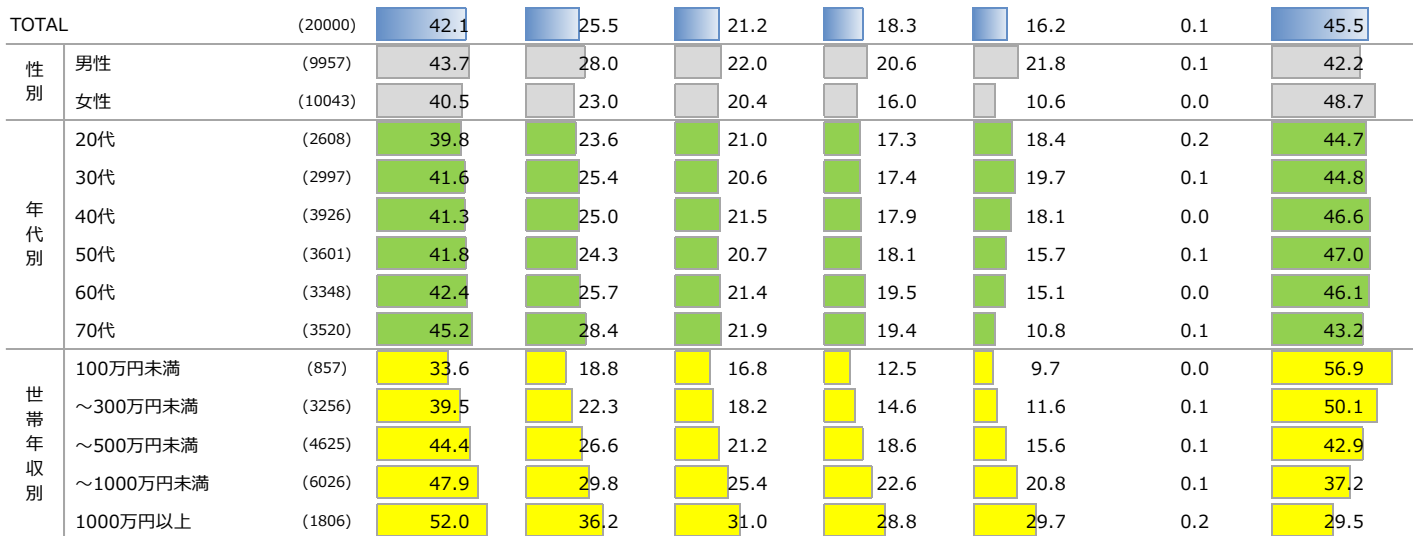
- 積立投資プランについていずれかの内容認知率は、全体で54.5%と半数以上になる。具体的には、「少額から利用できる」(42.1%)が特に高く、以下「長い時間をかけて資産運用したい人向き」「つみたてNISA・確定拠出年金等でも活用可能」が20%以上で続く。〔図7-20〕
- 「ドル・コスト平均法の効果が得られることがある」は若年層ほど高い傾向。また、年収が高いほど、いずれの項目も認知が高い。〔図7-21〕

〔図 7-20〕

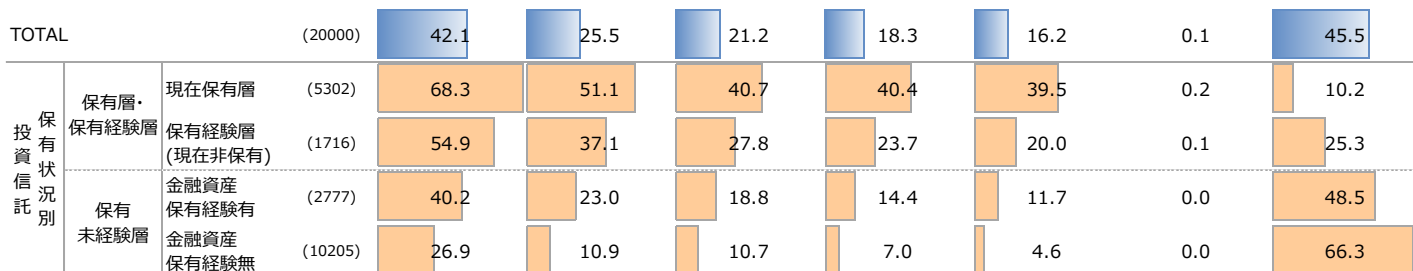


「積立投資プラン」の認知率：2022年54.5% / 2021年57.9% / 2020年55.5%
 (赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

〔図 7-21〕



〔図 7-22〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（6）投資信託運用会社の重視点〔Q17：重複回答〕

- 投資信託の運用会社選択では「運用実績・成績が高い」(36.8%)、次いで「知名度が高い」(22.1%)、「資本力大きい」(21.1%)が続く。上位3項目は前回よりやや減少。顧客志向に関する項目では「顧客対応が公平である」は10.5%、「倫理観が高い」は8.0%となった。〔図7-23〕
- 投信現在保有層は、「運用実績・成績が高い」「知名度が高い」「資本力大きい」が全体より7.4ポイント以上高い。〔図7-25〕

〔図 7-23〕

	n=	運用実績・成績が高い	知名度が高い	資本力大きい	運用体制が充実にしている	提供している資料や情報が分かりやすく充実している	アフターサービスが充実している	顧客対応が公平である	倫理観が高い	商品開発力がある	販売会社などのグループ企業である	販売会社を通じて購入できる	ESG・SDGsに力を入れている	販売会社系ではなく、独立系企業である	外資系企業である	その他	わからない	(%)
2022年	(20000)	36.8	22.1	21.1	19.4	12.8	10.9	10.5	8.0	8.0	4.5	3.8	2.2	1.8	1.6	0.2	44.2	
2021年	(20000)	40.6	26.9	24.1	20.4	30.6	11.9	11.0	8.5	8.1	4.9	4.3	2.5	1.9	1.8	0.2	38.9	
2020年	(20000)	39.2	23.9	23.1	20.3	30.8	12.8	11.5	8.6	8.2	5.1	4.7	-	1.9	1.6	0.3	40.8	

※選択肢「提供している資料や情報が分かりやすく充実している」は2022年より「ホームページや資料など情報提供が充実している」「提供している情報がわかりやすい」を統合して聴取（2021年までは合算のため参考値）

※「ESG・SDGsに力を入れている」は2021年より聴取

〔図 7-24〕

	n=	運用実績・成績が高い	知名度が高い	資本力大きい	運用体制が充実にしている	提供している資料や情報が分かりやすく充実している	アフターサービスが充実している	顧客対応が公平である	倫理観が高い	商品開発力がある	販売会社などのグループ企業である	販売会社を通じて購入できる	ESG・SDGsに力を入れている	販売会社系ではなく、独立系企業である	外資系企業である	その他	わからない	(%)
TOTAL	(20000)	36.8	22.1	21.1	19.4	12.8	10.9	10.5	8.0	8.0	4.5	3.8	2.2	1.8	1.6	0.2	44.2	
性別																		
男性	(9957)	38.5	21.8	21.6	19.9	12.0	9.6	10.1	8.6	8.7	4.4	4.5	2.2	2.3	1.9	0.3	41.0	
女性	(10043)	35.1	22.4	20.7	18.8	13.6	12.2	10.8	7.3	7.2	4.5	3.2	2.3	1.2	1.4	0.2	47.4	
年代別																		
20代	(2608)	31.3	29.1	22.9	17.8	9.9	10.5	7.6	7.4	5.7	3.6	3.9	3.0	2.6	2.8	0.3	44.1	
30代	(2997)	35.6	24.4	22.6	18.9	13.2	11.6	8.2	7.1	6.4	3.3	4.1	2.3	1.9	2.7	0.2	42.6	
40代	(3926)	36.5	22.2	21.1	19.2	12.9	12.2	10.3	7.9	7.4	3.8	4.0	2.2	1.6	1.4	0.3	44.7	
50代	(3601)	37.5	17.9	18.3	19.7	13.0	12.0	11.0	8.7	8.1	4.1	3.4	1.9	1.4	1.2	0.2	45.1	
60代	(3348)	39.5	19.2	20.2	18.6	12.4	9.5	12.2	8.8	8.4	4.5	3.6	2.0	1.5	1.0	0.1	45.0	
70代	(3520)	39.0	21.8	22.4	21.4	14.7	9.4	12.6	7.6	11.1	7.1	4.1	2.2	2.0	1.0	0.3	43.4	
世帯年収別																		
100万円未満	(857)	27.4	19.6	16.7	15.2	11.7	9.9	9.0	6.9	4.7	3.4	3.6	2.6	1.8	2.1	0.2	55.0	
～300万円未満	(3256)	33.2	21.3	20.1	17.1	12.3	11.2	9.7	6.8	6.9	4.5	3.7	2.2	1.4	1.4	0.3	48.3	
～500万円未満	(4625)	38.7	23.7	22.1	20.2	13.4	11.4	11.5	8.1	8.2	4.6	3.2	2.5	1.9	1.3	0.2	40.9	
～1000万円未満	(6026)	42.7	25.4	24.3	21.5	13.6	11.6	11.3	8.5	8.9	5.0	4.7	2.2	2.2	2.1	0.2	35.9	
1000万円以上	(1806)	47.8	24.6	26.2	26.1	15.4	11.3	11.1	11.8	14.5	6.0	5.6	3.6	2.8	2.1	0.4	29.4	

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(6) 投資信託運用会社の重視点〔Q17：重複回答〕

〔図 7-25〕

運用実績・成績が高い
 知名度が高い
 資本力が大きい
 運用体制が充実している
 提供している資料や情報が分かりやすく充実している
 アフターサービスが充実している
 顧客対応が公平である
 倫理観が高い
 商品開発力がある
 販売会社などのグループ企業である
 販売会社を通じて、直接購入できない
 ESG・SDGs に入れている
 販売会社系列ではなく、独立系企業である
 外資系企業である
 その他
 わからない・特にな

		n=	36.8	22.1	21.1	19.4	12.8	10.9	10.5	8.0	8.0	4.5	3.8	2.2	1.8	1.6	0.2	44.2		
		(20000)																		(%)
投資信託 保有状況別	保有層・ 保有経験層	現在保有層 (5302)	52.3	29.5	31.1	26.0	16.5	9.0	10.2	8.0	13.0	6.6	6.3	3.1	3.3	2.5	0.4	19.0		
		保有経験層 (現在非保有) (1716)	51.9	27.7	27.6	24.2	16.3	11.6	11.1	8.3	11.7	8.4	4.5	1.6	2.2	1.4	0.1	22.2		
	保有 未経験層	金融資産保有経験有 (2777)	43.0	23.0	21.2	23.5	15.6	13.3	14.4	11.3	8.0	4.0	4.3	2.6	1.5	1.4	0.3	41.8		
		金融資産保有経験無 (10205)	24.5	17.0	14.8	13.9	9.5	11.2	9.4	7.0	4.7	2.8	2.3	1.8	1.0	1.3	0.2	61.7		

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（7）投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

- 投資信託にかかるコストの特徴認知については、「購入時手数料がかかる」(40.3%)が最も高く、「保有中、運用管理費用がかかる」(22.5%)、「購入時手数料は販売会社に支払われる」(21.1%)が上位項目で2割を超える。〔図7-26〕
- 年代が上がるほど認知度が高い傾向にあるが、「購入時手数料がかからない投信がある」は30～40代が20%台でやや高い。世帯年収が高くなるにつれて認知率も高い傾向。〔図7-27〕
- 投資信託の保有層・保有経験層は、上位3項目と「購入時手数料がかからない投信がある」の認知度が4割を超える。投資信託の保有未経験層は、いずれの特徴も非認知が66.0%に対して、保有層・保有経験層は14.8%でコスト特徴認知度が高い。〔図7-28〕

〔図 7-26〕

	n=	購入時手数料				運用管理費用		信託財産留保額			色々なコストがあり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない (%)
		投資信託を購入するときに、購入時手数料がかかる	購入時手数料は証券会社・銀行等の販売会社に支払われる	購入時手数料がかからない投資信託がある（ノーロードファンド）	販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある	投資信託の保有中、運用管理費用（信託報酬）がかかる	運用管理費用（信託報酬）は投資信託から日々差し引かれる	解約時に信託財産留保額がかかる投資信託がある	信託財産留保額は換金事務手数料を購う意味で徴収、信託財産に留保される	信託財産留保額は販売会社や運用会社などが受け取る手数料ではない	
2022年	(20000)	40.3	21.1	19.0	18.5	22.5	12.5	11.5	7.3	4.9	48.0
2021年	(20000)	41.1	23.0	20.0	21.4	20.9	12.8	11.2	6.6	4.8	45.0
2020年	(20000)	40.6	22.5	18.4	20.4	19.8	12.2	10.6	6.5	4.6	45.7

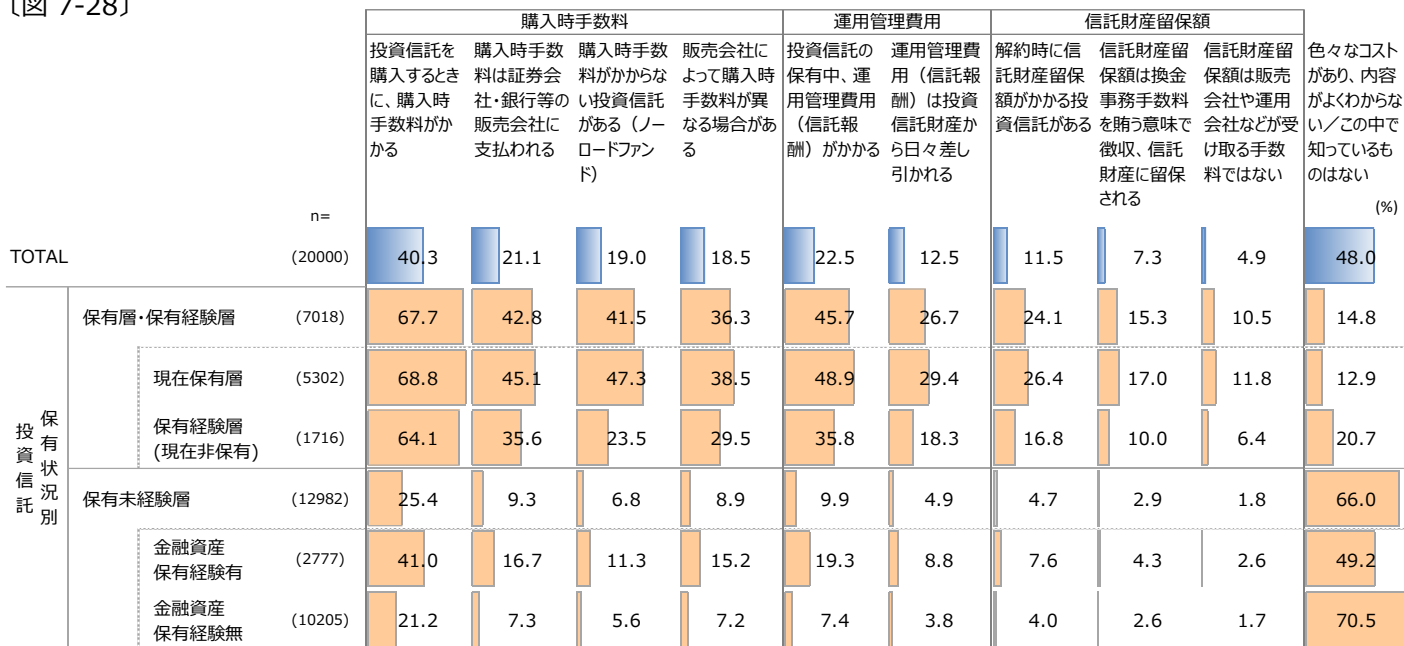
〔図 7-27〕

			40.3	21.1	19.0	18.5	22.5	12.5	11.5	7.3	4.9	48.0
TOTAL	(20000)											
性別	男性	(9957)	43.4	24.6	23.6	20.8	27.4	16.2	14.2	9.8	6.8	42.7
	女性	(10043)	37.1	17.6	14.3	16.3	17.6	8.9	8.9	4.7	3.0	53.3
年代別	20代	(2608)	27.0	15.3	19.0	13.0	16.1	10.7	8.5	6.5	4.2	54.6
	30代	(2997)	31.8	15.7	20.2	14.9	18.7	11.5	9.0	7.0	4.8	53.7
	40代	(3926)	36.3	19.3	20.1	17.0	20.5	11.8	10.5	7.1	5.1	50.7
	50代	(3601)	41.4	20.0	18.6	19.5	22.1	12.2	11.8	7.0	5.3	48.8
	60代	(3348)	49.2	26.0	19.5	22.6	26.8	15.0	14.1	7.8	5.2	42.4
	70代	(3520)	52.1	28.2	16.5	22.5	28.8	13.6	14.3	8.0	4.5	39.9
世帯年収別	100万円未満	(857)	30.2	14.5	12.0	11.9	14.4	8.3	8.3	4.4	4.0	59.7
	～300万円未満	(3256)	38.7	17.5	14.7	16.3	19.5	9.9	8.9	5.0	3.1	52.2
	～500万円未満	(4625)	42.4	21.8	19.5	18.8	22.8	12.0	11.4	6.7	4.2	46.1
	～1000万円未満	(6026)	45.4	24.8	23.0	21.4	26.3	15.1	13.5	9.1	6.0	39.5
	1000万円以上	(1806)	53.6	35.2	33.2	30.3	36.8	23.2	21.8	15.3	11.3	30.2

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（7）投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

〔図 7-28〕



8. 投資意識に関する状況



8. 投資意識に関する状況

(1) ESG・SDGs関連への投資意向〔Q28：重複回答〕

- 「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に対する投資意向をたずねたところ、「環境問題の改善」(26.4%)が最も高く、次いで「医療・福祉の充実」が26.1%、「再生エネルギーの普及」(24.7%)、「貧困・飢餓問題」(17.3%)が続く。〔図8-1〕
- 年代別では、若年層ほど「貧困・飢餓問題」「教育格差の是正」「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」が高く、高齢層ほど「環境問題の改善」「再生エネルギーの普及」が高くなる傾向。〔図8-2〕
- 投信現在保有層では、どの項目も他層より高い。〔図8-3〕

〔図 8-1〕

	n=	「環境問題の改善」に取り組む企業	「医療・福祉の充実」に取り組む企業	「再生エネルギーの普及」に取り組む企業	「貧困・飢餓問題」に取り組む企業	「教育格差の是正」に取り組む企業	「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」に取り組む企業	その他	購入したいと思わないものはない
2022年	(20000)	26.4	26.1	24.7	17.3	12.8	10.6	0.2	50.1
2021年	(20000)	29.6	30.7	28.6	19.4	13.9	11.6	0.4	43.6
2020年	(20000)	27.9	33.5	27.2	17.6	13.7	10.6	0.4	43.1

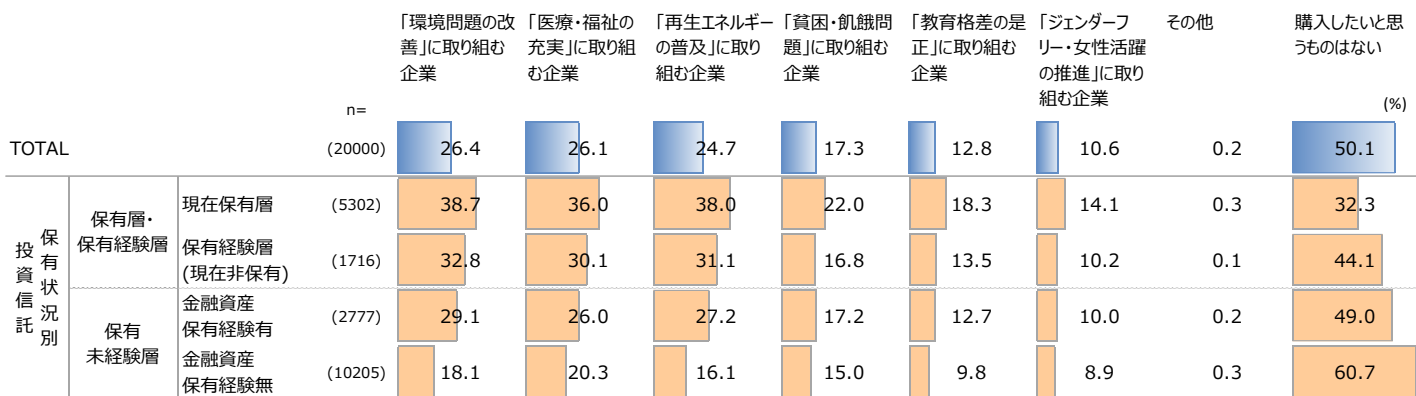
〔図 8-2〕

	n=	「環境問題の改善」に取り組む企業	「医療・福祉の充実」に取り組む企業	「再生エネルギーの普及」に取り組む企業	「貧困・飢餓問題」に取り組む企業	「教育格差の是正」に取り組む企業	「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」に取り組む企業	その他	購入したいと思わないものはない
TOTAL	(20000)	26.4	26.1	24.7	17.3	12.8	10.6	0.2	50.1
性別									
男性	(9957)	24.7	24.1	25.0	16.0	12.7	9.4	0.2	51.2
女性	(10043)	28.0	28.1	24.5	18.6	12.8	11.7	0.2	49.0
年代別									
20代	(2608)	20.3	26.6	17.7	21.3	18.6	16.3	0.1	46.5
30代	(2997)	23.3	26.9	21.1	21.7	16.2	14.6	0.2	47.7
40代	(3926)	25.2	26.2	23.5	18.6	13.8	11.7	0.2	48.6
50代	(3601)	27.2	23.9	25.0	15.0	11.1	9.2	0.2	52.3
60代	(3348)	29.5	24.7	28.1	14.0	9.6	7.2	0.2	53.6
70代	(3520)	30.7	28.5	30.9	14.7	9.2	6.2	0.4	51.0
世帯年収別									
100万円未満	(857)	20.1	21.0	17.2	17.3	11.4	10.4	0.1	58.9
～300万円未満	(3256)	24.4	24.7	22.4	17.1	10.0	8.6	0.4	53.2
～500万円未満	(4625)	27.4	27.5	26.6	18.6	12.9	10.2	0.2	48.0
～1000万円未満	(6026)	30.4	30.0	28.3	19.0	15.8	12.5	0.2	42.2
1000万円以上	(1806)	33.2	31.6	31.6	19.7	17.4	14.3	0.2	39.7

8. 投資意識に関する状況

(1) ESG・SDGs関連への投資意向〔Q28：重複回答〕

〔図 8-3〕



8. 投資意識に関する状況

(2) 金融教育の経験〔Q29①：重複回答〕

- これまでに、お金の話にふれたことがあるものは、「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」が13.4%で最も高い。次いで「金融機関が主催のセミナー」(8.4%)、「ファイナンシャルプランナーへの相談」(8.4%)、「高校や大学での講義」(5.9%)が続く。〔図8-4〕
- 年代別では、若年層ほど「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」「高校や大学での講義」が高い。「金融機関が主催のセミナー」が60～70代が高い。世帯年収が高くなるにつれて金融教育の経験が高くなる傾向。〔図8-5〕
- 投信現在保有層では、「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」「金融機関が主催のセミナー」「ファイナンシャルプランナーへの相談」「金融機関以外が主催のセミナー」が全体より6.2ポイント以上高い。〔図8-6〕

〔図 8-4〕

	n=	勤め先の企業での 確定拠出年金の 導入/継続/教育	金融機関が 主催のセミナー	ファイナンシャル プランナー（FP） への相談	高校や大学での 講義	金融機関以外が 主催のセミナー	その他	あてはまるものは ない/お金の話に ふれたことがない	(%)
2022年	(20000)	13.4	8.4	8.4	5.9	5.3	1.1	71.9	
2021年	(20000)	14.2	6.9	8.1	6.3	5.2	1.2	71.0	

※選択肢「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」は、2021年に「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」で、「高校や大学での講義」は「高校や大学で、講義を受けた」で、「ファイナンシャルプランナー（FP）への相談」は「ファイナンシャルプランナー（FP）相談を利用した」で、「金融機関が主催のセミナー」は「金融機関でセミナーを受けた」で、「金融機関以外が主催のセミナー」は「金融機関以外でセミナーを受けた」で、「あてはまるものはない/お金の話にふれたことがない」は「あてはまるものはない」で、それぞれ聴取

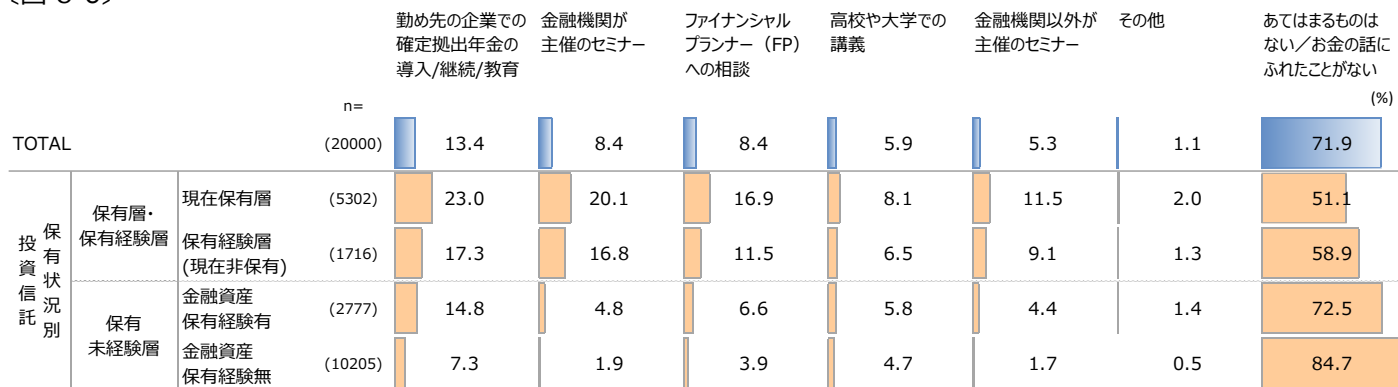
〔図 8-5〕

		n=	勤め先の企業での 確定拠出年金の 導入/継続/教育	金融機関が 主催のセミナー	ファイナンシャル プランナー（FP） への相談	高校や大学での 講義	金融機関以外が 主催のセミナー	その他	(%)
TOTAL		(20000)	13.4	8.4	8.4	5.9	5.3	1.1	71.9
性別	男性	(9957)	18.0	9.8	8.6	7.3	6.3	1.3	67.0
	女性	(10043)	8.7	7.1	8.1	4.6	4.4	1.0	76.7
年代別	20代	(2608)	19.4	5.6	8.7	15.4	4.5	1.8	62.7
	30代	(2997)	16.9	5.1	10.0	8.6	4.6	1.1	68.9
	40代	(3926)	12.4	6.5	9.0	5.1	4.7	1.1	74.5
	50代	(3601)	12.6	7.2	8.0	3.6	4.9	0.8	74.7
	60代	(3348)	11.2	10.7	7.8	2.7	5.4	1.0	74.8
	70代	(3520)	9.6	14.7	6.8	2.7	7.5	1.1	72.9
世帯年収別	100万円未満	(857)	7.9	4.2	3.9	5.7	2.9	0.8	80.5
	～300万円未満	(3256)	9.4	6.8	5.4	4.2	3.8	1.3	78.1
	～500万円未満	(4625)	12.5	9.3	8.0	5.6	5.7	1.0	72.2
	～1000万円未満	(6026)	18.5	10.1	11.7	7.3	6.4	1.3	63.9
	1000万円以上	(1806)	24.5	15.3	15.4	9.7	9.9	1.3	54.6

8. 投資意識に関する状況

(2) 金融教育の経験〔Q29①：重複回答〕

〔図 8-6〕



8. 投資意識に関する状況

(2) 金融教育の評価〔Q29②：単数回答〕

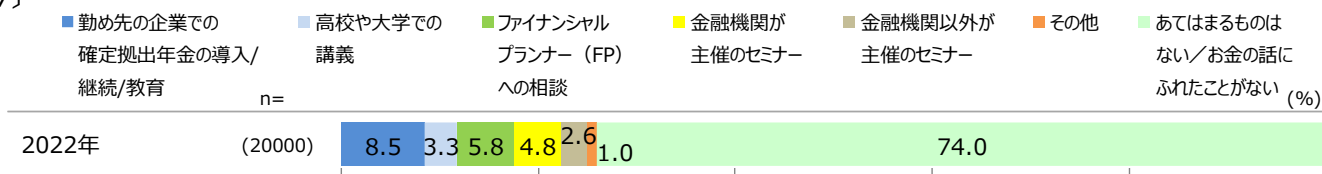
- これまでに、お金の話にふれたことがあるものの中で一番良かったと思うもの／一番良さそうに思うものは「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」が8.5%で最も高い。次いで、「ファイナンシャルプランナーへの相談」(5.8%)、「金融機関が主催のセミナー」(4.8%)、「高校や大学での講義」(3.3%)が続く。〔図8-7〕

※お金の話にふれたことがない方は、一番良さそうに思うものを回答

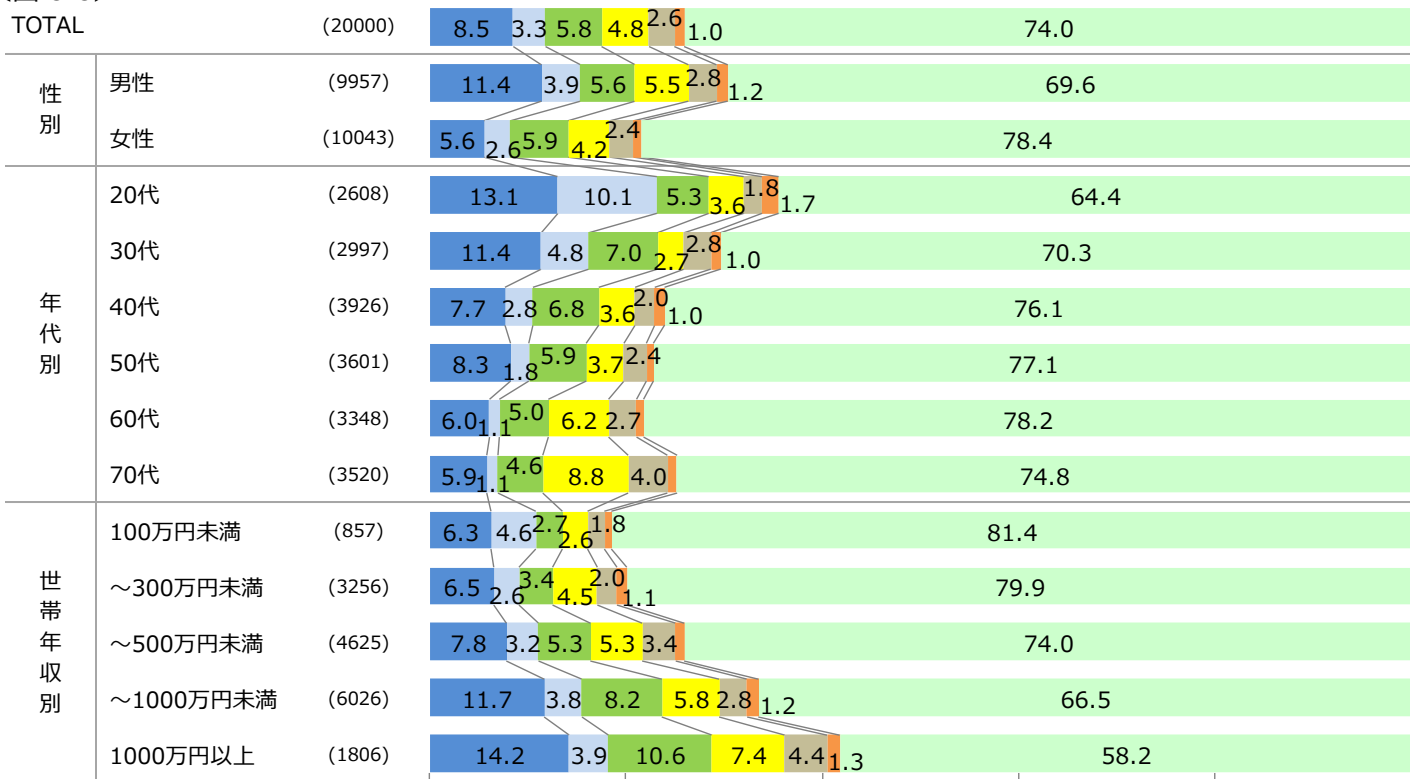
- 年代別では、「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」は若年層ほど高い傾向。20代が「高校や大学での講義」が10.1%と他の年代より高い。30～40代は「ファイナンシャルプランナーへの相談」、「金融機関が主催のセミナー」が高い。〔図8-8〕

- 投信保有状況別では、投信現在保有層は「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」「金融機関が主催のセミナー」「ファイナンシャルプランナーへの相談」が高い。〔図8-9〕

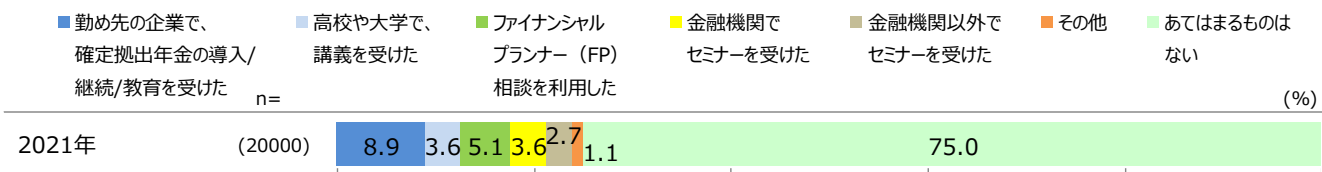
〔図8-7〕



〔図8-8〕



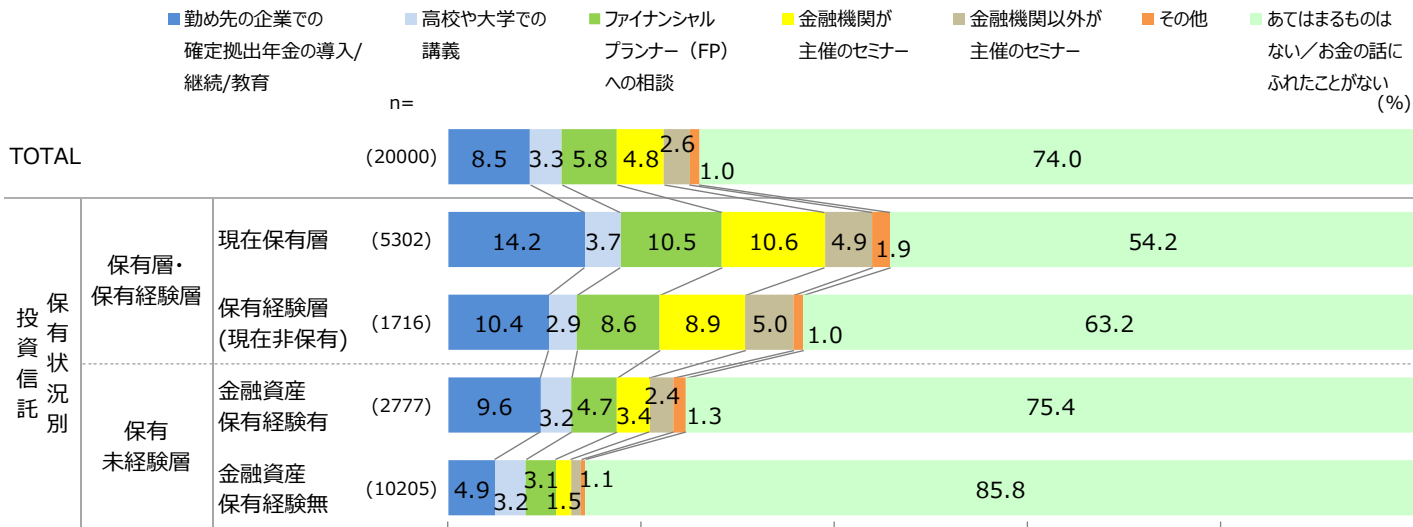
【参考】2021年「一番良かったと思うもの」について聴取



8. 投資意識に関する状況

(2) 金融教育の評価〔Q29②：単数回答〕

〔図 8-9〕



※1%未満は非表示

末尾添付資料：調査票



添付資料：調査票

F1 あなたの性別を教えてください。

1 男性

2 女性

F2 あなたの年齢をお答えください。

1 歳

F3 あなたの職業をお知らせください。

1 会社員・非営利団体職員

2 会社役員・経営者

3 派遣・契約社員

4 公務員

5 自由業（医師・弁護士など）

6 農林漁業

7 自営業（農林漁業を除く）

8 パート・アルバイト・フリーター

9 専業主婦/主夫

10 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

11 無職、定年退職

12 その他の職業

F4 あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

	1 あなたの 世帯 年収	2 あなたの 個人 年収
	↓	↓
1 100万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 100～300万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 300～500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 500～800万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 800～1000万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 1000～1500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 1500万円以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 わからない・答えたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

F5 あなたの**世帯**で保有されている「金融資産」(※)の概算の評価額としてあてはまるものをお選びください。

※ 「金融資産」・・・預貯金、社債や国債などの債券・株、投資信託、生命保険のうち満期金のあるもの、貸出金など。
土地や不動産は除きます。

- 1 500万円未満
- 2 500万円～1000万円未満
- 3 1000万円～3000万円未満
- 4 3000万円～5000万円未満
- 5 5000万円～1億円未満
- 6 1億円～5億円未満
- 7 5億円以上
- 8 わからない・答えたくない

添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q1 あなたはこれまでに「現金・預貯金（円）以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※ 「現金・預貯金（円）以外の金融資産」・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、リートなど。土地や不動産、保険は除きます。

- 1 保有したことがある
- 2 保有したことはない

<Q2聴取対象：金融資産保有経験者(Q1=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q2 あなたはこれまでに投資信託を保有したことがありますか。

※ 「投資信託」とは、複数の投資家から出資されたお金を一つの資金としてまとめ、ファンドマネージャーなどの資金運用の専門家が、株式や債券、リートなどに投資し、その成果（利益）を投資家に還元する金融商品のことを指します。

- 1 現在保有している
- 2 以前保有していたが、現在は保有していない
- 3 今まで保有したことがない

<Q3聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q3 あなたは投資信託をどの口座で保有していますか。

- 1 特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座
- 2 NISA
- 3 つみたてNISA
- 4 企業型DC（企業型確定拠出年金）
- 5 iDeCo（個人型確定拠出年金）
- 6 ポイント投資/運用の口座
- 7 その他
- 8 わからない・忘れた

<Q4聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q4 現在あなたが保有している投資信託の本数は、全部で何本ですか。

※ 同じ商品でも、コースや型・為替ヘッジの有無などで複数保有している場合は、それぞれを1本としてお答えください。

- 1 1～2本
- 2 3～5本
- 3 6～10本
- 4 11本以上
- 5 わからない・答えたくない

<Q5聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q5 あなたが直近で、新しく投資信託を購入した時期を教えてください。

※ 既に保有していた投資信託の買い増しではなく、これまで保有していなかった投資信託を新しく購入した時期についてお答えください。

- 1 1年未満
- 2 1年以上前～2年未満
- 3 2年以上前～5年未満
- 4 5年以上前
- 5 わからない・答えたくない

<Q6聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

■世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。

■確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q6 現在あなたが保有している投資信託の主な投資対象または種類につきましてお答えください。

非上場

- 1 国内株式に投資する投資信託
- 2 国内債券に投資する投資信託
- 3 外国株式に投資する投資信託
- 4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託
- 5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託
- 6 外国の不動産投信に投資する投資信託
- 7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託（バランス型）

上場

- 8 E T F
（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）
- 9 国内不動産投信〔Jリート〕
（不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの）
- 10 その他
- 11 わからない・答えたくない

<Q7聴取対象：現在保有している投資信託の種類回答者(Q6=1~9のいずれか回答)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q7 現在あなたが保有している投資信託の、種類ごとの保有金額と、合計での保有金額を教えてください。

1	2	3	4	5	6	7
1 000万円未満	1 000 ～ 3 000万円未満	3 000 ～ 5 000万円未満	5 000 ～ 8 000万円未満	8 000 ～ 1 0 000万円未満	1 0 000万円以上	わからない・答えたくない

非 上 場	1 国内株式に投資する投資信託 Q6で『1.国内株式に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	2 国内債券に投資する投資信託 Q6で『2.国内債券に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	3 外国株式に投資する投資信託 Q6で『3.外国株式に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託 Q6で『4.外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託 Q6で『5.国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	6 外国の不動産投信に投資する投資信託 Q6で『6.外国の不動産投信に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託 Q6で『7.株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託（バランス型）』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
上 場	8 E T F （株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『8.E T F（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	9 国内不動産投信〔Jリート〕 （不動産に投資する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『9.国内不動産投信〔Jリート〕（不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの）』 いずれかを選択した方のみ	→	●	●	●	●	●	●	●
	10 総合計（保有している投資信託の金額の合計）	→	●	●	●	●	●	●	●

<Q8聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q8 投資信託に興味・関心を持ったきっかけや、購入したきっかけとしてあてはまるものを全てお答えください。

- 1 証券会社、銀行などの金融機関の人に勧められて
- 2 証券会社、銀行などの金融機関から送られてきたダイレクトメール（資料や案内状）を見たり、金融機関からの電話案内を聞いて
- 3 講演会やセミナーなどで、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 4 投資信託の商品広告などを見て
- 5 投資信託に関する本や記事などを見て
- 6 インターネットで投資信託について見たり調べたりして
- 7 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報を通じて
- 8 YouTube等の動画配信を観て
- 9 家族などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 10 友人・知人から、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 11 少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）があるから
- 12 確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った
- 13 景気や市場（相場）の状況を見て
- 14 経済的に余裕ができたので
- 15 「老後2000万円」に関する各種報道を受けて
- 16 ポイントで投資/運用ができることを知って
- 17 その他

<Q9聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q9 どのような目的で投資信託を購入しましたか。あてはまるものを全てお答えください。

■ **1** 結婚資金、住宅資金等、ライフイベントの支払いに備えるため

■ **2** 高額商品の購入資金

■ **3** レジャー資金

■ **4** 老後の生活資金

■ **5** 子供又は孫のための教育などの資金

■ **6** 子供や孫に十分な資産を残したいため

■ **7** 資産のリスク分散

■ **8** 金融・経済・投資の勉強のため

■ **9** 不測の事態（病気、失業、自然災害など）への備え

■ **10** 投資で社会を良くすることができるため（ESG投資）

■ **11** FIRE（経済的自立・早期リタイア）のため

■ **12** その他

■ **13** 特に目的はないが資金を増やしたいため

<Q10聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q10 あなたは、投資信託を購入した際にどのような点を重視しましたか。
重視度の高い項目を、最大で3つまでお答えください。

- 1 過去の運用実績
- 2 値下がりの不安が少ない
- 3 値上がりへの期待
- 4 換金のしやすさ
- 5 分配頻度
- 6 過去の分配金額
- 7 手数料や運用管理費用（信託報酬）の水準
- 8 純資産額の大きさ
- 9 少額から投資できる
- 10 評価会社による評価
- 11 商品内容のわかりやすさ
- 12 社会性が高い企業が投資先である（ESG投資など）
- 13 その他の商品コンセプト（投資対象、投資テーマ、運用方針など）
- 14 その他
- 15 わからない・特にない

<Q11聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q11 あなたが投資信託を購入する時に参考に使っている情報を全てお答えください。

- 1 販売用資料（商品内容のパンフレット）
- 2 目論見書（投資信託説明書）・運用報告書
- 3 投資信託を販売している会社（証券会社、銀行など）のホームページ
- 4 投資信託を運用している会社（アセットマネジメント）のホームページ
- 5 新聞
- 6 投資信託の評価機関（モーニングスターなど）
- 7 投資に関する情報サイト（Yahoo!ファイナンスなど）
- 8 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報
- 9 YouTube等の動画配信
- 10 その他のインターネットの情報サイト（ファイナンシャルプランナーや個人投資家のブログなど）
- 11 雑誌
- 12 投資信託や資産運用に関する本
- 13 テレビ番組
- 14 投資や資産形成に関するセミナーなど（会場での開催）
- 15 投資や資産形成に関するセミナーなど（オンラインでの開催）
- 16 金融機関（証券会社、銀行など）の担当者の話
- 17 親族や知人、友人の話
- 18 その他
- 19 特になし

Q12 次にあげる投資信託の特徴の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 M R F は投資信託商品である
- 2 国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある
- 3 価格の変動があり、その他に外国に投資するものには為替リスクがある
- 4 リスクとリターンは表裏一体の関係にある（高いリターンを得ようとすれば、高いリスクを伴う）
- 5 過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない
- 6 元本の保証はない
- 7 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
- 8 投資信託は、信託銀行で分別管理されている
※ 分別管理とは、信託銀行が、自行と顧客の資産を分けて保管・管理することです
- 9 投資信託は、運用会社が運用している
- 10 販売手数料とは別に運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 11 投資信託の評価を行う会社がある
- 12 NISA（少額投資非課税制度）やDC（確定拠出年金）で投資信託が購入できる
- 13 ポイントで投資信託に投資/運用できる
- 14 インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる
- 15 1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる
- 16 金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる
- 17 この中で知っているものはない

<Q13聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q13 次における投資信託の「分配金」の特徴について、知っているものを全てお答えください。

- 1 一般的に分配金額は、預金の利率のようにあらかじめ決まっているものではなく、運用成績によって変動する
- 2 分配金は投資信託の決算ごとに支払われる
- 3 投資信託の運用成績が良くないときには、分配金額が下がったり、支払われない場合がある
- 4 分配金として元本の一部が払い戻されることもある
- 5 分配金が支払われた額だけ、基準価額（投資信託の値段）が下がる
- 6 分配金の取扱いを「再投資」としても税金がかかる
- 7 この中で知っているものはない

<Q14聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q14 投資信託を売却したり、あるいは償還によって得たお金は、何に使いましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 すぐに株式、債券など、投資信託以外の金融商品を購入した
- 2 すぐに他の投資信託を購入した
- 3 次に金融商品を購入する機会を何う為（待つ為）、預貯金・MRFなどにまわした
- 4 生活資金として引き出した
- 5 まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く
- 6 その他
- 7 売却したことはない、償還によってお金を得たことはない

<Q15聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q15 あなたは、他の金融商品と比較した場合、どのような面で投資信託が優れていると考えますか。あてはまるものを全てお答えください。

※ 「他の金融商品」とは、投資信託を除いた株式、債券、FXなどを指します。預貯金や不動産は含みません。

- 1 少額でも分散投資ができる
- 2 少額でも投資の面白味がある
- 3 専門知識や時間がなくても投資ができる（専門家に銘柄選定や運用をお任せできる）
- 4 種類が豊富で目的に応じたものが選べる
- 5 比較的高い利回りが期待できる
- 6 積立投資ができる
- 7 分配金が自動的に再投資される商品がある
- 8 定期的に分配金が受け取れる
- 9 購入後の運用に関する情報が多い（運用報告書などが充実している）
- 10 購入手続きが簡単である
- 11 外国への投資が手軽にできる
- 12 手数料が比較的安い
- 13 その他
- 14 わからない・特にない

<Q16聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q16 では、他の金融商品と比較した場合、投資信託で不満を感じるのどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 仕組みや運用手法がわかりにくい
- 2 専門知識がないと商品を選びにくい
- 3 リターン（収益）が低い
- 4 株式に比べて面白さに欠ける
- 5 公社債に比べてリスクが高い
- 6 購入後の運用に関する情報が少ない
- 7 手続きがわずらわしい
- 8 手数料が比較的高い
- 9 種類が多く選択に迷う
- 10 クローズド期間（換金・解約できない期間）がある
- 11 高い利回りを期待できる一方で元本保証がない
- 12 金融機関によって取り扱っていない商品がある
- 13 その他
- 14 わからない・特にない

Q17 投資信託は、「運用会社」が商品の設定・運用を行っていますが、投資信託を購入する場合、あなたは「運用会社」のどのような点を重視しますか。

- ※ 運用会社が直接販売を行っている場合もあります。
- ※ 証券会社や銀行などは販売会社として、運用会社から委託を受けて投資信託の販売を行っています。
- ※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

- 1 知名度が高い
- 2 資本力が大きい
- 3 運用実績・成績が高い
- 4 運用体制が充実している
- 5 商品開発力がある
- 6 提供している資料や情報が分かりやすく充実している
- 7 販売会社を通さずに、直接購入できる
- 8 アフターサービスが充実している
- 9 販売会社（証券会社や銀行）などのグループ企業である
- 10 販売会社の系列ではなく、独立系企業である
- 11 外資系企業である
- 12 倫理観が高い
- 13 顧客対応が公平である
- 14 ESG・SDGsに力を入れている
- 15 その他
- 16 わからない・特になし

<Q18聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q18 現在あなたは、投資信託の積立投資を利用していますか。（「つみたてNISA」や「確定拠出年金」を含みます。）

- 1 利用している
- 2 利用していない

Q19 投資信託の積立投資プランについて、知っている内容はどのようなことですか。

- 1 少額から利用できること
- 2 自動引き落としが利用でき、そのつど申し込む必要がないこと
- 3 ドル・コスト平均法の効果が得られること
- 4 長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること
- 5 つみたてNISAや確定拠出年金等の税制優遇制度の中でも活用できること
- 6 その他に知っている内容
- 7 積立投資プランがあることを知らない

<Q20聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 確定拠出年金や財形貯蓄を通じての購入も含めて、お答えください。

Q20 現在あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）を保有していますか。

- 1 保有している
- 2 保有していない
- 3 わからない・答えたくない

添付資料：調査票

Q21 あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）に魅力を感じますか。

- 1 魅力を感じる
- 2 やや魅力を感じる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり魅力を感じない
- 5 魅力を感じない

<Q22聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じる層(Q21=1~2)>

Q22 毎月分配型の投資信託に魅力を感じる理由はなんですか。

- 1 毎月利益を確定したいので
- 2 分配金を受け取ることで安心できるので
- 3 元本の一部払戻しの分配金であっても、年金収入を補完する上で活用できると思うので
- 4 毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった
- 5 その他

<Q23聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じていない層(Q21=3~5)>

Q23 毎月分配型の投資信託に魅力を感じない理由はなんですか。

- 1 分配金は必要ではないので
- 2 長期投資に合わないので
- 3 複利効果が得られないので
- 4 分配金額が変動する場合があるので
- 5 分配金が少ないので
- 6 分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので
- 7 分配金の額だけ基準価額が下がるので
- 8 その他

<Q24聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q24 あなたは、現在または過去に保有していた投資信託の「トータルリターン」を把握していますか。

※ 「トータルリターン」とは、投資信託の投資期間全体の損益（分配金込み、買付手数料等差し引き後）をいいます。

- 1 把握している
- 2 把握していない

Q25 次における投資信託のコストに関する項目の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

【購入時手数料】

- 1 投資信託を購入するときに、購入時手数料がかかる
- 2 購入時手数料が、かからない投資信託がある（ノーロードファンド）
- 3 購入時手数料は証券会社や銀行などの販売会社に支払われる
- 4 同じ投資信託でも販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある

【運用管理費用】

- 5 投資信託の保有中、運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 6 運用管理費用（信託報酬）は投資信託財産から日々差し引かれる

【信託財産留保額】

- 7 解約時に信託財産留保額がかかる投資信託がある
- 8 信託財産留保額は換金に必要な事務手数料を賄うという意味で徴収され、信託財産に留保される
- 9 信託財産留保額は販売会社や運用会社などが受け取る手数料ではない
- 10 色々なコストがあり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない

<Q26聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q26 あなたが投資信託を購入したことがない理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 投資の知識がないので
- 2 投資信託の存在を知らなかったので
- 3 投資信託の仕組みがよくわからないので
- 4 元本保証がないので
- 5 損をしそうで怖いので
- 6 まとまった資金がないので
- 7 手数料など費用が高いので
- 8 商品の種類が多く自分では選択できないので
- 9 購入するのに手間がかかるので
- 10 投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいいから
- 11 家族から投資について良い話を聞かないから
- 12 友人・知人から投資について良い話を聞かないから
- 13 なんとなく機会がなかったため
- 14 そもそも興味がないので
- 15 その他

<Q27聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q27 あなたが、投資信託の購入を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

- 1 家族に勧められたら
- 2 友人・知人に勧められたら
- 3 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 4 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 5 金融や投資を勉強して理解できたら
- 6 貯蓄が一定額に達したら
- 7 手取り収入が増えたら
- 8 退職金・相続などでの臨時収入があったら
- 9 低リスクの投資信託商品が充実してきたら
- 10 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら
- 11 少額で積立てができる商品が充実してきたら
- 12 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 13 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら
- 14 職場で確定拠出年金や職場つみたてNISA等の利用環境が整備されたら
- 15 保有しているポイントで投資/運用ができるなら
- 16 その他

添付資料：調査票

Q28 次のような「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に投資したいと思いませんか。
購入したいと思うものをいくつかもお答えください。

- 1 「貧困・飢餓問題」に取り組む企業
- 2 「医療・福祉の充実」に取り組む企業
- 3 「教育格差の是正」に取り組む企業
- 4 「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」に取り組む企業
- 5 「環境問題の改善」に取り組む企業
- 6 「再生エネルギーの普及」に取り組む企業
- 7 その他
- 8 購入したいと思うものはない

Q29 これまでに、お金の話にふれたことはありますか。あてはまるものを全てお答えください。
また、そのうち一番良かったと思うものを1つあげてください。
(お金の話にふれたことがない方は、一番良さそうに思うものをお答えください)

	1 これまで、お金の話にふれたことがない	2 一番良かったと思うもの／一番良さそうに思うもの
1 勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 高校や大学での講義	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ファイナンシャルプランナー（FP）への相談	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 金融機関が主催のセミナー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 金融機関以外が主催のセミナー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 その他 <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 あてはまるものはない／お金の話にふれたことがない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

添付資料：調査票

Q30 あなたご自身が現在加入等している制度について伺います。

老後の資産形成として、公的年金以外（国民年金、厚生年金以外）で、最も重視しているものをお選びください。

- 1 企業型確定給付年金（DB）
- 2 企業型確定拠出年金（DC）
- 3 退職一時金制度
- 4 退職等年金給付
- 5 個人型確定拠出年金（iDeCo）
- 6 国民年金基金（国民年金に上積みして、任意に加入する制度。公的年金のみの場合は含みません）
- 7 小規模企業共済
- 8 国民年金付加保険料
- 9 個人年金保険
- 10 厚生年金基金（厚生年金に上積みして、任意に加入する制度。公的年金のみの場合は含みません。＊現在は実質廃止となっている。）
- 11 その他
- 12 あてはまるものはない